

2011(平成23)年度

講義計画と内容

教育学研究科

目 次

I. 2011（平成23年度）大学院教育学研究科 授業日程	1
II. 大学院教育学研究科の成績評価基準について	2
III. 試験時の不正行為について	3
IV. 授業科目表	4
V. 講義内容	
総合教育科学専攻	
基礎教育学専修	
基礎教育学コース	13
教育社会科学専修	
比較教育社会学コース	25
生涯学習基盤経営コース	36
大学経営・政策コース	44
心身発達科学専修	
教育心理学コース	51
臨床心理学コース	64
身体教育学コース	79
連携分野	86
学校教育高度化専攻	
教職開発コース	89
教育内容開発コース	103
学校開発政策コース	122
vi. 教員のオフィスアワー及び連絡方法一覧	130
vii. 地図	141

2011（平成23）年度 大学院教育学研究科授業日程

進 入 学 者 ガ イ ダ ン ス 4 月 4 日（月）

【 夏 学 期 】

授 業 4 月 5 日（火）～ 7 月 22 日（金）

夏 学 期 修 了 試 験 授業の最終日に行う。

授 業（補講・集中講義） 7 月 25 日（月）～ 7 月 29 日（金）

夏 季 休 業 7 月 30 日（土）～ 9 月 30 日（金）

休 講 4 月 12 日（火）（入学式）

5 月 27 日（金）午後～5 月 28 日（土）

（五月祭準備・実施）

1 月 13 日（金）午後（センター試験準備）

1 月 14 日（土）（センター試験）

履 修 登 録 期 間 4 月 18 日（月）～ 4 月 22 日（金）

【 冬 学 期 】

授 業 10 月 3 日（月）～ 12 月 16 日（金）

授 業（補講・集中講義） 12 月 19 日（月）～ 12 月 22 日（木）

冬 季 休 業 12 月 23 日（金）～ 1 月 10 日（火）

授 業 1 月 11 日（水）～ 2 月 9 日（木）

学 年 末 修 了 試 験 授業の最終日に行う。

履 修 登 録 期 間 10 月 11 日（火）～ 10 月 17 日（月）

【 修士論文日程 】

修士論文題目届提出期間 12 月 1 日（木）～ 12 月 7 日（水）

修士論文提出期間 1 月 5 日（木）～ 1 月 12 日（木）16：30

修士論文要旨提出期間 1 月 5 日（木）～ 1 月 16 日（月）16：30

〔 授業時間帯 〕

第1時限 8：30～10：10

第2時限 10：20～12：00

第3時限 13：10～14：50

第4時限 15：00～16：40

第5時限 18：00～19：40

（土曜日及び集中講義期間中は16：50～18：30）

※授業（補講・集中講義）の期間中は、通常の授業は行わない。

成績評価基準について

本研究科の成績評価は、以下の基準に基づいて行なわれます。

評価	基 準
優	授業の科目目標となっている課題を十分に満たす、優秀な学習・研究成果を示した。
良	授業の科目目標となっている課題を満たす学習・研究成果を示した。
可	授業の科目目標となっている課題に関して、ある程度の学習・研究成果を示した。
不可	授業の科目目標となっている課題に関して、評価できる学習・研究成果を示すことができなかった。

試験時の不正行為について

1. 筆記試験による場合

試験は公正に行われるべきであり、不正行為は許されない。

不正行為を行ったと認められた者は、その学期の全科目の得点を無効とされ、学生処分の対象となる。

2. 平常点による場合

授業中に不正行為を行ったと認められた者も、試験の際の不正行為と同様、その学期の全科目の得点を無効とされ、学生処分の対象となる。

3. レポートによる場合

科目によっては学生が提出したレポートに基づいて成績の評価を行うことがある。その際、教員から特別な指示がない限り、レポートは学生個人が自己の責任において作成するものである。レポートで他の文章やデータ、URL を引用する場合は、引用符などで引用箇所を明示し、出典を明記しなければならない。これに反する不正行為が認められた場合は、当該レポートが無効と判定されるだけでなく、試験の際の不正行為と同様、その学期の全科目の得点を無効とされ、学生処分の対象となる。またレポート提出者のみならず、不正なレポート作成に協力した者も、同様に取り扱われる。

教育学研究科授業科目表

〔自 2011 年 4 月
至 2012 年 3 月〕

総合教育科学専攻

基礎教育学専修

基礎教育学コース

〔備考欄の*印は、基礎教育学コース所属学生に限る。〕

科目 番号	授 業 科 目	講 義 題 目	単 位 数	学期	担当教員		備 考
					職 名	氏 名	
211-01	教育哲学基本研究	知識論・学問論	2	夏	教 授	金森 修	
211-02	教育哲学基本研究	教育哲学基本演習	2	夏	教 授	今井 康雄	
211-03	教育人間学基本研究	教育思想演習	2	夏	教 授	小玉 重夫	
211-04	教育人間学基本研究	教育人間学基本演習	2	夏	准教授	片山 勝茂	
211-05	教育史基本研究	西洋教育史演習Ⅰ	2	夏	教 授	川本 隆史	
211-06	教育史基本研究	日本教育史演習Ⅰ	2	夏	准教授	小国 喜弘	
211-07	教育臨床学基本研究	教育臨床学基本演習	2	夏	教 授	田中 智志	
211-08	教育哲学特殊研究	知識論・学問論演習	2	冬	教 授	金森 修	
211-09	教育哲学特殊研究	教育哲学特殊研究	2	冬	教 授	今井 康雄	
211-10	教育人間学特殊研究	教育政治学演習	2	冬	教 授	小玉 重夫	
211-11	教育人間学特殊研究	教育人間学特殊研究	2	冬	准教授	片山 勝茂	
211-12	教育史特殊研究	西洋教育史演習Ⅱ	2	冬	教 授	川本 隆史	
211-13	教育臨床学特殊研究	日本教育史演習Ⅱ	2	冬	准教授	小国 喜弘	
211-14	教育史特殊研究	比較教育社会史と帝制期ロシアの教育構造	2	夏	非常勤 講師	橋本 伸也	
211-15	教育臨床学特殊研究	教育臨床学演習	2	冬	教 授	田中 智志	
211-16	基礎教育学特殊研究	基礎教育学総合演習	2	夏冬	教 授 教 授 教 授 教 授 教 授 准教授 准教授	川本 隆史 金森 修 今井 康雄 小玉 重夫 田中 智志 片山 勝茂 小国 喜弘	* 隔週
211-17	教育哲学論文指導	知識論・学問論論文指導	2	夏冬	教 授	金森 修	* 隔週
211-18	教育哲学論文指導	教育哲学論文指導	2	夏冬	教 授	今井 康雄	* 隔週
211-19	教育人間学論文指導	教育思想論文指導	2	夏冬	教 授	小玉 重夫	* 隔週
211-20	教育人間学論文指導	障害学論文指導	2	冬	教 授	福島 智	
211-21	教育人間学論文指導	教育人間学論文指導	2	夏冬	准教授	片山 勝茂	* 隔週
211-22	教育史論文指導	西洋教育史論文指導	2	夏冬	教 授	川本 隆史	* 隔週
211-23	教育史論文指導	日本教育史論文指導	2	夏冬	准教授	小国 喜弘	* 隔週
211-24	教育臨床学論文指導	教育臨床学論文指導	2	夏冬	教 授	田中 智志	* 隔週

総合教育科学専攻
教育社会科学専修
比較教育社会学コース

〔備考欄の＊印は、比較教育社会学コース所属学生に限る。〕

科目 番号	授 業 科 目	講 義 題 目	単 位 数	学期	担当教員		備 考
					職 名	氏 名	
212-01	比較教育学基本研究	質的方法論研究Ⅰ	2	夏	教 授	恒吉 僚子	
212-02	比較教育学基本研究	教育人類学Ⅰ	2	夏	教 授	白石 さや	
212-03	比較教育システム論基本研究	教育社会学の諸概念	2	夏	准教授	中村 高康	
212-04	比較教育システム論特殊研究	教育と選抜の諸問題	2	冬	准教授	中村 高康	
212-05	高等教育論基本研究	高等教育の社会学Ⅰ	2	夏	教 授	橋本 鉦市	
212-06	高等教育論特殊研究	高等教育の社会学Ⅱ	2	冬	教 授	橋本 鉦市	
212-07	高等教育論基本研究	現代日本社会における教育・仕事・家族	2	夏	教 授	本田 由紀	
212-08	教育社会学特殊研究	教育社会学の研究課題	2	冬	教 授	本田 由紀	
212-09	教育社会学特殊研究	教育社会の計量分析	2	夏	准教授	佐藤 香	
212-10	比較教育学特殊研究	質的方法論研究Ⅱ	2	夏	教 授	恒吉 僚子	
212-11	比較教育学特殊研究	教育人類学Ⅱ	2	冬	教 授	白石 さや	
212-12	教育社会学特殊研究	社会科学における数量的データの応用分析	2	夏	非常勤講師	石田 浩	
212-13	教育社会学特殊研究	教育調査の計量分析	2	冬	非常勤講師	加藤 毅	
212-14	比較教育学特殊研究	教育におけるシステム論の可能性	2	冬	非常勤講師	石戸 教嗣	集中講義
212-15	教育社会学特殊研究	差別と攻撃の再生産構造をか んがえる	2	夏	非常勤講師	ましこ ひで のり	集中講義
212-16	教育社会学特殊研究	多文化共生のためのエスノグ ラフィ	2	冬	非常勤講師	結城 恵	
212-17	比較教育学論文指導	比較教育学論文指導	2	夏冬	教 授	白石 さや	＊隔週
212-18	比較教育学論文指導	比較教育学論文指導	2	夏冬	教 授	恒吉 僚子	＊隔週
212-19	教育社会学論文指導	教育社会学論文指導	2	夏冬	教 授	本田 由紀	＊隔週
212-20	教育社会学論文指導	計量教育社会学論文指導	2	夏	准教授	佐藤 香	＊
212-21	比較教育システム論論文指導	比較教育システム論論文指導	2	夏冬	准教授	中村 高康	＊隔週
212-22	高等教育論論文指導	高等教育論論文指導	2	夏冬	教 授	橋本 鉦市	＊隔週

総合教育科学専攻
教育社会科学専修
生涯学習基盤経営コース

〔備考欄の＊印は、生涯学習基盤経営コース所属学生に限る。〕

科目 番号	授 業 科 目	講 義 題 目	単 位 数	学期	担当教員		備 考
					職 名	氏 名	
213-01	生涯学習論基本研究	生涯学習論基本研究Ⅰ	2	夏	准教授	李 正連	
213-02	生涯学習論基本研究	生涯学習論基本研究Ⅱ	2	冬	准教授	李 正連	

213-03	図書館情報学基本研究	探究学習のための情報環境構築	2	夏	教 授	根本 彰	
213-04	図書館情報学基本研究	図書館情報学研究方法論	2	夏	教 授	影浦 峽	
213-05	社会教育学特殊研究	教育学における質的研究	2	夏	非常勤講師	大谷 尚	集中講義
213-06	生涯学習論特殊研究	社会教育実践への学習論的接近	2	冬	非常勤講師	宮崎 隆志	集中講義
213-07	図書館情報学特殊研究	出版文化論	2	夏	非常勤講師	海野 敏	
213-08	生涯学習論特殊研究	生涯学習論特殊研究Ⅰ	2	夏	教 授	牧野 篤	
213-09	生涯学習論特殊研究	生涯学習論特殊研究Ⅱ	2	冬	教 授	牧野 篤	
213-10	図書館情報学特殊研究	図書館情報学理論研究	2	冬	教 授	根本 彰	
213-11	図書館情報学特殊研究	情報媒体構造論	2	冬	教 授	影浦 峽	
213-12	生涯学習論論文指導	生涯学習論論文指導	2	夏冬	教 授 准教授	牧野 篤 李 正連	* 隔週
213-13	図書館情報学論文指導	図書館情報学論文指導	2	夏冬	教 授	根本 彰	* 隔週
213-14	図書館情報学論文指導	図書館情報学論文指導	2	夏冬	教 授	影浦 峽	* 隔週

総合教育科学専攻

教育社会科学専修

大学経営・政策コース

〔備考欄の*印は、大学経営政策コース所属学生に限る。〕

科目 番号	授 業 科 目	講 義 題 目	単 位 数	学 期	担当教員		備 考
					職 名	氏 名	
214-01	大学経営政策基本研究	高等教育政策論（1）	2	冬	准教授	小方 直幸	
214-02	大学経営政策基本研究	高等教育論（1）	2	夏	准教授	小方 直幸	
214-03	大学経営政策基本研究	大学財務会計論（1）	2	冬	教 授	山本 清	
214-04	大学経営政策基本研究	大学経営政策基礎演習（1）	2	夏冬	教 授 准教授 講 師	山本 清 小方 直幸 両角 亜希子	* 隔週
214-05	大学経営政策基本研究	大学経営政策研究（1）	2	夏	教 授	山本 清	
214-06	大学経営政策特殊研究	大学経営政策各論（1）	2	夏	講 師	両角 亜希子	
214-07	大学経営政策特殊研究	大学経営政策各論（2）	2	冬	教 授	山本 清	
214-08	大学経営政策特殊研究	大学経営事例研究（1）	2	冬	講 師	両角 亜希子	集中講義
214-09	大学経営政策特殊研究	比較大学経営論（1）	2	夏	非常勤講師	水田 健輔	* 集中講義
214-10	大学経営政策特殊研究	高等教育政策の計量分析（1）	2	冬	教 授	小林 雅之	*
214-11	大学経営政策特殊研究	高等教育調査の方法と解析（1）	2	夏	非常勤講師	大多和 直樹	*
214-12	大学経営政策特殊研究	アメリカの高等教育（1）	2	冬	非常勤講師	丸山 文裕	
214-13	大学経営政策論文指導	大学経営政策論文指導	2	夏冬	教 授 准教授 講 師	山本 清 小方 直幸 両角 亜希子	* 隔週

総合教育科学専攻
心身発達科学専修
教育心理学コース

〔備考欄の＊印は、教育心理学コース所属学生に限る。〕

科目 番号	授 業 科 目	講 義 題 目	単 位 数	学期	担当教員		備 考
					職 名	氏 名	
215-01	教授・学習心理学基本研究	授業の心理学	2	夏	教 授	秋田 喜代美	教職開発コース・教育内容開発コースとの合併科目
215-02	教育情報科学基本研究	認知と教育	2	夏	教 授	市川 伸一	
215-03	教育情報科学基本研究	心理統計学概論	2	夏	教 授	南風原 朝和	
215-04	教育情報科学基本研究	心理統計学の諸問題Ⅰ	2	夏	教 授	南風原 朝和	
215-05	発達心理学基本研究	感情と進化・文化	2	夏	准教授	遠藤 利彦	
215-06	発達心理学基本研究	ことばと認知の発達Ⅰ	2	夏	准教授	針生 悦子	
215-07	教育認知科学基本研究	生態心理学Ⅰ	2	夏	教 授	佐々木 正人	
215-08	教育認知科学基本研究	創造的認知の心理学Ⅰ	2	夏	教 授	岡田 猛	
215-09	教授・学習心理学特殊研究	保育学研究	2	夏	教 授	秋田 喜代美	教職開発コースとの合併科目
215-10	教授・学習心理学特殊研究	授業における学習研究	2	冬	教 授	秋田 喜代美	教職開発コース・教育内容開発コースとの合併科目
215-11	教授・学習心理学特殊研究	教授・学習過程	2	冬	教 授	市川 伸一	
215-12	教育情報科学特殊研究	心理統計学の諸問題Ⅱ	2	冬	教 授	南風原 朝和	
215-13	発達心理学特殊研究	関係性と子どもの社会情緒的発達	2	冬	准教授	遠藤 利彦	
215-14	発達心理学特殊研究	ことばと認知の発達Ⅱ	2	冬	准教授	針生 悦子	
215-15	教育認知科学特殊研究	生態心理学Ⅱ	2	冬	教 授	佐々木 正人	
215-16	教育認知科学特殊研究	創造的認知の心理学Ⅱ	2	冬	教 授	岡田 猛	
215-17	教育情報科学特殊研究	テスト理論とその展開：学力テスト・心理テストの尺度構成法	2	夏	非常勤講師	荘島 宏二郎	
215-18	教育情報科学特殊研究	共分散構造分析—構造方程式モデリング—	2	冬	非常勤講師	豊田 秀樹	
215-19	教育認知科学特殊研究	生態学的コミュニケーション論	2	冬	非常勤講師	古山 宣洋	
215-20	教授・学習心理学論文指導	教育心理学論文指導	2	夏冬	教 授	秋田 喜代美	＊隔週
215-21	教授・学習心理学論文指導	教育心理学論文指導	2	夏冬	教 授	市川 伸一	＊隔週
215-22	教育情報科学論文指導	教育心理学論文指導	2	夏冬	教 授	南風原 朝和	＊隔週
215-23	発達心理学論文指導	教育心理学論文指導	2	夏冬	准教授	遠藤 利彦	＊隔週
215-24	発達心理学論文指導	教育心理学論文指導	2	夏冬	准教授	針生 悦子	＊隔週
215-25	教育認知科学論文指導	教育心理学論文指導	2	夏冬	教 授	佐々木 正人	＊隔週
215-25	教育認知科学論文指導	教育心理学論文指導	2	夏冬	教 授	岡田 猛	＊隔週

総合教育科学専攻
心身発達科学専修
臨床心理学コース

[備考欄の＊印は、臨床心理学コース所属学生に限る。]

科目 番号	授 業 科 目	講 義 題 目	単 位 数	学期	担当教員		備 考
					職 名	氏 名	
216-01	臨床心理システム論基本研究	臨床心理実習Ⅰ	1	夏	教 授 教 授	下山 晴彦 中釜 洋子	＊修士２年 必須
216-02	臨床心理システム論基本研究	臨床心理実習Ⅱ	1	冬	教 授 教 授	下山 晴彦 中釜 洋子	＊修士２年 必須
216-03	臨床心理システム論基本研究	臨床心理学特論Ⅱ	2	冬	准教授	高橋 美保	＊修士１年 必須
216-04	臨床心理システム論基本研究	臨床心理面接特論Ⅱ	2	冬	准教授	能智 正博	＊修士１年 必須
216-05	臨床心理カリキュラム論基本 研究	臨床心理学特論Ⅰ	2	夏	教 授	中釜 洋子	＊修士１年 必須
216-06	臨床心理カリキュラム論基本 研究	臨床心理査定演習Ⅰ	2	夏	教 授	下山 晴彦	＊修士１年 必須
216-07	臨床心理カリキュラム論基本 研究	臨床心理基礎実習Ⅰ	1	夏	教 授 教 授	下山 晴彦 中釜 洋子	＊修士１年 必須
216-08	発達臨床心理学基本研究	臨床心理面接特論Ⅰ	2	冬	教 授 教 授 准教授	下山 晴彦 中釜 洋子 高橋 美保	＊修士１年 必須
216-09	発達臨床心理学基本研究	臨床心理査定演習Ⅱ	2	夏	准教授 准教授	能智 正博 高橋 美保	＊修士１年 必須
216-10	発達臨床心理学基本研究	臨床心理基礎実習Ⅱ	1	冬	教 授 准教授	中釜 洋子 高橋 美保	＊修士１年 必須
216-11	臨床心理システム論特殊研究	家族心理学特論	2	夏	教 授	中釜 洋子	
216-12	臨床心理システム論特殊研究	産業臨床心理学特論	2	冬	准教授	高橋 美保	
216-13	臨床心理システム論特殊研究	家族相談演習Ⅰ	2	夏	非常勤 講 師	北島 歩美	＊
216-14	臨床心理システム論特殊研究	家族相談演習Ⅱ	2	冬	非常勤 講 師	北島 歩美	＊
216-15	臨床心理システム論特殊研究	心理療法特論	2	夏	非常勤 講 師	五十嵐 透子	集中講義
216-16	臨床心理システム論特殊研究	コミュニティアプローチ特論 Ⅰ	2	夏	非常勤 講 師	芳川 玲子	＊隔週
216-17	臨床心理システム論特殊研究	コミュニティアプローチ特論 Ⅱ	2	冬	非常勤 講 師	芳川 玲子	＊隔週
216-18	発達臨床心理学特殊研究	老年期の心理臨床Ⅰ	2	夏	非常勤 講 師	松澤 広和	＊隔週
216-19	発達臨床心理学特殊研究	老年期の心理臨床Ⅱ	2	冬	非常勤 講 師	松澤 広和	＊隔週
216-20	発達臨床心理学特殊研究	障害の心理と援助Ⅰ	2	夏	教 授	下山 晴彦	＊
216-21	発達臨床心理学特殊研究	障害の心理と援助Ⅱ	2	冬	教 授	下山 晴彦	＊
216-22	臨床心理カリキュラム論特殊 研究	臨床心理学研究法	2	夏	准教授	能智 正博	
216-23	発達臨床心理学特殊研究	発達臨床心理学特論	2	夏	非常勤 講 師	林 もも子	集中講義
216-24	発達臨床心理学特殊研究	心理療法特論：スーパービジョ ンⅠ	2	夏	非常勤 講 師	倉光 修	＊

216-25	発達臨床心理学特殊研究	心理療法特論：スーパービジョンⅡ	2	冬	非常勤講師	倉光 修	*
216-26	臨床心理システム論論文指導	臨床心理学論文指導	2	夏冬	教授	中釜 洋子 星加 良司	* 隔週
216-27	発達臨床心理学論文指導	臨床心理学論文指導	2	夏冬	教授	下山 晴彦	* 隔週
216-28	臨床心理カリキュラム論論文指導	臨床心理学論文指導	2	夏冬	准教授	能智 正博	* 隔週
216-29	発達臨床心理学論文指導	臨床心理学論文指導	2	夏冬	准教授	高橋 美保	* 隔週

総合教育科学専攻

心身発達科学専修

身体教育学コース

〔備考欄の*印は、身体教育学コース所属学生に限る。〕

科目 番号	授 業 科 目	講 義 題 目	単 位 数	学期	担当教員		備 考
					職 名	氏 名	
217-01	身体教育学基本研究	身体教育学の諸問題Ⅰ	2	夏	准教授	野崎 大地	
217-02	教育生理学基本研究	身体システム論Ⅰ	2	夏	教授	山本 義春	
217-03	発達脳科学基本研究	発達脳科学特論Ⅰ	2	夏	教授	多賀 厳太郎	
217-04	健康教育学基本研究	健康教育学の諸問題Ⅰ	2	夏	教授	佐々木 司	
217-05	身体教育学特殊研究	身体教育学の諸問題Ⅱ	2	冬	准教授	野崎 大地	
217-06	教育生理学特殊研究	身体システム論Ⅱ	2	冬	教授	山本 義春	
217-07	発達脳科学特殊研究	発達脳科学特論Ⅱ	2	冬	教授	多賀 厳太郎	
217-08	健康教育学特殊研究	健康教育学の諸問題Ⅱ	2	冬	教授	佐々木 司	
217-09	身体教育学論文指導	身体教育学論文指導	2	夏冬	准教授	野崎 大地	* 隔週
217-10	教育生理学論文指導	教育生理学論文指導	2	夏冬	教授	山本 義春	* 隔週
217-11	発達脳科学論文指導	発達脳科学論文指導	2	夏冬	教授	多賀 厳太郎	* 隔週
217-12	健康教育学論文指導	健康教育学論文指導	2	夏冬	教授	佐々木 司	* 隔週
217-13	教育生理学論文指導	教育生理学論文指導	2	夏冬	准教授	東郷 史治	* 隔週

総合教育科学専攻

連携分野

科目 番号	授 業 科 目	講 義 題 目	単 位 数	学期	担当教員		備 考
					職 名	氏 名	
218-01	比較教育学特殊研究	国際教育政策論	2	夏	客員教授	黒田 一雄	
218-02	大学経営政策論文指導	大学経営政策特論論文指導	2	夏	客員教授	金子 元久	
218-03	臨床心理システム論論文指導	臨床心理学論文指導	2	夏冬	客員教授	中嶋 義文	隔週
218-04	臨床心理カリキュラム論特殊研究	精神医学特論	2	冬	客員教授	中嶋 義文	
218-05	身体教育学特殊研究	精神の生物学	2	夏冬	客員教授	加藤 忠史	

学校教育高度化専攻

教職開発コース

〔備考欄の＊印は、教職開発コース所属学生に限る。〕

科目 番号	授 業 科 目	講 義 題 目	単 位 数	学期	担当教員		備 考
					職 名	氏 名	
301-01	教 職 開 発 ・ 理 論 研 究 (授業研究・基礎研究)	授業の心理学	2	夏	教 授	秋田喜代美	教育心理学コース・教育内容開発コースとの併科科目
301-02	教 職 開 発 ・ 理 論 研 究 (授業研究・基礎研究)	学習科学による授業研究	2	冬	非常勤講師	白水 始	集中講義 教育内容開発コースとの併科科目
301-03	教 職 開 発 ・ 理 論 研 究 (授業研究・発展研究)	授業分析の方法と課題	2	夏	非常勤講師	的場 正美	集中講義 教育内容開発コースとの併科科目
301-04	教 職 開 発 ・ 理 論 研 究 (カリキュラム研究・発展研究)	教職専門性の研究	2	冬	教 授	佐藤 学	教育内容開発コースとの併科科目
301-05	教 職 開 発 ・ 理 論 研 究 (授業研究・発展研究)	授業における学習研究	2	冬	教 授	秋田喜代美	教育心理学コース・教育内容開発コースとの併科科目
301-06	教 職 開 発 ・ 実 践 研 究 (授業研究・事例研究)	授業の事例研究	2	冬	教 授	藤江 康彦	教育内容開発コースとの併科科目
301-07	教 職 開 発 ・ 実 践 研 究 (カリキュラム研究・事例研究)	カリキュラムの事例研究	2	夏	教 授	佐藤 学	教育内容開発コースとの併科科目
301-08	教 職 開 発 ・ 実 践 研 究 (カリキュラム研究・実地研究)	カリキュラムの実地研究	2	夏	教 授	佐藤 学	教育内容開発コースとの併科科目
301-09	教 職 開 発 ・ 論 文 指 導 (カリキュラム研究・論文指導)	カリキュラム研究論文指導	2	夏冬	教 授	佐藤 学	＊隔週
301-10	教 職 開 発 ・ 論 文 指 導 (授業研究・論文指導)	授業研究論文指導	2	夏冬	教 授	秋田喜代美	＊隔週 教育内容開発コースとの併科科目
301-11	教 職 開 発 ・ 理 論 研 究 (教職開発・発展研究)	数学的思考の発達と学習過程	2	夏	准教授	藤村 宣之	教育内容開発コースとの併科科目
301-12	教 職 開 発 ・ 理 論 研 究 (教職開発・基礎研究)	ことばの教育と授業	2	夏	非常勤講師	高木 展郎	教育内容開発コースとの併科科目
301-13	教 職 開 発 ・ 実 践 研 究 (教職開発・事例研究)	教職開発事例研究	2	冬	教 授	佐藤 学	教育内容開発コースとの併科科目
301-14	教 職 開 発 ・ 実 践 研 究 (教職開発・事例研究)	数学教育事例研究	2	夏	教 授 准教授	佐藤 学 藤村 宣之	※合同科目 教育内容開発コースとの併科科目
301-15	教 職 開 発 ・ 実 践 研 究 (教職開発・事例研究)	言語教育事例研究	2	夏	教 授 教 授	佐藤 学 高橋 和久	※合同科目 教育内容開発コースとの併科科目
301-16	教 職 開 発 ・ 実 践 研 究 (教職開発・事例研究)	人文社会教育事例研究	2	夏	教 授 教 授	佐藤 学 川本 隆史	※合同科目 教育内容開発コースとの併科科目
301-17	教 職 開 発 ・ 実 践 研 究 (授業研究・実地研究)	授業の実地研究	2	冬	教 授	秋田喜代美	教育内容開発コースとの併科科目
301-18	教 職 開 発 ・ 理 論 研 究 (教職開発・基礎研究)	英語教育・基礎研究	2	夏	教 授	高橋 和久	教育内容開発コースとの併科科目
301-19	教 職 開 発 ・ 理 論 研 究 (教職開発・発展研究)	英語教育・発展研究	2	冬	教 授	高橋 和久	教育内容開発コースとの併科科目
301-20	教 職 開 発 ・ 理 論 研 究 (教職開発・基礎研究)	市民性の教育理論	2	夏	教 授	川本 隆史	教育内容開発コースとの併科科目
301-21	教 職 開 発 ・ 理 論 研 究 (教職開発・発展研究)	保育学研究	2	夏	教 授	秋田喜代美	教育心理学コースとの併科科目
301-22	教 職 開 発 ・ 理 論 研 究 (教職開発・発展研究)	社会系教育開発研究	2	冬	非常勤講師	和井田清司	教育内容開発コースとの併科科目
301-23	教 職 開 発 ・ 理 論 研 究 (教職開発・発展研究)	数学的思考の発達と授業過程	2	冬	准教授	藤村 宣之	教育内容開発コースとの併科科目
301-24	教 職 開 発 ・ 理 論 研 究 (教職開発・発展研究)	英語音声とその指導	2	冬	非常勤講師	松坂ヒロシ	教育内容開発コースとの併科科目
301-25	教 職 開 発 ・ 理 論 研 究 (教職開発・発展研究)	学習科学研究	2	夏冬	教 授	三宅なほみ	隔週 教育内容開発コースとの併科科目
301-26	教 職 開 発 ・ 理 論 研 究 (教職開発・発展研究)	芸術教育の実践研究	2	夏	客員教授	金田 卓也	教育内容開発コースとの併科科目
301-27	教 職 開 発 ・ 理 論 研 究 (教職開発・発展研究)	授業研究の方法	2	夏	客員 准教授	藤江 康彦	集中講義 教育内容開発コースとの併科科目

学校教育高度化専攻

教育内容開発コース

〔備考欄の＊印は、教育内容開発コース所属学生に限る。〕

科目 番号	授 業 科 目	講 義 題 目	単 位 数	学期	担当教員		備 考
					職 名	氏 名	
302-01	教育内容開発・理論研究 (数学・科学教育・基礎研究)	数学的思考の発達と学習過程	2	夏	准教授	藤村 宣之	教職開発コースとの併科科目
302-02	教育内容開発・理論研究 (言語教育・基礎研究)	英語音声とその指導	2	冬	非常勤講師	松坂ヒロシ	教職開発コースとの併科科目
302-03	教育内容開発・理論研究 (言語教育・基礎研究)	英語教育・基礎研究	2	夏	教 授	高橋 和久	教職開発コースとの併科科目
302-04	教育内容開発・理論研究 (言語教育・基礎研究)	ことばの教育と授業	2	夏	非常勤講師	高木 展郎	教職開発コースとの併科科目
302-05	教育内容開発・理論研究 (人文社会教育・基礎研究)	市民性の教育理論	2	夏	教 授	川本 隆史	教職開発コースとの併科科目
302-06	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	学習科学研究	2	夏冬	教 授	三宅なほみ	隔週 教職開発コースとの併科科目
302-07	教育内容開発・理論研究 (数学・科学教育・発展研究)	数学的思考の発達と授業過程	2	冬	准教授	藤村 宣之	教職開発コースとの併科科目
302-08	教育内容開発・理論研究 (言語教育・発展研究)	英語教育・発展研究	2	冬	教 授	高橋 和久	教職開発コースとの併科科目
302-09	教育内容開発・理論研究 (人文社会教育・発展研究)	社会系教育開発研究	2	冬	非常勤講師	和井田清司	教職開発コースとの併科科目
302-10	教育内容開発・実践研究 (数学・科学教育・事例研究)	数学教育事例研究	2	夏	教 授 准教授	佐藤 学 藤村 宣之	※合同科目 教職開発コースとの併科科目
302-11	教育内容開発・実践研究 (言語教育・事例研究)	言語教育事例研究	2	夏	教 授 教 授	佐藤 学 高橋 和久	※合同科目 教職開発コースとの併科科目
302-12	教育内容開発・実践研究 (人文社会教育・事例研究)	人文社会教育事例研究	2	夏	教 授 教 授	佐藤 学 川本 隆史	※合同科目 教職開発コースとの併科科目
302-13	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)	教職開発事例研究	2	冬	教 授	佐藤 学	教職開発コースとの併科科目
302-14	教育内容開発・論文指導 (数学・科学教育・論文指導)	科学技術教育論文指導	2	冬	教 授	金森 修	＊
302-15	教育内容開発・論文指導 (言語教育・論文指導)	授業研究論文指導	2	夏冬	教 授	秋田喜代美	＊隔週 教職開発コースとの併科科目
302-16	教育内容開発・論文指導 (人文社会教育・論文指導)	人文社会教育論文指導	2	夏	教 授	川本 隆史	＊
302-17	教育内容開発・論文指導	教育内容開発・論文指導	2	夏冬	准教授	藤村 宣之	＊隔週
302-18	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・基礎研究)	学習科学による授業研究	2	冬	非常勤講師	白水 始	集中講義 教職開発コースとの併科科目
302-19	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	授業分析の方法と課題	2	夏	非常勤講師	的場 正美	集中講義 教職開発コースとの併科科目
302-20	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	教職専門性の研究	2	冬	教 授	佐藤 学	教職開発コースとの併科科目
302-21	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)	授業の事例研究	2	冬	教 授	秋田喜代美	教職開発コースとの併科科目
302-22	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)	カリキュラムの事例研究	2	夏	教 授	佐藤 学	教職開発コースとの併科科目
302-23	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・実地研究)	カリキュラムの実地研究	2	夏	教 授	佐藤 学	教職開発コースとの併科科目
302-24	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・実地研究)	授業の実地研究	2	冬	教 授	藤江 康彦	教職開発コースとの併科科目
302-25	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・基礎研究)	現代学校改革の諸問題	2	夏	准教授	勝野 正章	学校開発政策コースとの併科科目
302-26	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	教育政策基礎論	2	夏	教 授	大桃 敏行	学校開発政策コースとの併科科目
302-27	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	学校経営と組織論	2	夏	非常勤講師	若林 直樹	集中講義 学校開発政策コースとの併科科目
302-28	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)	教育政策事例研究Ⅰ	2	夏	教 授	大桃 敏行	学校開発政策コースとの併科科目
302-29	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)	教育政策事例研究Ⅱ	2	冬	教 授	大桃 敏行	学校開発政策コースとの併科科目

302-30	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)	学校経営実践の開発Ⅰ	2	夏	准教授	勝野 正章	学校開発政策コースとの合併科目
302-31	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)	学校経営実践の開発Ⅱ	2	冬	准教授	勝野 正章	学校開発政策コースとの合併科目
302-32	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・実地研究)	教育政策実地研究	2	冬	教 授	大桃 敏行	学校開発政策コースとの合併科目
302-33	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・実地研究)	学校経営実地研究	2	冬	准教授	勝野 正章	学校開発政策コースとの合併科目
302-34	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・発展研究)	授業における学習研究	2	冬	教 授	秋田喜代美	教育心理学コース・教職開発コースとの合併科目
302-35	教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・基礎研究)	授業の心理学	2	夏	教 授	秋田喜代美	教育心理学コース・教職開発コースとの合併科目
302-36	教育内容開発・理論研究 (芸術教育・発展研究)	芸術教育の実践研究	2	夏	客員教授	金田 卓也	教職開発コースとの合併科目
302-37	教育内容開発・論文指導 (芸術教育・論文指導)	芸術教育論文指導	2	夏冬	客員教授	金田 卓也	* 隔週
302-38	教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	授業研究の方法	2	夏	客員准教授	藤江 康彦	集中講義 教職開発コースとの合併科目

学校教育高度化専攻

学校開発政策コース

〔備考欄の*印は、学校開発政策コース所属学生に限る。〕

科目 番号	授 業 科 目	講 義 題 目	単 位 数	学期	担当教員		備 考
					職 名	氏 名	
303-01	学校開発政策・理論研究 (教育政策基礎研究)	教育政策基礎論	2	夏	教 授	大桃 敏行	教育内容開発コースとの合併科目
303-02	学校開発政策・理論研究 (学校教育経営基礎研究)	現代学校改革の諸問題	2	夏	准教授	勝野 正章	教育内容開発コースとの合併科目
303-03	学校開発政策・理論研究 (教育政策発展研究)	自治体の政策と組織機構 (自治体行政聴査)	2	冬	教 授	金井 利之	公共政策学教育部・法政治学研究科との合併科目
303-04	学校開発政策・理論研究 (教育政策発展研究)	ケーススタディの方法Ⅰ	2	夏	教 授	中村 圭介	経済学研究科との合併科目
303-05	学校開発政策・理論研究 (教育政策発展研究)	ケーススタディの方法Ⅱ	2	冬	教 授	中村 圭介	経済学研究科との合併科目
303-06	学校開発政策・理論研究 (学校教育経営発展研究)	学校経営と組織論	2	夏	非常勤講師	若林 直樹	集中講義 教育内容開発コースとの合併科目
303-07	学校開発政策・実践研究 (教育政策事例研究)	教育政策事例研究Ⅰ	2	夏	教 授	大桃 敏行	教育内容開発コースとの合併科目
303-08	学校開発政策・実践研究 (教育政策事例研究)	教育政策事例研究Ⅱ	2	冬	教 授	大桃 敏行	教育内容開発コースとの合併科目
303-09	学校開発政策・実践研究 (学校教育経営事例研究)	学校経営実践の開発Ⅰ	2	夏	准教授	勝野 正章	教育内容開発コースとの合併科目
303-10	学校開発政策・実践研究 (学校教育経営事例研究)	学校経営実践の開発Ⅱ	2	冬	准教授	勝野 正章	教育内容開発コースとの合併科目
303-11	学校開発政策・実践研究 (教育政策実地研究)	教育政策実地研究	2	冬	教 授	大桃 敏行	教育内容開発コースとの合併科目
303-12	学校開発政策・実践研究 (学校教育経営実地研究)	学校経営実地研究	2	冬	准教授	勝野 正章	教育内容開発コースとの合併科目
303-13	学校開発政策・論文指導	教育政策研究論文指導	2	夏冬	教 授	大桃 敏行	* 隔週
303-14	学校開発政策・論文指導	学校経営研究論文指導	2	夏冬	准教授	勝野 正章	* 隔週
303-15	学校開発政策・理論研究 (学校教育経営発展研究)	学校法研究	2	夏	客員教授	西原 博史	
303-16	学校開発政策・論文指導	学校法研究論文指導	2	夏冬	客員教授	西原 博史	* 隔週

総合教育科学専攻 基礎教育学専修 基礎教育学コース

科目番号：211-01	担当教員：金森 修	単位数：2	学期：夏
講義題目：知識論・学問論		授業科目：教育哲学基本研究	
Theory of Knowledge			
授業の目標・概要：これから数年間は人間圏の境界領域を巡る一種の哲学・文化史を構築する。今年はその序論的な問題設定として、人間性の幅を広げる文化的因子（その場合、病的なものさえをも含む）の一具体例として、〈ゴシック的なもの〉に注目する。具体的には古典的なゴシック小説を数点、さらにそれを様式概念的に拡張した、より現代的な作品を取り上げる。 なお、最初の回は、情報学環の提供する教室に木曜日 4 時半に集合すること。 情報学環、基礎教育学、学校教育高度化の合併授業になる。 授業計画：具体的にはまず私自身が総論的な案内をして、それで一週間調査週間を設ける。その後、具体的には『イギリスの老男爵』『マंक』『放浪者メルモス』『フランケンシュタイン』『ウィーランド』、エドガー・アラン・ポーの中編、『白衣の女』『ワイルダーの手』『ドリアン・グレイの肖像』『ジキルとハイド』『ドラキュラ』などを取り上げる。そして、〈ゴシック的なもの〉の必須要素についての文化史的・文化誌的な分析を試みる。 授業の方法：授業、初回で指示する。 成績評価方法：参加の度合いで、主として判断する。出席を重視し、原則的には演習で担当週をもってもらいその平常点で評価する 教科書：重要な参考文献として次のものは必ず読んでおくこと 金森修『ゴーレムの生命論』平凡社新書 参考書：授業中に指示する。 履修上の注意：参加・出席を重視する。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ ☐ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ ☐ 履修不可	

科目番号：211-02	担当教員：今井 康雄	単位数：2	学期：夏
講義題目：教育哲学基本演習		授業科目：教育哲学基本研究	
Basic Seminar in Philosophy of Education			
授業の目標・概要：「ウィトゲンシュタインと教育」をテーマとする。 このテーマをめぐる現代の議論の状況を概観するとともに、教育哲学の諸問題を考察する上でウィトゲンシュタイン的視点がいかなる意味を持つかについて理解することを目標とする。 授業計画：日本における議論を概観した後、主に以下の著作の主要論文を講読し討議する。 Smeyers, Paul/Marshall, James D. (eds.) Philosophy and Education: Accepting Wittgenstein's Challenge, Dordrecht / Boston / London: Kluwer Academic Publishers 1995. Peters, Michael A./Burbules, Nicholas C./Smeyers, Paul, Showing and Doing. Wittgenstein as a Pedagogical Philosopher, Boulder / London: Paradigm Publishers 2008. 授業の方法：文献の講読および討議 成績評価方法：平常点によって評価する。 教科書：授業中に指示する。 参考書：授業中に指示する。			
本学他研究科学生		☐ 履修可（名まで）／履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		☐ 履修可（名まで）／履修不可	

科目番号：211-03	担当教員：小玉 重夫	単位数：2	学期：夏
講義題目：教育思想基本演習		授業科目：教育人間学基本研究	
Basic Seminar in Educational Thought			
授業の目標・概要：教育における政治と権力の問題を、ミクロとマクロの視点から複眼的に検討することを課題とし、特に公共性やシティズンシップ（市民性）をめぐる最近の研究動向に留意する。 夏学期は、近年の「新しい公共」を考えるうえでのキーワードである「友愛」に着目して、その思想史的なコンテクストと今日的な課題を深めることを予定している。テキストは以下に記したもののほかに、アガンベンやデリダの友愛論（参加者に配布予定）を考えているが、詳細は相談して決めていきたい。 授業計画：詳細は、初回の授業時（4月5日）に決める。 授業の方法：報告と討論を中心とする。 成績評価方法：ゼミでの報告等による平常点。 教科書：原武史『滝山コミュニー一九七四』（講談社文庫、2010）、小玉重夫『〈教育の公共性〉をどう考えるか：「友だち民主主義」を超えて』（日本図書センター、近刊予定）			
本学他研究科学生		履修可（一名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（一名まで）／ 履修不可	

科目番号：211-04	担当教員：片山 勝茂	単位数：2	学期：夏
講義題目：教育人間学基本演習		授業科目：教育人間学基本研究	
Basic Seminar in Educational Anthropology			
授業の目標・概要：「現代リベラルデモクラシーにおけるシティズンシップと教育」をテーマに、以下の英語文献（教科書）を講読することで、英語文献を精確に読み、理解する能力を向上させるとともに、現代のシティズンシップ教育に関する問題について、（他の人々とコミュニケーションをとりながら）批判的に考える力を身につけることを目標とする。 授業計画：授業の初回にオリエンテーションを行い、説明する。 授業の方法：文献講読を基本とする。授業時間の前半は1、2頁程度の英文の翻訳を受講生全員が持ちより、互いに検討する。後半は報告者が一人一つの章（1論文）の概要とコメントを発表し、討論を行う。また、各自の研究を発表する研究報告会も行う予定である。 成績評価方法：毎回提出するコメントカード、最終回の後にまとめて提出する翻訳（初稿と最終稿）、ゼミでの報告と討論を合わせて総合的に評価する。 教科書：Kevin McDonough & Walter Feinberg eds. (2003) <i>Citizenship and Education in Liberal-Democratic Societies: Teaching Cosmopolitan Values and Collective Identities</i> (Oxford: Oxford University Press). 参考書：安西徹雄(1995)『英文翻訳術』ちくま学芸文庫。 戸山田和久(2002)『論文の教室：レポートから卒論まで』NHK ブックス。			
本学他研究科学生		履修可（若干名まで）／	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（若干名まで）／	

科目番号：211-05	担当教員：川本 隆史	単位数：2	学期：夏
講義題目：西洋教育史演習 I		授業科目：教育史基本研究	
Seminar in Western Educational History I			
授業の目標・概要：西洋近代の教育の制度と思想を支えてきた、複数の価値理念（自由、平等、福祉、人格など）を思想史のおよび規範理論的視座から点検するとともに、"homo sum ; humani nihil a me alienum puto." という箴言を協働して実践できる演習にしたい。具体的な進め方については、初回に参加メンバーの関心および研究計画を相互に述べ合い、それらの多様性を尊重しつつ決めていくことにしたい。したがって一回目にはメモなりを準備の上で臨むこと。現時点では、共通のテキストの候補として以下の作品を考えている。Gilligan, C. 1982. In a Different Voice: Psychological Theory and Women's Development, Harvard University Press ; reprinted with a new preface by the author, 1993. 参考文献 Nel Noddings, Philosophy of Education, Westview Press, 1998. 授業の方法：レポーターを定めての報告・討議を軸とするが、参加者全員にレジュメの提出を義務づける。態勢が整えば各回のプロトコルも担当者を決めて残すことにしたい。 成績評価方法：各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。			
本学他研究科学生		履修可 (若干名まで) ／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可 (若干名まで) ／ 履修不可	

科目番号：211-06	担当教員：小国 喜弘	単位数：2	学期：夏
講義題目：日本教育史演習 I	授業科目：教育史基本研究		
Seminar in Japanese Educational History I			
授業の目標・概要：現代日本の学校教育が抱えている問題をよりよく理解するために、近代日本の教育史研究を批判的に再検討することを目指している。 同時に、日本教育史に関する新たな言説を共同討議を通じて創造することを目指したい。 授業計画：授業、初回で指示する。 授業の方法：学会誌に掲載された日本教育史に関する近年の論文を共同検討するとともに、各自の問題関心に即して、日本教育史に関する研究発表を行う。 成績評価方法：個別の発表によって主に評価し、出席点を加味する。 教科書：適宜指示する。 参考書：適宜指示する。			
本学他研究科学生		履修可 (一名まで) / 履修不可	
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可 (一名まで) / 履修不可	

科目番号：211-07	担当教員：田中 智志	単位数：2	学期：夏
講義題目：教育臨床学基本演習		授業科目：教育臨床学基本研究	
Basic Seminar in Clinical Approach to Education			
授業の目標・概要：この授業の到達目標は、現代教育を規定している諸概念について、国際比較の見地や思想史の知見を踏まえつつ、教育臨床学的な考察を行うことである。教育臨床学は、人間一人ひとりのかけがえない「一つの生」に応答することを教育の基本様態と位置づけつつ、存在論的な深みから、ひとがよりよく生きる方途としての教育を構想する試みである。教育を国家・社会を発展させる手段として位置づけることは、19世紀以来、先進諸国の基本的な教育についての考え方だったが、かけがえない一つの生に応答することを旨としつつ、よりよい教育を構想しようとするとき、教育を単純に国家・社会を発展させる手段と位置づけることは困難である。国家・社会の発展と人がよりよく生きることはかならずしも一致しないからである。この授業では、教育臨床学の基礎概念を国際的にまた歴史的に確認することで、よりよく生きるための教育の基礎づくりを試みる。とりあげる基礎概念（すなわちこの授業のテーマ）は、自律性、自己創出、主体性、固有性、関係、関係性、道徳性、道徳規範、倫理感覚、リキッド化、有用性などである。 授業計画：第1回 授業の概要（教育臨床学） 第2回 教育の臨床哲学（鷲田清一とデリダの臨床的思考） 第3回 自律性と自己創出（オートポイエーシス） 第4回 ルーマンの自己創出論と教育 第5回 主体性と固有性 第6回 デリダの固有性論と教育 第7回 関係と関係性 第8回 デューイの社会性論と教育 第9回 近代社会と道徳性概念（カントの道徳哲学） 第10回 マルセルの存在論と教育 第11回 道徳規範と倫理感覚 第12回 フーコーの関係性論と教育 第13回 リキッド化と有用性 第14回 パウマンのリキッド化論と教育 第15回 授業のまとめと最終レポート 授業の方法：教育臨床学の基本的な方法は、私たちがよりよく生きるために、そしてよりよい教育を構想するために、私たち自身の思考様式を批判的に考察することである。そのために、現代社会における主要な教育概念を取り上げ、その前提問題を問い直しつつ、その機能・逆機能を把握する。授業は基本的に演習形態である。授業でとりあげるテーマの大枠については、授業者が設定するが、サブテーマ、具体的な事例については、受講生の関心・希望にそって決めていく。授業時間の前半は、その日にとりあげるテーマについて、授業者が資料にもとづいて要点を確認し論点を解説する。授業時間の後半は、受講者各自の下準備にもとづきながら、その日のテーマについて討論し、問題点を析出し、テーマについての理解を深めていく。また、適宜、ビデオを視聴し、ゲストスピーカーを招く。 成績評価方法：評価は平常点、小レポート点、最終レポート点の合計によって決定する。 1 毎回、出席状況を確認する。評価の20%に相当する。 2 毎回、小レポートを課す。評価の30%に相当する。 3 学期末の授業最終日に最終レポートを課す。評価の50%に相当する。 教科書：授業の初回に指示する。 参考書：授業中に指示する。また適宜、追加する。 履修上の注意：履修者は、教科書や参考書を適宜読み込み、報告・議論の準備をしてください。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：211-08	担当教員：金森 修	単位数：2	学期：冬
講義題目：知識論・学問論演習		授業科目：教育哲学特殊研究	
Seminar in Theory of Knowledge			
授業の目標・概要：前期からの通年で受講すること 情報学環・基礎教育・学校教育高度化の合併授業になる 〈ゴシック的なもの〉の探究の継続 ただし後半は、日本の作家、また絵画、映画なども扱う。 授業計画：具体的には以下のようなものを取り上げることを予定している。 ゴシック小説、ゴシック的な因子についての理論的省察をまずはトドロフなどを当てることで確認する それ以降はまず日本の伝統の中でそれに関連するものを探す 江戸川乱歩、『第七官界彷徨』『聖少女』『薔薇密室』 ついで、漫画、絵画、映画などにも目配りをする 丸尾末広の漫画、ヨーロッパ、ゴシック系絵画、映画、特に『鉄男』、最後は私の特別講義を行う。 授業の方法：前期に倣う。 成績評価方法：前期に倣う。 教科書：前期に倣う。 履修上の注意：最初の回は、情報学環が提供する教室に木曜日4時半に集合すること			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：211-09	担当教員：今井 康雄	単位数：2	学期：冬
講義題目：教育哲学特殊研究		授業科目：教育哲学特殊研究	
Seminar in Philosophy of Education			
授業の目標・概要：「ウィトゲンシュタインと教育」をテーマとする。 このテーマをめぐる現代の議論の状況を概観するとともに、教育哲学の諸問題を考察する上でウィトゲンシュタイン的視点がいかなる意味を持つかについて理解することを目標とする。（「教育哲学基本演習」からの継続） 授業計画：Luntley, Michael, Wittgenstein: meaning and judgemen, Oxford / New York: Blackwell 2003 をメインテキストとする。可能なら、同じ著者による Journal of Philosophy of Education および Educational Philosophy and Theory 誌上の論文を含めて講読し討議する。 授業の方法：文献の講読および討議 成績評価方法：平常点によって評価する。 教科書：授業中に指示する。 参考書：授業中に指示する。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：211-10	担当教員：小玉 重夫	単位数：2	学期：冬
講義題目：教育政治学演習		授業科目：教育人間学特殊研究	
Seminar in Politics of Education			
授業の目標・概要：教育における政治と権力の問題を、ミクロとマクロの視点から複眼的に検討することを課題とし、特に公共性やシティズンシップ（市民性）をめぐる最近の研究動向に留意する。 冬学期は、近年問題となっている政治的シティズンシップと社会的シティズンシップの関係を、前者の中核となる政治的リテラシーの問題に焦点をあてて検討し、学力論のパースペクティブに新たな地平をひらくことをめざしたい。テキストは以下に挙げたもののほかにも、昨年の教育哲学会のシンポジウム（参加者に配布）などを考えているが、詳細は相談して決めていきたい。 授業計画：詳細は、初回の授業時（10月4日）に決める。 授業の方法：報告と討論を中心とする。 成績評価方法：ゼミでの報告等による平常点。 教科書：佐々木中『切りとれ、あの祈る手を 〈本〉と〈革命〉をめぐる五つの夜話』（河出書房新社、2010）、小玉重夫『学力幻想』（筑摩書房、近刊予定） 関連ホームページ：http://homepage2.nifty.com/eduscikodama/			
本学他研究科学生		履修可（一名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（一名まで）／ 履修不可	

科目番号：211-11	担当教員：片山 勝茂	単位数：2	学期：冬
講義題目：教育人間学特殊研究		授業科目：教育人間学特殊研究	
Seminar in Educational Anthropology			
授業の目標・概要：前期の続きとして、教科書の残りの章を講読する。その上で、「現代リベラルデモクラシーにおけるシティズンシップと教育」のテーマにあった英語文献（雑誌論文や本の一部）をピックアップし、講読を行う。教科書以外の講読文献については、受講生の積極的な提案を歓迎する。 授業計画：授業の初回にオリエンテーションを行い、説明する。 授業の方法：文献講読を基本とする。授業時間の前半は1、2頁程度の英文の翻訳を受講生全員が持ちより、互いに検討する。後半は報告者が一人一つの章ないし1論文の概要とコメントを発表し、討論を行う。また、各自の研究を発表する研究報告会も行う予定である。 成績評価方法：毎回提出するコメントカード、最終回の後にまとめて提出する翻訳（初稿と最終稿）、ゼミでの報告と討論を合わせて総合的に評価する。 教科書：Kevin McDonough & Walter Feinberg eds. (2003) <i>Citizenship and Education in Liberal-Democratic Societies: Teaching Cosmopolitan Values and Collective Identities</i> (Oxford: Oxford University Press). 参考書：安西徹雄（1995）『英文翻訳術』ちくま学芸文庫。 戸山田和久（2002）『論文の教室：レポートから卒論まで』NHK ブックス。			
本学他研究科学生		履修可（一名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（一名まで）／ 履修不可	

科目番号：211-12	担当教員：川本 隆史	単位数：2	学期：冬
講義題目：西洋教育史演習Ⅱ		授業科目：教育史特殊研究	

Seminar in Western Educational History Ⅱ			
授業の目標・概要：西洋近代の教育の制度と思想を支えてきた、複数の価値理念（自由、平等、福祉、人格など）を思想史のおよび規範理論的視座から点検するとともに、"homo sum ; humani nihil a me alienum puto." という箴言を協働して実践できる演習にしたい。具体的な進め方については、初回に参加メンバーの関心および研究計画を相互に述べ合い、それらの多様性を尊重しつつ決めていくことにしたい。したがって一回目にはメモなりを準備の上で臨むこと。現時点では、共通のテキストの候補として以下の作品を考えている。 Gilligan, C. 1982. In a Different Voice: Psychological Theory and Women's Development, Harvard University Press ; reprinted with a new preface by the author, 1993. 参考文献 Nel Noddings, Philosophy of Education, Westview Press, 1998. 授業の方法：レポーターを定めての報告・討議を軸とするが、参加者全員にレジュメの提出を義務づける。態勢が整えば各回のプロトコルも担当者を決めて残すことにしたい。 成績評価方法：各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。			
本学他研究科学生		履修可（若干名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（若干名まで）／ 履修不可	

科目番号：211-13	担当教員：小国 喜弘	単位数：2	学期：冬
講義題目：日本教育史演習Ⅱ		授業科目：教育史特殊研究	
Seminar in Japanese Educational History Ⅱ			
授業の目標・概要：基本的に、日本教育史演習Ⅰの内容を継続する。現代の学校教育の閉塞を歴史的な視座から照射することを目的とする。受講者各自の問題関心に即した発表を主体とする。 授業の方法：学会誌に掲載された日本教育史に関する近年の論文を共同検討するとともに、各自の問題関心に即して、日本教育史に関する研究発表を行う。 成績評価方法：個人発表を基本とし、出席点を加味する。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：211-14	担当教員：橋本 伸也	単位数：2	学期：夏
講義題目：比較教育社会史と帝制期ロシアの教育構造		授業科目：教育史特殊研究	
Comparative Socio-Cultural History of Education in Modern Europe and Russia			
授業の目標・概要：1970年代以降、欧米や日本で発展してきた教育社会史（あるいは教育の社会文化史）をめぐる研究動向の概略を踏まえた上で、比較教育社会史的な観点からロシア帝国の教育構造の特徴を探る。伝統的教育史とは異なる教育社会史、あるいは cultural turn 以降の教育をめぐる歴史研究の在り方と方法について理解することが目標となる。 授業計画：この授業は以下の3つの内容から構成される。 1. 比較教育社会史と「教育の社会文化史」論 2. 『叢書・比較教育社会史』の検討 3. ロシア帝国の教育構造-ロシアにおける西欧的学知の移入、「教育の身分制原理」、教育システムの帝國的構造と民族問題、帝制期ロシア教育のジェンダー構造 授業の方法：講義及び受講者による発表形式を取る。受講者はそれぞれ『叢書・比較教育社会史』収載論文から、自身の関心に応じて一篇を選んで概要紹介とコメント、ディスカッションを行う。 成績評価方法：授業内における報告及び授業後に提出するレポートにより評価を行う。 教科書：橋本伸也「歴史のなかの教育と社会-教育社会史研究の到達と課題-」、『歴史学研究』第830号、2007年8月。『叢書・比較教育社会史（全7巻）』、昭和堂、2003-2010年。 参考書：橋本伸也他『近代ヨーロッパの探究 4 エリート教育』ミネルヴァ書房、2001年。橋本伸也『エカテリーナの夢ソフィアの旅-帝制期ロシア女子教育の社会史-』、ミネルヴァ書房、2004年。橋本伸也『帝国・身分・学校-帝制期ロシアにおける教育の社会文化史-』名古屋大学出版会、2010年。 履修上の注意：受講にあたっては、橋本伸也「歴史のなかの教育と社会-教育社会史研究の到達と課題-」、『歴史学研究』第830号、2007年8月、を読んでおくことが望ましい。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：211-15	担当教員：田中 智志	単位数：2	学期：冬
講義題目：教育臨床学演習		授業科目：教育臨床学特殊研究	

Seminar in Clinical Approach to Education			
授業の目標・概要：この授業の到達目標は、「教育臨床学基本演習」を踏まえて、具体的な事例を分析しながら教育臨床学の基礎概念（コア概念）を理解し、教育実践を存在論的な深みからとらえる方途（考え方）を学ぶことである。それは、第一に、子どもたちがよりよく生きるための必要条件として、探究（「わがろうとする努力」）としての学び、希望（「前向きに生きる姿勢」ないし「敢然への意志」）としての肯定性、関係性（「支えあうかわり」ないし「トランザクション」）としての存在を確認することであり、第二に、それらの必要条件の生成を妨げているものを析出することである。そうした妨げとしては、日々の人間関係の荒れや齟齬、生育環境の荒みや貧困、社会構造全体の有用性への指向性や位階性への執着など、ミクロからマクロにいたるさまざまな状況が考えられる。個別的教育問題を子細かつ丁寧に分析し、その成果を集積することで、具体的にありかつ存在論的な教育実践の深みにいたる経験を重ねたい。 授業計画：第1回 授業の概要（探究としての学び、希望としての肯定性、関係性としての存在）第2回 教育臨床学の基礎カテゴリー——探究／希望／関係性の関係 第3回 意味と物語Ⅰ（自己物語と意味）第4回 意味と物語Ⅱ（欲望と希望）第5回 表象と全体Ⅰ（理解と洞察）第6回 表象と全体Ⅱ（表象と体験）第7回 探究と文脈Ⅰ（記号と象徴）第8回 探究と文脈Ⅱ（機能と存在）第9回 一つの命と関係性Ⅰ（一般的な生と一つの生） 第10回 一つの命と関係性Ⅱ（一つの命と関係性）第11回 自律性と関係性Ⅰ（個性性と存在論の関係性） 第12回 自律性と関係性Ⅱ（自律性と存在論の関係性）第13回 希望と関係性Ⅰ（希望と予想）第14回 希望と関係性Ⅱ（希望と肯定性） 第15回 授業のまとめと最終レポート 授業の方法：この授業では、上述の主要なテーマについて順次、取りあげ、教育臨床学の基礎概念（コア概念）について理解を深めていく（授業計画を参照）。授業は基本的に演習形態である。前半はテーマについての授業者の解説であり、後半は受講者による報告・討論である。授業者の解説は、基本的に教育臨床学の三つの研究課題に即して行われる。教育臨床学の研究課題は次の三つである。①子どもの生育過程を存在論（関係論）的に把握すること、②いじめ、暴力、自傷などの教育問題の原因を立体的に把握し、その解決をはかること、③学校教育の構造をより適切なものへと再構築すること、である。これらの課題の考察に直結する主要な概念（よりよい教育を支える主要な要件）が、上述の、探究（学び）、希望（肯定性）、関係性（存在）である。受講者には、各自の下準備にもとづきながら、その日のテーマについて討論し、問題点を析出し、理解を深めていくことが求められる。また、適宜、ビデオを視聴し、ゲストスピーカーを招く。なお、授業でとりあげるテーマの大枠については、授業者によって設定されるが、サブテーマ、具体的な事例については、受講生の関心・希望にそって決めていく。 成績評価方法：評価は発言内容、最終レポート点の合計によって決定する。 1 毎回、発言内容を確認する。評価の40%に相当する。2 学期末の授業最終日に最終レポートを課す。評価の60%に相当する。 教科書：授業の初回に配布する文献リストによって指示する。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／履修不可	

科目番号：211-16	担当教員：川本 隆史 金森 修 今井 康雄 小国 喜弘 片山 勝茂 小玉 重夫 田中 智志	単位数：2	学期：通年
講義題目：基礎教育学総合演習		授業科目：基礎教育学特殊研究	
Colloquium in Basic Theories of Education			
授業の目標・概要：基礎教育学における研究は、教育諸学・教育実践を基礎づけ方向づける社会的・倫理的な志しをもつ内容でなければならない。この授業は、そうした基礎教育学研究者の社会的・倫理的な志しを鼓舞し、ともに高めあう協同的な研究教育の場である。具体的には、基礎教育学コースに属する教員スタッフ及び大学院生が各自、研究発表を行い、その内容について、検討する。 とりわけ学位論文の執筆予定者は、この場で研究構想を発表し、各研究領域から、哲学的な意味で「批判的」である吟味を受けることが望ましい。日程等については、事前にコース内に掲示する。 授業の方法：研究発表者が毎回、自分の研究内容について発表し、参加者から、哲学的な意味で「批判的」である吟味を受け、それらをもとに自分の研究についてふりかえり、よりよい研究展開の契機とする。 成績評価方法：各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／履修不可	

科目番号：211-17	担当教員：金森 修	単位数：2	学期：通年
講義題目：知識論・学問論論文指導		授業科目：教育哲学論文指導	
Dissertation Research in Theory of Knowledge			
授業の目標・概要：基礎教育学コースの学位論文（修士論文及び博士論文）の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。 なお、修士学位論文は400字詰め原稿用紙に換算して200枚以内にまとめること。 授業の方法：個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。 成績評価の方法：各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：211-18	担当教員：今井 康雄	単 位 数：2	学 期：通年
講義題目：教育哲学論文指導		授業科目：教育哲学論文指導	
----- Dissertation Research in Philosophy of Education			
授業の目標・概要：基礎教育学コースの学位論文（修士論文及び博士論文）の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。 なお、修士学位論文は400字詰め原稿用紙に換算して200枚以内にまとめること。 授業の方法：個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。 成績評価方法：各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：211-19	担当教員：小玉 重夫	単位数：2	学期：通年
講義題目：教育思想論文指導		授業科目：教育人間学論文指導	
Dissertation Research in Educational Thought			
授業の目標・概要：基礎教育学コースの学位論文（修士論文及び博士論文）の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。 なお、修士学位論文は400字詰め原稿用紙に換算して200枚以内にまとめること。 授業の方法：個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。 成績評価方法：各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：211-20	担当教員：福島 智	単位数：2	学期：冬
講義題目：障害学論文指導		授業科目：教育人間学論文指導	

Dissertation Research in Disability Studies			
授業の目標・概要：基礎教育学コースの学位論文（修士論文及び博士論文）の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。 なお、修士学位論文は400字詰め原稿用紙に換算して200枚以内にまとめること。 授業の方法：個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：211-21	担当教員：片山 勝茂	単 位 数：2	学 期：通年
講義題目：教育人間学論文指導		授業科目：教育人間学論文指導	
Dissertation Research in Educational Anthropology			
授業の目標・概要：基礎教育学コースの学位論文（修士論文及び博士論文）の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。 なお、修士学位論文は400字詰め原稿用紙に換算して200枚以内にまとめること。 授業の方法：個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。 成績評価方法：各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：211-22	担当教員：川本 隆史	単位数：2	学期：通年
講義題目：西洋教育史論文指導		授業科目：教育史論文指導	
Dissertation Research in Western Educational History			
授業の目標・概要：基礎教育学コースの学位論文（修士論文及び博士論文）の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。 なお、修士学位論文は400字詰め原稿用紙に換算して200枚以内にまとめること。 "QUAE SIT SAPIENTIA DISCE LEGENDO" 授業の方法：個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。 成績評価方法：各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：211-23	担当教員：小国 喜弘	単位数：2	学期：通年
講義題目：日本教育史論文指導		授業科目：教教育史論文指導	
Dissertation Research in Japanese Educational History			
授業の目標・概要：基礎教育学コースの学位論文（修士論文及び博士論文）の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。 なお、修士学位論文は400字詰め原稿用紙に換算して200枚以内にまとめること。 授業の方法：個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。 成績評価方法：各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：211-24	担当教員：田中 智志	単位数：2	学期：通年
講義題目：教育臨床学論文指導		授業科目：教育臨床学論文指導	
Dissertation Research in Clinical Approach to Education			
授業の目標・概要：基礎教育学コースの学位論文（修士論文及び博士論文）の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。 なお、修士学位論文は400字詰め原稿用紙に換算して200枚以内にまとめること。 授業の方法：個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。 成績評価方法：各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

総合教育科学専攻 教育社会科学専修 比較教育社会学コース

科目番号：212-01	担当教員：恒吉 僚子	単位数：2	学期：夏
講義題目：質的方法論研究 I		授業科目：比較教育学基本研究	
Qualitative Research Methods I			
授業の目標・概要：質的方法の特徴、有効性、量的方法との違いや相互補完性、質的方法のいくつかの主要系譜の特徴（例 エスノグラフィー、ライフヒストリー、グラウンデッド・セオリー、質的事例研究）を理解した上で、質的方法の中でも、フィールド・ノーツの作成とコーディングの過程に焦点を当て、それを、実際に観察を行ないながら実地で学んでいく。リサーチ・クエスションの設定と質的方法の特性を生かした使い方がどのようなものなのか、どのような課題があり、どのような長所があるのか、また、基本的な方法として、どのような点に注意していけばいいのかを、理解することを目指す。 授業計画：第一回目に講義内容を説明する。1. 質的方法の特徴をつかむ（量的方法との相違等）、Chapter 1. Foundations of Qualitative Research in Education, Qualitative Research in Education、第一章「質的方法論を考える」『教育研究のメソドロジー』恒吉・秋田・佐藤 2. 質的方法の主要な系譜の特徴を理解する 3. いくつかの異なるタイプの質的調査、量的調査を比較して1, 2の理解を深める 4. 事例研究の考察、サンプリング 5. ライフヒストリーを考察 6. 理論の役割を考察 7. フィールド・ノーツの作成 8. 学校ビデオを用いてのフィールド・ノーツの作成と分析（グループ討論の活用） 9. いくつかの観察サイトでの観察、フィールド・ノーツの作成と考察 10. 同じサイトで二回目のフィールド・ノーツの作成 再分析（グループ討論の活用） 11. 同じサイトで三回目のフィールド・ノーツの作成 再分析（グループ討論の活用）12. コーディング 13. データ分析（続） 分析の筋を引き出す 14. 質的データと論文作成 授業の方法：講義、学校などの観察現場での観察とノーツをとる実地訓練、グループでの討論とクラス全体での発表討論を組み合わせた形式になる。演習形式のため、毎回の出席と課題提出を含めた作業・練習をこなすことが前提となっている。 成績評価方法：1. フィールド・ノーツの提出、2. 研究計画の提出、3. 講義への参加度、4. コードから引き出した分析のレポート 参考書：R.Bogdan and S.K. Biklen (1998) <i>Qualitative Research for Education</i>, Allyn and Bacon, J. Creswell, <i>Qualitative Inquiry and Research Design</i>, Sage. 秋田喜代美・恒吉僚子・佐藤『教育研究のメソドロジー』東京大学出版協会、佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社。 履修上の注意：質的方法論研究 I と合わせて受講すること。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：212-02	担当教員：白石 さや	単位数：2	学期：夏
講義題目：教育人類学 I		授業科目：比較教育学基本研究	
Anthropology of Education I			
授業の目標・概要：「教育人類学 I」および「教育人類学 II」を通して、20世紀の国民国家の時代から、21世紀の国際社会とグローバル・ネットワークの時代への歴史的文化的社会的変換を理解する枠組みを探究する。特に今年度は、学部の「現代文化人類学 I&II」におけるインドネシアのバリ島フィールドワーク（大学院生も受講可能）と関連させて、アジア研究の豊かな先行研究の成果を読み込むこととする。 授業の方法：1) 学生による各週ごとの主要な課題設定の提案 2) 課題に関連する Reading 3) Reading に基づくゼミ討論 成績評価方法：日常的な Class contribution（主体的な課題設定、Reading, 相互討論への積極的な貢献）を重視する。 教科書：ベネディクト・アンダーソン『定本 想像の共同体』（書籍工房早山）アウバート＝ラズロ・バラバシ『新ネットワーク思考』（NHK出版） Donatella della Porta et al『Globalization from Below: Transnational Activists and Protest Networks』（University of Minnesota Press, 2006）他。随時、授業で提示する。 参考書：山田奨治『＜海賊版＞の思想：18世紀英国の永久コピーライト闘争』（みすず書房）他多数。 クリフォード・ギアツ『ヌガラ：19世紀バリの劇場国家』（みすず書房）ヒルドレッド・ギアツ『バリの親族体系』（みすず書房）山下晋司『観光人類学の挑戦：新しい地球の生き方』（講談社選書メチエ）中谷文美『女の仕事＞のエスノグラフィ：バリ島の布・儀礼・ジェンダー』（世界思想社）他			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：212-03	担当教員：中村 高康	単位数：2	学期：夏
講義題目：教育社会学の諸概念		授業科目：比較教育システム論基本研究	

Basic Concepts in Sociology of Education			
授業の目標・概要：教育社会学において日常的に取り扱われている重要概念について、その原典を参照しつつ日本で応用されている研究事例をあわせて検討することで、「概念をつくる」および「概念を使う」ことの意味について、参加者とともに考察したい。 授業計画：毎回、一つ概念とその応用例を取り上げていく。取り上げる概念は、初回にリストを提示するので、その中から選んで決めていく。状況に応じて受講者の関心も加味する。（取り上げる概念は現時点での暫定的な案である） 第1回：イントロダクション 第2回：教育の象徴的価値 第3回：結果の平等 第4回：アスピレーション第5回：トラッキング 第6回：メリトクラシー 第7回：競争移動・庇護移動 第8回：ストラテジー 第9回：相対的リスク回避 第10回：社会関係資本 第11回：再帰性 第12回：チャーター 第13回：ハビトゥス 第14回：精密コード 第15回：総括討論 定期試験（レポート提出） 授業の方法：演習形式。 成績評価方法：授業参加度と最終レポートによって評価する。 教科書：特に指定しない。 参考書：特に指定しない。			
本学他研究科学生		履修可（3名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（3名まで）／ 履修不可	

科目番号：212-04	担当教員：中村 高康	単位数：2	学期：冬
講義題目：教育と選抜の諸問題		授業科目：比較教育システム論特殊研究	
Issues in Education and Selection			
授業の目標・概要：教育と選抜に関わる諸問題について言及する基本的文献を読み進めていくなかで、現代における教育現象をいかに理解していくかを様々な視点から考察してゆく。 授業計画：毎回、教科書・参考書欄に記載したリーディングスの中から一つの文献を取り上げて議論する。後半は受講者の関心を加味しながら、トピックを絞ったかたちで同系統の論文・著作をまとめて読むような形をとることも考えている。（取り上げるテーマは現時点での暫定的な案である）第1回：イントロダクション 第2回：教育の拡大1 第3回：教育の拡大2 第4回：教育機会1 第5回：教育機会2 第6回：教育機会3 第7回：受験競争1 第8回：受験競争2 第9回：選抜制度1 第10回：選抜制度2 第11回：選抜制度3 第12回：選抜と接続1 第13回：選抜と接続2 第14回：選抜と接続3 第15回：総括討論 定期試験（レポート提出） 授業の方法：毎回担当者を決めて報告してもらい、それをもとにディスカッションする演習方式。 成績評価方法：授業参加度＋最終レポートで評価する。 教科書：中村高康編（2010）『リーディングス日本の高等教育① 大学への進学』玉川大学出版部 参考書：本田由紀・平沢和司編（2007）『リーディングス日本の教育と社会2 学歴社会・受験競争』日本図書センター 中村高康編（2010）『進路選択の過程と構造』ミネルヴァ書房 中村高康（2011）『大衆化とメリトクラシー』東大出版会			
本学他研究科学生		履修可（3名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（3名まで）／ 履修不可	

科目番号：212-05	担当教員：橋本 鉦市	単位数：2	学期：夏
講義題目：高等教育の社会学Ⅰ		授業科目：高等教育論基本研究	

Sociology of Higher Education Ⅰ			
授業の目標・概要：「高等教育」領域における諸問題はきわめて多種多様であり、またその分析アプローチも多岐にわたる。この授業では、国内外の高等教育における様々な諸側面を、社会学的なアプローチから分析する際の方法論をレビューし、その問題点と課題を考察する。取り上げる諸領域としては、制度、組織、政策、文化、研究風土などの領域を中心とする。また、自身の高等教育研究に関する論文作成の際の広い視座と理論的背景を涵養し、自ら分析する際の糸口を探索することをねらいとする。 授業計画：第1回 イントロダクション：高等教育研究の領域と方法論 第2回～第4回 制度 第5回～第7回 組織 第8回～第10回 文化 第11回～第14回 研究 第15回 総括 授業の方法：各回とも、上記の高等教育各領域における代表的な論文を2～3本を選択し、それを各自がレビューならびにコメントし、全体でディスカッションする。受講生は、その討論を通して、自らの関心に従ってレポートを作成する。 成績評価方法：テキストレポート（40%）、 討論への参加度（20%）、 期末レポート（40%） 教科書：Gumport, P. ed., 2007, Sociology of Higher Education, The Johns Hopkins University Press. Tony Becher, 1989, Academic Tribes and Territories: Intellectual Enquiry and the Cultures of Discipline, Open University Press. バートン・クラーク 1994『高等教育システム：大学組織の比較社会学』東信堂 参考書：リーディングスはコピーを用意する。随時指定。 履修上の注意：教育社会学的なアプローチと、高等教育に関する制度、歴史、政策について基本的な知識と、を有していることが望ましい。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：212-06	担当教員：橋本 鉦市	単位数：2	学期：冬
講義題目：高等教育の社会学Ⅱ		授業科目：高等教育論特殊研究	

Sociology of Higher Education Ⅱ			
授業の目標・概要：高等教育研究の分析対象とその分析手法を広く概観しかつ深く洞察することで、研究のフロンティアを開拓し、またそれらの実証的な分析を試みる際の論点・イシューの発掘を手助けする。「制度・組織」、「学士課程教育」、「学生生活・文化」など14領域を中心とする変容と課題をとりあげ、それらに関する国内外の社会学的な理論・分析アプローチを学習し、調査研究・論文執筆の技法を習得する。また、その研究内容のプレゼンテーションなどにおいても、説得的な方法を学ぶ。 授業計画：第1回 イントロダクション：高等教育研究の最前線 第2回 制度・組織 第3回 学士課程教育 第4回 学生生活・文化 第5回 大学院教育 第6回 キャリア・就職 第7回 専門（職）教育 第8回 管理・運営 第9回 財政・財務 第10回 授業分析・開発 第11回 評価・点検 第12回 地域・産学連携 第13回 高大接続・入試 第14回 グローバル化 第15回 研究者・FD 授業の方法：各回とも、上記の高等教育各領域における代表的な論文を2～3本を選択し、それを各自がレビューならびにコメントし、全体でディスカッションする。受講生は、その討論を通して、自らの関心に従ってレポートを作成する。 成績評価方法：テキストレポート（40％）、 討論への参加度（20％）、 期末レポート（40％） 教科書：リーディングスはコピーを用意する。随時指定。 履修上の注意：教育社会学的なアプローチならびに高等教育に関する制度、歴史、政策について基本的な知識を有していることが望ましい。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：212-07	担当教員：本田 由紀	単位数：2	学期：夏
講義題目：現代日本社会における教育・仕事・家族		授業科目：教育社会学基本研究	

Education, Work and Family in the Present Japanese Society			
授業の目標・概要：・日本社会における家族・教育・仕事の関係性の特徴とその変化について、様々な文献やデータを読み取るとともに現実の中で活動している方々に接することを通じて、現在の日本社会が抱える諸課題とそれへの対策について認識を深める。 ・一般的・抽象的なレベルでは、ある社会の構造とその変動を俯瞰的に捉える見方、国際比較により社会間の体制の相違を知り特定の社会状況を相対化する見方、図表を読み取りながらデータが意味している事柄を解釈する力、ある社会で支配的な言説や規範を批判的にとらえ返す力などをつけることを目標とする。 授業計画：第1回：オリエンテーションおよび概論 第2回：テキストA 講読（序章）・議論 第3回～第13回：テキスト購読・議論およびゲストによるプレゼンテーションと討論 第14回：期末レポート構想発表 第15回：全体の振り返り 授業の方法：文献を講読する授業と、多様なゲスト（NPO や研究者、コンサルタントなど）を招いて議論をする授業とを組み合わせることにより、現代日本社会の現実と、目下進行中の様々な変革の動きや取り組みについて知り、その中で個人がいかなる役割を果たしてゆけるかについての認識を形成する。 授業で得た知識をふまえ、期末レポートでは現代日本の家族・教育・仕事に関わるミニ研究を課す。 成績評価方法：授業時に提出する講読票およびコメントシートと、期末レポートを7：3の比率で評価する。 教科書：A. 本田由紀編『労働再審① 転換期の労働と〈能力〉』大月書店、2010年 B. 小谷敏他編『〈若者の現在〉労働』日本図書センター、2010年 参考書：本田由紀『学校の「空気」』岩波書店、2011年 本田由紀『「家庭教育」の隘路』勁草書房、2008年 本田由紀『教育の職業的意義』ちくま新書、2009年			
本学他研究科学生		履修可（一名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（一名まで）／ 履修不可	

科目番号：212-08	担当教員：本田 由紀	単位数：2	学期：冬
講義題目：教育社会学の研究課題		授業科目：教育社会学特殊研究	

Research Issues in Sociology of Education			
授業の目標・概要：教育を対象とする社会学的研究は、これまで理論的・実証的な知見を蓄積してきた。しかし、社会経済構造の変化の中で、従来の理論枠組みや概念、研究方法では把握しきれない新たな研究課題が出現してきていると考えられる。これまでの教育社会学にとって盲点となってきたそれらの新たな研究課題を探り出し、実証研究に結び付けてゆく方途を検討することをこの授業では目標とする。 授業計画：第1回：オリエンテーション 第2回～第5回：格差・排除と教育 第6回～第9回：政治・権力と教育 第10回～第13回：経済・市場と教育 第14回・第15回：レポート発表 授業の方法：各回の授業までに、指定された文献を読み、講読票に概要とコメントを記入してきてもらう。それを前提にして、授業は議論と講義を組み合わせた形で行う。授業では挙手ないし指名によりできるだけ学生からの意見を募る。 成績評価方法：毎回の授業において出欠確認を兼ねて学生は講読票を提出する。また、学期末に期末レポートの提出を求める。成績は講読票：期末レポート＝7：3の比で評価する。 教科書：各回の授業において講読文献および指定文献をあらかじめ指定する。 参考書：各回の授業に関連する参考文献を毎回の授業で提示する。			
本学他研究科学生		履修可（一名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（一名まで）／ 履修不可	

科目番号：212-09	担当教員：佐藤 香	単位数：2	学期：夏
講義題目：教育社会の計量分析		授業科目：教育社会学特殊研究	

Quantitative Analyses of Educational Society			
授業の目標・概要：この講義では、既存の社会調査データの二次分析を通じて、計量分析の基本的な手法を身につけることを目的としている。また、この科目は専門社会調査士資格取得のための「H. 調査企画・設計に関する演習科目」に該当し、分析手法とともに、調査企画・サンプリング・質問紙の設計などについても学習する。 授業計画:講義で扱うおもなトピックスは、1) 社会調査データの構造、2) 変数の種類、3) 基本統計量、4) 検定の考え方、の4つである。分析手法としては、クロス集計分析、回帰分析、分散分析、ロジスティック回帰分析、因子分析について学習する。ゼミ形式での演習により、出力結果の読み取りかた、データハンドリングなどについても習熟することを目的とする。 授業の方法：第7回までは、講義と演習をおこなう。第8回以降は、講義とともに、各受講生のデータ分析についてゼミ形式で報告をおこなう。報告は各2回とし、授業終了後に最終課題として、授業中に進めた分析にもとづく論文執筆を課す。 分析にもちいるデータは、原則として、社会科学研究所SSJデータアーカイブ所蔵のデータから選択するが、その作業を通じて、データ検索についても学習する。自分のもっているデータの分析をおこないたい場合は、申し出ること。 成績評価方法：出席はとらないが、2回の報告をおこなうことと、最終課題によって評価する。 教科書：配布資料をもちいる。 参考書：授業中に紹介する。 履修上の注意：かなりの作業量になるので、この点をふまえて履修すること。			
本学他研究科学生		履修可 (名まで) / 履修不可	
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可 (名まで) / 履修不可	

科目番号：212-10	担当教員：恒吉 僚子	単位数：2	学期：夏
講義題目：質的方法論研究Ⅱ		授業科目：比較教育学特殊研究	

Qualitative Research Methods Ⅱ			
授業の目標・概要:質的方法論研究Ⅰにおける、フィールド・ノーツ等に関する基礎知識・スキルを前提として、各自の研究・クエスチョンの設定、研究・クエスチョンに合った方法の吟味、質的データから分析を引き出していく方法に対する理解を深める。 質的方法論研究Ⅰの知識やスキルを前提とした上で、研究・クエスチョンの設定、方法論との結び付け方を、いくつかの既存研究を通して検討した後に、各自の研究・クエスチョンを通して具体的に練習をする発展的内容である。質的方法が強さを発揮する領域と課題を、具体例を通して検討していく。いくつかの代表的な方法、エスノグラフィー、インタビュー、質的事例研究、質的内容分析について、各自のテーマに沿って、研究・クエスチョンとの整合性、説得性の獲得、分析の引き出し方についての検討等を行う。形態としては、講義、フィールドでの調査、グループでの討論とクラス全体での発表討論を組み合わせる。 授業計画: 1. 本講義の導入。 2. 研究・クエスチョンと方法論の関係についての考察。 3. 研究・クエスチョンと方法論の関係(続)。 4. 学校・教育、子どもを対象とした質的調査の特徴について、第1－3回の内容を踏まえて考察する。 5. 各自の研究・クエスチョンの設定と方法論の妥当性の検討。 6. 各自が収集した初期データについて、サンプル、フィールドでの問題、収集方法、方法的妥当性(例 フィールド・ノーツの内容)等の第一段階課題についての検討(発表者数名)。 7. 同上(発表者数名) 8. 共通フィールドでの観察と考察。 9. 第二回、データ(フィールドノーツ、インタビュー、内容分析資料)の提示。 10. 同上(発表者数名) 11. 第一次コーディングとその結果の発表、討論。 12. 第一次コーディングとその結果の発表、討論。 13. 質的データから分析を引き出す練習。手法の違いによる課題の違いについての認識の深化。相互発表と討論。(各自) 14. プレゼンテーションの手法の違いの考察。 15. レポート内容の検討。 授業の方法:講義、発表、討論、課題提出を組み合わせた形式。演習形式のため、毎回の出席と課題提出を行なうことが前提となっている。 成績評価方法: 1. レポート、2. 講義への参加度(演習形式) 教科書:配布資料を用意する。 参考書:随時指定する。 履修上の注意:質的方法論研究Ⅰとあわせて受講すること。			
本学他研究科学生		履修可 (名まで) / 履修不可	
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可 (名まで) / 履修不可	

科目番号：212-11	担当教員：白石 さや	単位数：2	学期：冬
講義題目：教育人類学Ⅱ		授業科目：比較教育学特殊研究	

Anthropology of Education Ⅱ			
授業の目標・概要：「教育人類学Ⅰ」および「教育人類学Ⅱ」を通して、20世紀の国民国家の時代から、21世紀の国際社会とグローバル・ネットワークの時代への歴史的文化的社会的変換を理解する枠組みを探究する。特に今年度は、学部の「現代文化人類学Ⅰ&Ⅱ」におけるインドネシアのバリ島フィールドワーク（大学院生も受講可能）と関連させて、アジア研究の豊かな先行研究の成果を読み込むこととする。 授業の方法：1）学生による各週ごとの主要な課題設定の提案 2）課題に関連する Reading 3）Reading に基づくゼミ討論 成績評価方法：日常的な Class contribution（主体的な課題設定、Reading, 相互討論への積極的な貢献）を重要視する。 教科書：ベネディクト・アンダーソン『定本 想像の共同体』（書籍工房早山） アウバート＝ラズロ・バラバシ『新ネットワーク思考』（NHK出版） Donatella della Porta et al『Globalization from Below: Transnational Activists and Protest Networks』（University of Minnesota Press, 2006）他。随時、授業で提示する。 参考書：クリフォード・ギアツ『ヌガラ：19世紀バリの劇場国家』（みすず書房） ヒルドレッド・ギアツ『バリの親族体系』（みすず書房） 山下晋司『観光人類学の挑戦：新しい地球の生き方』（講談社選書メチエ） 中谷文美『女の仕事＞のエスノグラフィ：バリ島の布・儀礼・ジェンダー』（世界思想社）他			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：212-12	担当教員：石田 浩	単位数：2	学期：夏
講義題目：社会科学における数量的データの応用分析		授業科目：教育社会学特殊研	
Applied Quantitative Analysis in Social Sciences			
授業の目標・概要：日本でもデータアーカイブの整備に伴って大規模な調査データが公共財として学術的研究のために提供されるようになった。コンピューター技術と統計ソフトの発展により、これらの大規模データを手軽に統計分析することが可能になり、社会科学における計量的分析は近年飛躍的に発展した。今回のゼミでは、大量データを用いた量的分析手法の背後にある基本的な考え方を『社会科学のリサーチ・デザイン』などの文献を手掛かりに学び、社会科学的な研究の分析ロジックと記述的・因果的推論の過程について検討する。量的分析の考え方をケーススタディなどの質的分析と比較し、量的分析で用いられる概念化、測定、推論などの基本的な考え方について確認すると同時に、社会科学の分野での因果推論の可能性について検討する。 授業計画：演習の流れとしては、『社会科学のリサーチ・デザイン』をまず教材として取り上げる。その後因果分析をめぐるさまざまな問題と関連のある論文を選び購読する。 授業の方法：演習 成績評価方法：口頭報告、レポート等による 教科書：Gary King, Robert O. Keohane & Sidney Verba, Designing Social Inquiry (Princeton: Princeton University Press, 1994)『社会科学のリサーチ・デザイン』（勁草書房、2004年）。その他の教材は第1回目の授業の時に指定。			
本学他研究科学生		履修可（5名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（5名まで）／ 履修不可	

科目番号：212-13	担当教員：加藤 毅	単位数：2	学期：冬
講義題目：教育調査の計量分析		授業科目：教育社会学特殊研究	
Analysis of Educational Survey Data by Quantitative Method			
授業の目標・概要：教育分野における研究活動においても、社会調査は重要な位置を占めている。この講義では、社会調査を構成する手法群のうち、定量的な調査データの分析を主題としてとりあげる。まず数理統計学に関する基礎知識を学んだ後、多変量解析を用いた分析手法の中から代表的なもの（クラスター分析、重回帰分析、主成分分析、因子分析、数量化理論、および共分散構造分析など）について習得することを目的とする。講義の進め方等については、初回の授業時に提示する。なおこの授業科目は、専門社会調査士資格取得のための「Ⅰ．多変量解析に関する演習科目」に該当する。 授業の方法：講義および演習 成績評価方法：授業への参加度およびレポートによる 教科書・参考書：授業中に適宜紹介する			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：212-14	担当教員：石戸 教嗣	単位数：2	学期：冬
講義題目：教育におけるシステム論の可能性		授業科目：教育社会学特殊研究	

The Possibilities of the System Theory in Education			
授業の目標・概要：システム論は社会の観察の理論であると同時に、その観察をコミュニケーションするときには、それ自体、社会的運動の中に位置づく。観察のこのような動的性格を意識しつつ、教育の現状・動向と関わらせてシステム論の適用可能性を探る。 ルーマンのシステム論の基本的概念を概略的に押さえたうえで、それらを現実の事象に柔軟に適用したり、他の所理論と比較することを目指す。 授業計画：具体的には、つぎの4つのテーマを扱う。 1) 格差社会と教育 2) 「贈与としての教育」 3) シュタイナーの教育論・社会論 4) 多文化教育のオートポイエシス 授業の方法：関連する文献の講読、講義 成績評価方法：毎回の出席と討議 教科書：指定なし 参考書：授業中に指示			
本学他研究科学生		履修可 (一名まで) / 履修不可	
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可 (一名まで) / 履修不可	

科目番号：212-15	担当教員：ましこ ひでのり	単 位 数：2	学 期：夏
講義題目：差別と攻撃の再生産構造をかんがえる		授業科目：教育社会学特殊研究	

On reproductive structures of discrimination and harassment			
授業の目標・概要：教育現象内部にかぎらず、通常自明視されることで自覚されない日常空間に遍在する差別構造を「発見」し、みずからの無自覚な攻撃性をモニタリングするなど、履修者個々の課題解決のいとぐちをさぐる。 授業計画：序盤：たたき台となる基本書を数点検討し、問題意識を共有化。 中盤：履修者の選択した文献についての報告・質疑 終盤：論点整理と課題の発見 授業の方法：初回に相談のうえ、基本書を数点輪読し、各人がもっとも関心をもつ問題領域に関する報告と質疑・討論をおこなう。 成績評価方法：出席状況 50%＋報告 50% 教科書：『ことばの政治社会学』（三元社、2002 年） 参考書：『ことば／権力／差別』（編著、三元社、2006 年）『たたかひの社会学』（三元社、増補新版、2007 年）『知の政治経済学』（三元社、2010 年） 履修上の注意：・言語教育と差別をとりあげた論集『ことばの政治社会学』を通読し、疑問点を整理しておくこと。 ・みずからが報告者になってよいとおもえる文献を開講時までには準備すること。 ・疑問を放置せず、問題の熟成か発問を適宜判断し、つねに「発見」にこころがけること。 関連ホームページ：http://sociologio.at.webry.info/			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／履修不可	

科目番号：212-16	担当教員：結城 恵	単 位 数：2	学 期：冬
講義題目：多文化共生のためのエスノグラフィ		授業科目：教育社会学特殊研究	
Ethnography for Building a Multicultural Society			
授業の目標・概要：（１）多文化地域における教育問題の現状とその特質を構造的に理解する。 （２）多文化地域における具体的な教育事例を、エスノグラフィの手法を用いて分析し再考する。 （３）多文化地域の教育問題に対応する際に求められる教員の役割を考察する。 多文化地域の現状とその社会的背景を理解し、「教育」と「共生」がどのように問題化されているのかを考察する。次に、多文化状況にある教育場面で生まれている具体的な問題をエスノグラフィの手法を用いて読み解き、「教育」と「共生」について再考する。そのうえで、多文化地域の教育問題に対応する際に求められる教員の役割を考察する。 授業計画：第 1 回：本講義へのオリエンテーション 第 2 回：多文化地域の現状と社会的背景を理解する（導入） 第 3 回：多文化地域の現状と社会的背景を理解する（事例研究）第 4 回：多文化地域における「教育」問題の構造を探る（導入） 第 5 回：多文化地域における「教育」問題の構造を探る（事例研究）第 6 回：多文化地域における「共生」問題の構造を探る（導入） 第 7 回：多文化地域における「共生」問題の構造を探る（事例研究） 第 8～13 回：多文化地域における教育のエスノグラフィ的研究 第 14 回：多文化地域の「教育」と「共生」を再考する 第 15 回：多文化地域で求められる教員の役割を考察する。 定期試験 授業の方法：第 1 回は、本講義の目的・内容・スケジュール・評価方法・履修上の注意点について説明をし、多文化地域の教育の見方・考え方を探るための導入をします。 第 2 回以降は、本講義の目的に沿った内容を段階的に展開していきます。それぞれの講義の「導入」（第 2, 4, 6 回）ではその内容に関連する基礎事項の確認、理論研究・基礎となる事例研究を紹介します。「事例研究」（第 3, 5, 7 回）では、この「導入」で学んだことを活用して各自が調べ、整理し、考察したことを発表して頂きます。第 8～13 回のエスノグラフィ的研究では、具体的な教育場面のフィールドワークあるいは関係者のインタビューを通してデータの収集と分析、解釈をします。第 14・15 回では各自が本講義で学んだことを共有し討論をします。 成績評価方法：授業への貢献 (15%)、小レポート (35%)、期末レポート (50%) を総合して評価します。 教科書：講義の展開に応じて購読文献および指定文献をあらかじめ指定します。 参考書：授業に関連する参考文献を随時提示します。 履修上の注意：講義の展開に応じて指示します。			
本学他研究科学生		履修可（3 名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（ 名まで）／ 履修不可	

科目番号：212-17	担当教員：白石 さや	単位数：2	学期：通年
講義題目：比較教育学論文指導		授業科目：比較教育学論文指導	

Dissertation Research in Comparative Education			
授業の目標・概要：ゼミの基本的方向性として、Philosophy in Action（日々の生活の局面からその哲学的意味を思索する）という文化人類学的視点にたつて、実践的な論文指導を行う。 授業計画：学部生と院生の合同ゼミを、お昼休みに「ブラウンバッグ」（ランチ持ち込み可）方式で実施する。原則として隔週を予定しているが、受講生との話し合いによって頻度や日程を決める。院生には指導的役割を果たしてもらうよう、学部生には積極的に時代感覚の先端からの課題提起をしてもらうよう進め方を工夫する。 なお、2011年度学部授業として提供する「現代文化人類学Ⅰ＆Ⅱ」におけるバリ島フィールドワークと組み合わせて受講することもできる。 授業の方法：夏学期は（１）先輩から具体的な経験談を聞き（２）論文執筆に関する基本的な知識の講義を受け（フィールドワーク調査法、インタビューの仕方、写真の撮り方、論文執筆のＡＢＣ）（３）モデル論文を参照し（４）各自のテーマ選択と調査研究の方法を構想する。 冬学期は、夏季の調査研究進展状況を踏まえて（１）中間報告とゼミのメンバー同士の積極的討論（２）論文構成上の参考になる理論枠組みに関するレクチャーに加えて（３）個人指導を重視。 年間を通じて、アポイントメントによる個人指導を行います。 成績評価方法：研究計画、発表、議論への積極的貢献等による。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：212-18	担当教員：恒吉 僚子	単位数：2	学期：通年
講義題目：比較教育学論文指導		授業科目：比較教育学論文指導	

Dissertation Research in Comparative Education			
授業の目標・概要：比較教育学論文指導。リサーチ・クエスチョン、研究計画、論文執筆、既存研究の把握、オリジナリティ等について、各自の研究に沿って指導をする。個別指導と集団指導を組み合わせる。 授業計画：初回指導ゼミにて説明する。 授業の方法：発表、討論形式、個別指導を組み合わせる。 成績評価方法：研究内容によって評価。 教科書：なし 参考書：随時指定。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：212-19	担当教員：本田 由紀	単位数：2	学期：通年
講義題目：教育社会学論文指導		授業科目：教育社会学論文指導	
Dissertation Research in Social Systems			
授業の目標・概要：この授業では、各学生が取り組んでいる修士論文・博士論文および投稿論文について参加者全員で検討を加えることにより、理論と実証の両面から論文の質を高め、論理的かつインパクトのある論文を執筆する力を身につけることを目的とする。 授業計画：各回の発表者を事前に指定し、研究の進捗についての発表に基づいて全員で議論を加える。 授業の方法：各回の発表者を事前に指定し、研究の進捗についての発表に基づいて全員で議論を加える。 成績評価方法：各回の発表者を事前に指定し、研究の進捗についての発表に基づいて全員で議論を加える。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：212-20	担当教員：佐藤 香	単位数：2	学期：夏
講義題目：計量教育社会学論文指導		授業科目：教育社会学論文指導	

Advanced Seminar on Qualitative Studies in Educational Sociology			
授業の目標・概要：計量的な社会調査データをもちいて学術論文を執筆しようとしており、投稿論文の執筆や学会発表などを予定するなど、強いインセンティブをもつ学生を対象とする。教育社会学の分野で研究が蓄積されてきたテーマであれば、テーマはとくに問わないが、使用しようとしているデータが特定されているほうが望ましい。統計手法の習熟度にかかわらず履修可能であるが、SPSSに容易にアクセスできる学習環境をもっていることを条件とする。 授業計画：修士1年の場合は、まず卒業論文のリライトを通して論文の書き方について指導をおこない、修士論文の研究計画について検討する。修士2年の場合は、修士論文の指導をおこない、可能であれば学会誌への投稿をおこなう。博士課程の場合は、学会発表や投稿論文など、計画的に研究をおこない、博士論文の執筆を進めるよう指導する。 いずれの場合でも、それぞれが年度当初に1年間の課題を設定した研究計画を報告し、その計画に沿って研究を進めていく。 授業の方法：指導のポイントは次の5点である。1) 研究テーマと分析データの整合性、2) 参照すべき先行研究と知見の整理、3) 分析手法の理解、4) 分析結果の読み取りかた、5) 問題設定に即した結論の導出。本講義ではゼミ形式を中心とする。他の学生の研究テーマに対しても興味・関心をもち、さまざまな分析手法にふれながらディスカッションをおこなうことで、各学生の研究・論文の質を向上させていく。 成績評価方法：出席については、60%以上の出席率が望ましい。年度当初に報告した計画に沿って研究を進め、課題が達成され、さらには、その課題の質が高い場合には、高く評価される。また、他の学生の課題についてのディスカッションにおける貢献度も加味して評価する。			
本学他研究科学生		履修可 (名まで) ／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可 (名まで) ／ 履修不可	

科目番号：212-21	担当教員：中村 高康	単位数：2	学期：通年
講義題目：比較教育システム論論文指導		授業科目：比較教育システム論論文指導	
Dissertation Research in Sociology of Education			
授業の目標・概要：教育社会学に関わる様々なテーマにおいて研究論文の執筆を予定している大学院生を対象として論文指導を行う。 授業計画：参加者の人数および問題関心に応じて、臨機応変に受講者と相談しながら進める。 授業の方法：発表・討論形式を主体とする。時に応じて個別指導を行う。 成績評価方法：平常点			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：212-22	担当教員：橋本 鉦市	単位数：2	学期：通年
講義題目：高等教育論論文指導		授業科目：高等教育論論文指導	

Dissertation Research in Higher Education			
授業の目標・概要：（歴史）社会学的なアプローチに関する高等教育研究について、受講生各自の研究テーマにそって、史資料や各種データの収集・分析、実証的な学術論文の計画・執筆・評価ができるように指導を行う。 授業計画:大学を中心とする高等教育制度の下で、その制度、組織、政策、法制、学問、文化、思想、構成員（学生・教員など）に関して、歴史社会学的なアプローチを中心とした方法論を学修しつつ、修士論文、各種学術誌への投稿論文、博士論文等について、受講生の問題関心と選好するアプローチに即して、論文の準備・計画・執筆ができるように指導を行なう。 授業の方法：受講生個人の進捗状況に合わせた個人指導と、受講生全員が参加する橋本研究室全体での集団指導を平行して行う。 成績評価方法：受講者各自の論文投稿のスケジュール、締め切りなどを考慮しつつ、それぞれの論文執筆の達成度合いに応じて、研究状況と研究成果によって評価を行う。 教科書：指定なし 参考書：指定なし 履修上の注意：本演習は、基本的に橋本を指導教員とする受講生に対して開講するものである。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

総合教育科学専攻 教育社会科学専修 生涯学習基盤経営コース

科目番号：213-01	担当教員：李 正連	単位数：2	学期：夏
講義題目：生涯学習論基本研究Ⅰ		授業科目：生涯学習論基本研究	

Theory of Lifelong Learning Ⅰ			
授業の目標・概要：社会教育学・生涯学習論を学び、研究するための、院生各自の基本的な視点・研究枠組み・方法論を形成するための基礎的な訓練を、文献の講読と検討によって、集団的に進める。 授業計画:社会教育学・生涯学習論を学び、研究するための基本的な「構え」を形成するために、テーマを絞って、リーディングスなど基本的な文献を講読し、検討する。テーマには、当面、以下のものを予定し、3~5回ほどで基本的な文献を読破していく。1．社会、2．教育、3．学校、4．国家、5．自由、6．平等、7．構造、8．市場、9．子ども、10．ケア、11．貧困など。 なお、生涯学習論基本研究Ⅱ（冬学期）と連動して、通年での授業とする予定なので、通年での履修が望ましい（半年の履修を拒むものではない）。 授業の方法：基本的に演習形式をとり、参加者の活発な討議によって、各自の基本的な研究への「構え」を形成する。 成績評価方法：毎回の出席と討議 教科書：必要に応じて紹介する。 参考書：必要に応じて紹介する。			
本学他研究科学生		履修可（一名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（一名まで）／ 履修不可	

科目番号：213-02	担当教員：李 正連	単位数：2	学期：冬
講義題目：生涯学習論基本研究Ⅱ		授業科目：生涯学習論基本研究	

Theory of Lifelong Learning Ⅱ			
授業の目標・概要：社会教育学・生涯学習論を学び、研究するための、院生各自の基本的な視点・研究枠組み・方法論を形成するための基礎的な訓練を、文献の講読と検討によって、集団的に進める。 授業計画:社会教育学・生涯学習論を学び、研究するための基本的な「構え」を形成するために、テーマを絞って、リーディングスなど基本的な文献を講読し、検討する。テーマには、当面、以下のものを予定し、3~5回ほどで基本的な文献を読破していく。1．社会、2．教育、3．学校、4．国家、5．自由、6．平等、7．構造、8．市場、9．子ども、10．ケア、11．貧困など。 なお、生涯学習論基本研究Ⅰ（夏学期）と連動して、通年での授業とする予定なので、通年での履修が望ましい（半年の履修を拒むものではない）。 授業の方法：基本的に演習形式をとり、参加者の活発な討議によって、各自の基本的な研究への「構え」を形成する。 成績評価方法：毎回の出席と討議 教科書：各テーマに応じて指定する。 参考書：必要に応じて紹介する。			
本学他研究科学生		履修可（一名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（一名まで）／ 履修不可	

科目番号：213-03	担当教員：根本 彰	単位数：2	学期：夏
講義題目：探究学習のための情報環境構築	授業科目：図書館情報学基本研究		
Informational environment planning for inquiry-based learning			
授業の目標・概要：今年度から始まった新学習指導要領において重視されている探究学習の実施や言語活用力の習得といった領域は、図書館情報学と密接な関係にある。これをカリキュラム学や教育方法学を援用しつつ、また、アメリカの同様の領域との関係を見ながら検討を行う。 授業計画：アメリカの inquiry-based learning について文献で学ぶとともに、日本の学校における総合的学習の時間、各教科、卒業研究、自由研究などの特別活動のカリキュラムの展開について学ぶ。また、そうした学習の場で学校図書館がどのように関わるのかについての先行研究を検討する。これらの検討をする際に、フィールドとして附属学校における卒業研究指導を取りあげる予定である。 授業の方法：文献講読および見学、インタビュー 成績評価方法：総合的な評価 参考書：Barbara K. Stripling, Sandra Hughes-Hassel(eds) Curriculum connections though the library, 2003. 桑田ひろみ（編）『思考力の鍛え方』静岡学術出版社 2010 履修上の注意：当コースの大学院生だけでなく、学校教育高度化専攻など学校教育分野の大学院生の履修による交流も期待している			
本学他研究科学生		履修可（3名まで）／履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（3名まで）／履修不可	

科目番号：213-04	担当教員：影浦 峽	単位数：2	学期：夏
講義題目：図書館情報学研究方法論		授業科目：図書館情報学基本研究	

Research Methods of Library and Information Studies			
授業の目標・概要：図書館や情報に関係するインターネット上の情報を調査分析するという大枠テーマの中で、参加者が数名のグループで論文を執筆することを前提に、問題設定から論文執筆までのプロセスを批判的に検討し、必要なノウハウを身につけることを目的とする。図書館情報学や関連分野の標準的な雑誌（Libri, Library and Information Science Research, Journal of Documentation, JASIST, IP&M, Scientometrics, Terminology 等）にしかるべき形式・内容の論文を投稿することをもって目標達成の一応の目安とする。ただし、参加者の状況に応じて柔軟に内容を変更する可能性がある。 授業計画：第1回：概要紹介と参加者のグループ化 第2回：研究テーマ提案・議論・研究テーマのとりまとめと分担者配分 第3回～第7回：課題を推進しつつ、主に理論的枠組み、データの収集と分析をめぐる方法論の検討と議論 第8回～第12回：課題を推進しつつ、主にデータの分析と解釈、論文執筆の検討と議論 第13回～第15回：課題の取りまとめと研究方法論の総合的なまとめ 授業の方法：授業初回に参加者を3つのグループにわけ、研究テーマを提出する。それぞれに対して、重要性、実現可能性、アプローチ、スケジュールなどを議論しながら、取り上げるテーマを確定し、そのテーマにそって毎週持ち帰りの課題を実行し、実行した課題に基づいて理論的枠組み、方法論、解釈、論文執筆法の各層にわたる議論を行なう。なお、本授業はプロセスそのものが遂行的に研究方法論をなぞるものとなるので、単に内容を理解するだけでなく、授業へのあるかたちでの参加そのものが重要となる。 成績評価方法：授業への参加度と貢献度に基づき評価する。 教科書：特に指定しないが、論文執筆の極めて具体的などころについての初歩的な参考書として、Michael Meyer. The Little, Brown Guide to Writing Research Papers. Addison Wesley.を授業の進捗段階に応じて紹介する予定である。 参考書：授業時に紹介する。 履修上の注意：特になし その他：グループ単位で持ち帰り課題を課すので、個人的な研究推敲だけでなく、グループでのディスカッション力も重要となる。また、データ処理や統計の基礎を知らない学生は、学部の授業夏学期の情報・資料分析論演習を履修しておくことが望ましい。			
本学他研究科学生		履修可	(5名まで) / 履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可	(2名まで) / 履修不可

科目番号：213-05	担当教員：大谷 尚	単位数：2	学期：夏
講義題目：教育学における質的研究		授業科目：社会教育学特殊研究	
Qualitative Research in Education			
授業の目標・概要： 目標：質的研究に対するできるだけ具体的で包括的な理解を得る。質的データの分析を体験する。教育研究における質的研究の意義と役割，問題と課題を理解する。 概要：質的研究に対するできるだけ具体的で包括的な理解を得るために，質的研究の理論と実践について，背景となる思想，研究方法，研究の基礎となる認識論，量的・実証的研究との相違点，一般化可能性，研究倫理，などについて多面的に解説を行う。また複数の質的研究論文の例を通してその特性や意義、陥りやすい問題等を検討する。その上で，受講者自身が，質的データの分析のためのコード化と理論化を，授業者の開発した質的データの分析手法 SCAT (Steps for Coding and Theorization) を用いて実際に体験する。さらに，自分で質的研究をデザインし相互に評価する。これらを通して教育学研究における質的研究の意義と役割を検討する。 授業計画：第1回 質的研究の概要を理解する。 第2回 質的研究の根本問題（量的研究の共通点・相違点，質的研究の信頼性・妥当性，研究倫理等）について理解する。 第3～4回 教育研究における質的研究の文献を講読し，そこでの conceptual framework と研究手法、また問題点等について検討する。 第5回～8回 教育研究における質的研究の文献を購読し，そこでの conceptual framework と研究手法について検討する。 第9回 SCAT(Steps for coding and theorization) について理解する。 第10～11回 SCAT をデータに適用し，コーディングと理論化について理解する。 第12回 上記適用結果を発表し相互評価を行う。 第13回 自分の研究テーマに従って質的研究のデザインを試みる。 第14回 各自の質的研究のデザインの相互評価を行う。 第15回 全体のまとめと討論により，質的研究の機能と意義，問題と課題を把握する。 授業の方法：概論や方法論についての講義，実際のデータ分析，分析結果についての相互評価等の方法により実施する。 成績評価方法：出席，発表等の授業への貢献，提出物等により総合的に判断する。 教科書：教科書は特に指定しない。 参考書：『質的研究ハンドブック 1-3 巻』 N.K. デンジン・Y.S. リンカン編、平山満義監訳、北大路書房 2006 年『質的心理學講座 第1-3 巻』東大出版会 2008 年 大谷 尚 (2008) 質的研究とは何か—教育テクノロジー研究のいっそうの拡張をめざして。教育システム情報学会誌. 25(3) 340-354 大谷 尚 (2008) 4ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCAT の提案—着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き—。名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要（教育科学）。Vol.54.No.2, 27-44 履修上の注意：この授業は，4月から6月までの金曜に4回×3＝12回分を行い，7月の金曜に3回分を行う。日程は、授業者の公務（名古屋大学教育学部附属中・高等学校長の兼務）との関係で、多少不規則であるが、現在のところ、4/22, 5/27, 6/17, 7/29 を予定している。この授業は、実際にデータ分析を体験するので，演習的・実習的な側面を有している。また，欠席すると分析の実習時にその意味が理解できないことになるので，欠席しないで受講すること。			
本学他研究科学生		履修可 (一名まで) / 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可 (一名まで) / 履修不可	

科目番号：213-06	担当教員：宮崎 隆志	単位数：2	学期：冬
講義題目：社会教育実践への学習論的接近		授業科目：生涯学習論特殊研究	

Understanding Practice of Community education from the view point of Learning Theory			
授業の目標・概要：社会教育実践の内部構造を分析するための課題と方法について検討する。社会教育はノンフォーマルな教育形態として特徴づけられるが、では、その形態に固有の学習とその支援の論理とは何か。この講義では、いくつかの実践事例をとりあげながら、そこから生成するカテゴリーとそれを読み解く理論的ツールを彫琢するための課題について検討したい。 授業計画：宮原誠一の理論枠組みを出発点に置き、戦後社会教育実践分析の課題を確認したのちに、「対話と協働」概念を手掛かりにしながら、活動理論や状況的学習論、批判的教育学に基づく学習論の再構成を試みる。 1. 宮原教育本質論の意義と社会教育実践論の課題、2. 実践事例の再検討、3. 地域福祉実践・若者支援実践が提起する理論的課題、4. 学習論の到達点と課題 授業の方法：配布資料を用意し講義形式で進めるが、事例分析の際は演習形式をとり、参加者との討議を行う。 成績評価方法：レポート 教科書：教科書は使用しない。 参考書：授業中に紹介する。			
本学他研究科学生		履修可 (名まで) / 履修不可	
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可 (名まで) / 履修不可	

科目番号：213-07	担当教員：海野 敏	単位数：2	学期：夏
講義題目：出版文化論		授業科目：図書館情報学特殊研究	
Study of Publishing Culture			
授業の目標・概要：出版という文化的営為を、社会における情報・知識の蓄積・流通の機制のなかに、すなわち広義のメディア環境のなかに位置づけ、その意義、特性、社会的な機能を議論する。議論の前提として、印刷メディアの歴史的な展開、出版産業の近代化への影響、出版流通の実態と課題、出版と図書館の相互関係、デジタル化・ネットワーク化による出版の変容などについて、基本的な知識、理論、研究方法を受講生が主体的に学習する。以上を目的として、授業では学術的な専門文献を選定して購読し、参加者全員で討議を行う。 授業計画：第1回：授業オリエンテーション 第2～3回：出版史と出版流通の基礎知識 第4回：出版文化論の動向、テキストの選定 第5～14回：専門文献の読解と討議 第15回：まとめ 授業の方法：授業の形式は、基本的に受講生が分担・準備をして発表を行うものとする。発表者はA4判のレジュメを必ず用意する。その上で、分担範囲と発表内容をめぐって、教員を含めた参加者全員で検討、議論を行う。 成績評価方法：授業中の発表（70%）と授業の出席・参加度・態度（30%）で評価する。 教科書：受講生の興味・関心と研究テーマに配慮し、全員で相談して選定する。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：213-08	担当教員：牧野 篤	単位数：2	学期：夏
講義題目：生涯学習論特殊研究Ⅰ		授業科目：生涯学習論特殊研究	
Seminar in Lifelong Learning Ⅰ			
授業の目標・概要：社会教育学・生涯学習論を学び、研究するための、院生各自の基本的な視点・研究の枠組み・方法論を形成するための基礎的な訓練とその発展を、文献の講読と検討およびフィールド調査によって、集団的に進める。 授業計画：社会教育学・生涯学習論を学び、研究するための基本的な「構え」の形成とその展開を促すために、社会教育学・生涯学習論に関する古典的な文献とともに、最新の研究成果をレビューする。さらに、フィールド調査を重ねることで、その応用を学ぶとともに、院生各自の基本的な研究の視点と枠組みを発展させることを支援する。調査報告書を作成することで、研究論文の書き方などを習得する。フィールド調査の対象としては、長野県飯田市・千葉県柏市・愛知県豊田市を予定している。 本研究ⅠとⅡは連動して、通年での授業とする予定なので、そのつもりで臨んで欲しい。 授業の方法：基本的に演習形式をとるが、フィールド調査を組み込むことで、各自の研究の視点と枠組みを、集団的な討議と検討を通して、発展させる。また、調査報告書の作成を通して、研究論文の書き方などを習得するとともに、研究成果の地域社会への還元のある方を体得する。 成績評価方法：授業への参加と討議にもとづいて評価する。 教科書：牧野篤『認められたい欲望と過剰な自己語りーそして居合わせた他者と・過去とともにある私へ』（東京大学出版会）を講読文献として使用する。 参考書：適宜紹介する。 履修上の注意：社会教育学・生涯学習論の研究と地域社会への調査に対する強い関心、とくに人と触れ合うことで学ぶ自分をとらえようとする「構え」をもって、授業に臨んで欲しい。 本研究ⅠとⅡに分けての受講は妨げないが、授業の内容上、ⅠとⅡとは連動させて、通年で計画してあるので、通年での受講を考えて欲しい。			
本学他研究科学生		履修可（5名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（5名まで）／ 履修不可	

科目番号：213-09	担当教員：牧野 篤	単位数：2	学期：冬
講義題目：生涯学習論特殊研究Ⅱ		授業科目：生涯学習論特殊研究	

Seminar in Lifelong Learning Ⅱ			
授業の目標・概要：本研究Ⅱのシラバスでも示したが、社会教育学・生涯学習論を学び、研究するための、院生各自の基本的な視点・研究の枠組み・方法論を形成するための基礎的な訓練とその発展を、文献の講読と検討およびフィールド調査によって、集団的に進める。 授業計画：本研究Ⅰと同様、社会教育学・生涯学習論を学び、研究するための基本的な「構え」の形成とその展開を促すために、社会教育学・生涯学習論に関する古典的な文献とともに、最新の研究成果をレビューする。さらに、フィールド調査を重ねることで、その応用を学ぶとともに、院生各自の基本的な研究の視点と枠組みを発展させることを支援する。調査報告書を作成することで、研究論文の書き方などを習得する。フィールド調査の対象としては、長野県飯田市・千葉県柏市・愛知県豊田市を予定している。 本研究ⅠとⅡは連動して、通年での授業とする予定なので、そのつもりで臨んで欲しい。 授業の方法：基本的に演習形式をとるが、フィールド調査を組み込むことで、各自の研究の視点と枠組みを、集団的な討議と検討を通して、発展させる。また、調査報告書の作成を通して、研究論文の書き方などを習得するとともに、研究成果 成績評価方法：授業への参加と討議にもとづいて評価する。 教科書：牧野篤『認められたい欲望と過剰な自己語りーそして居合わせた他者・過去とともにある私へ』（東京大学出版会）を講読文献として使用する。 参考書：適宜紹介する。 履修上の注意：社会教育学・生涯学習論の研究と地域社会への調査に対する強い関心、とくに人と触れ合うことで学ぶ自分をとらえようとする「構え」をもって、授業に臨んで欲しい。 本研究ⅠとⅡに分けての受講は妨げないが、授業の内容上、ⅠとⅡとは連動させて、通年で計画してあるので、通年での受講を考えて欲しい。			
本学他研究科学生		履修可 (5名まで) ／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可 (5名まで) ／ 履修不可	

科目番号：213-10	担当教員：根本 彰	単位数：2	学期：冬
講義題目：図書館情報学理論研究		授業科目：図書館情報学特殊研究	
Theory of Library and Information Studies			
授業の目標・概要：この授業では図書館情報学の初学者を念頭において、図書館情報学や図書館サービス、文書館サービスを支える基本的な理念とパーツとツールを確認する。と同時に、すでにこの分野で研究活動をおこなっているものも改めて全体像を把握し、教育システムや学術システムのなかでどのように位置づけられるのか、自ら確認する作業をしてもらう。 授業計画：図書館や文書館はデジタル情報ネットワーク技術を適用することで、従来の紙ベースのものに比べて格段に「情報基盤」としての存在感が増しているが、一方でその基本理念の問い返しが行われている。それを基本的に理解しながら、現実的な動きにも注意する。 授業の方法：文献講読を含んだ演習方式 成績評価方法：総合的な評価			
本学他研究科学生		履修可 (3名まで) ／ 履修不可	
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可 (3名まで) ／ 履修不可	

科目番号：213-11	担当教員：影浦 峽	単位数：2	学期：冬
講義題目：情報媒体構造論	授業科目：図書館情報学特殊研究		
Study of the Structure of Information Media			
授業の目標・概要:図書やテキスト、単語等の情報媒体ユニットの集まりを対象に、その分布や相互関係を考えて、モデル化・処理の作業を具体的に進める。形式的には集合・分布・グラフとネットワーク等の世界を想定し、具体的な分析・モデル化・操作のレベルでは、フリーの統計ソフトウェアRを用いることを想定する。 単純化のため、データは空間化されており、観察者はデータを外部から捉えることができるものとする。したがって、記述や分析の結果が観察者の認識論的配置に影響を与える、あるいは観察者の立場に応じて記述や分析が異なるような状況は、少なくとも分析の出発点においては想定しない。 具体的にどのようなデータを用いるかはゼミの初回に参加者と相談して決める予定である。特定のテキストは想定しないが、参加者は、できれば岩波講座マルチメディア情報学2『情報の組織化』あるいはそれに相当する内容のものを読んでおくあるいはゼミの前半に並列して読むことが望ましい。その他の必要文献は、進捗に応じて紹介する。 なお、参加者の関心と知識に応じて、大枠は保ちながら、柔軟に内容と進め方を変更する可能性がある。 授業計画:第一回 導入 第二回 対象世界とデータ型 第三回 Rの基本 第四回 データの構築と簡単な統計 第五回 スケールフリー・ベキ則 第六回 zipfR ライブラリの使い方 (1) 第七回 zipfR ライブラリの使い方 (2) 第八回 ベキ則の認識論 第九回 複雑ネットワーク 第一〇回 igraph ライブラリの使い方 (1) 第一一回 igraph ライブラリの使い方 (2) 第一二回 igraph ライブラリの使い方 (3) 第一三回 ネットワークの認識論 第一四回 整理 第一五回 整理 授業の方法:基本的に教師からの解説ではなく受講者の議論と実習を中心に授業を進める。 成績評価方法:平常点および小レポート数回をもって行う予定。ただし、受講者と初回に相談した上で、成績評価方法を変更する可能性はある。 教科書:初回に受講者と相談して決める。 履修上の注意:積極的な参加を求める。			
本学他研究科学生		履修可 (5名まで) /	履修不可
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可 (2名まで) /	履修不可

科目番号：213-12	担当教員：牧野 篤 李 正連	単 位 数：2	学 期：通年
講義題目：生涯学習論論文指導		授業科目：生涯学習論論文指導	

Dissertation Research in Lifelong Learning			
授業の目標・概要：博士論文・修士論文をはじめとして、社会教育・生涯学習関連の研究論文を作成するための、研究方法論検討及び執筆の指導を行う。 受講者による研究発表と相互の議論を通して、また先行研究の検討を通して、オリジナリティある論文執筆のあり方について考える。 必要に応じて、個人指導・ゲストを囲む合評会などを考えたい。 授業計画：院生諸君の必要に応じることを基本として、論文作成支援・論文作成指導を行う。個別指導と終端的な検討・討議を通して、各自が研究方法論を鍛えるとともに、論文作成へのモチベーションを高め、維持するとともに、質の高い論文とはどういうものであるのかというイメージを作り上げる支援を行う。 授業の方法：個別指導と集団での議論・討論を組み合わせ、必要に応じて学外の専門化を招いてのトークセッションなどを行う。 成績評価方法：授業への参加と討議にもとづいて評価する。 参考書：必要に応じて適宜紹介する。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：213-13	担当教員：根本 彰	単位数：2	学期：通年
講義題目：図書館情報学論文指導		授業科目：図書館情報学論文指導	

Dissertation Research in Library and Information Studies			
授業の目標・概要：図書館情報学関連分野を研究しようとする大学院学生のために、研究指導を行う。事前のアポイントに応じて個別指導を行い,定期的に「総合ゼミ」の場で報告を行っていくものである。 授業の方法：個人指導および「総合ゼミ」 成績評価方法：年度末にまとめて行う			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：213-14	担当教員：影浦 峽	単位数：2	学期：通年
講義題目：図書館情報学論文指導		授業科目：図書館情報学論文指導	
Dissertation Research in Library and Information Studies			
授業の目標・概要：図書館情報学・言語情報処理・計量語彙論・情報メディア論分野で修士・博士論文の執筆をめざす大学院生のために、個別およびグループで論文指導を行う。修士課程2年および博士課程3年以上の場合は修士論文および博士論文の執筆および提出を、それ以外の年次の学生には、修士論文、博士論文につながる学会発表、論文執筆を交えながら各段階で必要なノウハウおよび蓄積を蓄えることを目標とする。 授業計画：初回に、各自、自分の研究テーマと年度の目標を提出してもらい、それに応じて、各自の目標を設定するとともに、個別指導および全体指導のスケジュールを決める。 授業の方法：第1回：研究テーマ、年度目標の提出とそれに基づく議論 第2回－第4回：個別指導 第5回：グループ指導および相互の情報交換 第6回－第9回：個別指導 第10回：グループ指導および相互の情報交換 第11回－第14回：個別指導 第15回：グループ指導および相互の情報交換 成績評価方法：各自の目標達成度に応じて行なう。 参考書：用いない。 参考書：各自の研究テーマに応じて随時紹介する。 履修上の注意：特になし			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

総合教育科学専攻 教育社会科学専修 大学経営・政策コース

科目番号：214-01	担当教員：小方 直幸	単位数：2	学期：冬
講義題目：高等教育政策論（1）	授業科目：大学経営政策基本研究		
Higher Education Policy (1)			
授業の目標・概要：この授業では、日本の高等教育政策に関して大学を中心に引き上げ、我が国の高等教育制度の成立と展開に関する事実と課題に対する理解力を養います。日本の高等教育システムの歴史的な成立や展開を踏まえた上で、特に戦後の新制大学の誕生とその後の各種の大学改革をめぐる政策動向に着目し、テキスト・資料の講読並びにディスカッションを受講生とともに進めます。 授業計画：この講義は大きく3つのパートから構成されます。第1は導入で、明治以降の日本の高等教育システムの歴史的な展開を概説します。第2は戦後の制度改革で、新制大学の発足を中心に引き上げます。第3は新制大学発足後以降の大学改革の展開で、大学入試、大学院、私学政策等、いくつかのトピックを設定し、その背景と影響について論じます。なお、授業の内容は、受講者の状況等を勘案して変更や改訂を行うことがあります。 授業の方法：授業の方法は、授業時に提示するテキストや資料の精読・解説を中心に行い、受講者間のディスカッションを適宜採り入れつつ進めます。 成績評価方法：予習等の準備状況、並びにそれを踏まえた授業時のディスカッションへの参加度合や議論の内容、レポートの質等を総合的に判断して行います。 教科書：授業時に提示・配布します。 参考書：授業時に提示します。			
本学他研究科学生		履修可（一名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（一名まで）／ 履修不可	

科目番号：214-02	担当教員：小方 直幸	単位数：2	学期：夏
講義題目：高等教育論（1）		授業科目：大学経営政策基本研究	

Introduction to Higher Education (1)			
授業の目標・概要：この授業では、大学とりわけ大学教育の理念をテーマに取り上げ、大学、大学教育の本質を考えるための枠組を獲得し、ユニバーサル段階を迎えた我が国の大学のあり方を考える思考力を養うことを目的とします。19世紀から20世紀にかけて欧米、特にイギリスやアメリカで展開された大学、大学教育の理念をめぐるテキストの講読並びにディスカッションを受講生とともに進めます。その際、各時代に展開された大学、大学教育の理念論の理解を深めるために、各国の大学の歴史や社会的文脈も同時に学習します。 授業計画：この講義は大きく3つのパートから構成されます。第1は導入で、なぜ現在、大学のあり方を論じることが重要になっているのか、その背景について概説します。第2は19世紀から20世紀初頭の大学論で、イギリスを中心にヨーロッパ特で展開されたものを取り上げます。第3は20世紀以降の大学論で、アメリカで展開されたものを中心に引き上げます。なお、授業の内容は、受講者の状況等を勘案して変更や改訂を行うことがあります。 授業の方法：授業の方法は、授業時に提示するテキストや資料の事前の精読・予習を前提とし、それを踏まえて内容の確認、設定課題に対する受講者間のディスカッションを行いつつ進めます。 成績評価方法：予習等の準備状況、並びにそれを踏まえた授業時のディスカッションへの参加度合や議論の内容、レポートの質等を総合的に判断して行います。 教科書：授業時に提示・配布します。 参考書：授業時に提示します。			
本学他研究科学生		履修可（一名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（一名まで）／ 履修不可	

科目番号：214-03	担当教員：山本 清	単 位 数：2	学 期：冬
講義題目：大学財務会計論（1）		授業科目：大学経営政策基本研究	
Financial Management in Higher Education Institutions (1)			
授業の目標・概要：大学財務及び会計の基礎を会計学・簿記論の基本から学習し、実践的な課題を分析する基礎能力を養います。 授業の方法：会計学の基本書、大学会計の解説書に基づき講義します。また、具体的な大学財務を対象にして活用方策を検討します。 成績評価方法：レポートの結果及び試験にもとづき総合評価します。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／履修不可（本学他研究科学生）あわせて5名まで	

科目番号：214-04	担当教員：山本 清 小方 直幸 両角 亜希子	単 位 数：2	学 期：通年
講義題目：大学経営政策基礎演習（1）		授業科目：大学経営政策基本研究	

Basic Seminar on Higher Education Policy and Management(1)			
授業の目標・概要：大学経営・政策を学び、研究するための、基本的な視点・研究の方法や枠組みを形成するための基礎的な訓練を、文献の購読と検討、各自の研究課題の発表と議論などによって、集団的に進める。 授業の方法：基本的に演習形式をとる。 成績評価方法：毎回の出席と討議への参加。 教科書：授業時に紹介する。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／履修不可	

科目番号：214-05	担当教員：山本 清	単位数：2	学期：夏
講義題目：大学経営政策研究（1）		授業科目：大学経営政策基本研究	

Research Methods for Higher Education Policy and Management(1)			
授業の目標・概要：大学経営・政策の研究を実施するに際し、基本となる研究デザイン、研究手法について具体事例を交えて学習します。 授業の方法：高等教育の研究手法の基本書を開設するとともに事例研究を交えて行います。 成績評価方法：毎回の講義への参加と試験の成績を総合評価します。			

科目番号：214-06	担当教員：両角 亜希子	単位数：2	学期：夏
講義題目：大学経営政策各論（1）		授業科目：大学経営政策特殊研究	
Topics in Higher Education Policy and Management (1)			
授業の目標・概要：大学経営政策各論（1）では、大学組織・経営の問題を中心に扱う。外部講師を招いた特別講義も予定している。 授業計画：初回の授業で詳しい計画を説明する。 授業の方法：講義を基本とするが、グループによる学習や発表も取り入れる予定。 成績評価方法：試験により行う。 教科書：配布資料を用意する。 参考書：随時紹介する。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／履修不可	

科目番号：214-07	担当教員：山本 清	単 位 数：2	学 期：冬
講義題目：大学経営政策各論（2）		授業科目：大学経営政策特殊研究	
Topics in Higher Education Policy and Management (2)			
授業の目標・概要：各国の大学改革の動向と異動点を学習して、大学政策と大学経営の関係を考察します。 授業の方法：OECD の IMHE 関係の文書などに基づき研究報告を読み解き分析します。 成績評価方法：毎回の報告内容と試験の結果を総合評価します。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／履修不可（本学他研究科学生あわせて5名まで）	

科目番号：214-08	担当教員：両角 亜希子	単位数：2	学期：冬
講義題目：大学経営事例研究（1）		授業科目：大学経営政策特殊研究	

Case Study in University Management (1)			
授業の目標・概要：特定の大学やトピックスを選んで、ケーススタディを行う。大学経営に関する特定のテーマについての理解を深めるとともに、ケーススタディの方法を学び、実践することで身につけることを目指す。休日や年末年始を組み合わせ、1週間程度の集中講義の形式をとる予定である。参加者は共同して対象大学についての概要、問題点、その克服などについて報告書を作成し、ホームページに発表する。 授業計画：履修予定者に追って連絡する。 授業の方法：発表、討議形式で行う。 成績評価方法：授業への出席と研究内容によって評価を行う。 教科書：なし 参考書：随時紹介する。 履修上の注意：日程は履修者へのアンケートによって決定する。履修申告したものに、担当者からメールで連絡をするので、返事をする事。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／履修不可	

科目番号：214-09	担当教員：水田 健輔	単位数：2	学期：夏
講義題目：比較大学経営論（1）		授業科目：大学経営政策特殊研究	

Comparative Study in University Management (1)			
授業の目標・概要：海外の大学経営の理論と実践を学び、日本の大学経営との体系的な比較を行うことにより、グローバルな視点からみた大学経営の在り方を修得する。 授業計画：海外の大学を対象に、経営的側面の個別論点を体系立てたケーススタディを実施する予定。 授業の方法：大学経営の個別論点に関する連続講義と意見交換 成績評価方法：受講後の提出レポート			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：214-10	担当教員：小林 雅之	単位数：2	学期：冬
講義題目：高等教育政策の計量分析（1）		授業科目：大学経営政策特殊研究	

Quantitative Analyses of Higher Education Policy（1）			
授業の目標・概要：高等教育政策を分析する基礎となるデータ解析の基本的な手法を実際のデータを分析することにより、マスターする。最も基本的な手法から順に多変量解析の初歩的な手法まで対象とするが、受講生は夏学期の「高等教育調査の方法と解析（1）」を受講している者に限る。 授業計画：回 テーマ 1 イントロダクション 調査統計の思想と技法 2 確率と確率分布 3 推測統計と検定 4 クロス表の分析（1） 5 クロス表の分析（2） 6 課題発表（1） 7 相関と重回帰分析 8 回帰分析の実際 9 課題発表（2） 10 ロジスティック回帰 11 カテゴリカルデータ分析 12 課題発表（3） 13 因子分析と共分散構造分析 14 課題発表（4） 15 試験 授業の方法：講義と演習（課題発表）（上記授業計画参照） 成績評価方法：課題レポート4回（60%）、発表（40%）とする。 教科書：なし 参考書：授業中に指示する 履修上の注意：受講生は夏学期の「高等教育調査と解析（1）」を受講している者に限る。 関連ホームページ：http://www.he.u-tokyo.ac.jp/2007/09/post_54.html			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：214-11	担当教員：大多和 直樹	単位数：2	学期：夏
講義題目：高等教育調査の方法と解析（1）		授業科目：大学経営政策特殊研究	
Methods and Analyses of Surveys in Higher Education (1)			
授業の目標・概要：・社会調査の基礎を身につけることを目標とする。 修士論文等の際に自ら調査を企画・実施し、データ分析まで行えるよう、一通り調査の各プロセスについて把握する。調査を身につけるにあたっては、技術的、知識的な側面にとどまらず、思考のあり方や調査に臨む際の態度などの側面もまた重要となる。授業では、実際に既存数値データの二次分析（エクセル統計等を利用）を演習的に行う中で、そうした部分をも体得することを目指す。 授業計画： 1. ガイダンス～社会調査：知的創造のためのデータ収集法 2. 問いの重要性：研究は問いから始まる 3. 問いから仮説へ 4. 仮説検証を行う：クロス分析とは 5. 検定の考え方：カイ二乗検定 6. アウトプット＝論文に触れる 7. 質問紙の作成法：ワーディングと構成 8. サンプルング 9. 質的方法に触れる 10. 統計の基礎 11. 回帰分析の考え方 <ミニ演習>12. ミニ演習 1 13. ミニ演習 2 14. ミニ演習 3 15. まとめ 授業の方法：社会調査・統計分析の基礎を理論的に学んだ後、ミニ演習（既存調査データの二次分析）を行う。 成績評価方法：平常点： ミニ演習など 40% レポート：60% 教科書：篠原清夫・清水強志・榎本環・大矢根淳『社会調査の基礎』弘文堂 2010 参考書：高根正昭『創造の方法学』講談社 1979 履修上の注意：最初から最後まで通して参加できる学生に限る。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：214-12	担当教員：丸山 文裕	単位数：2	学期：冬
講義題目：アメリカの高等教育（1）		授業科目：大学経営政策特殊研究	

Higher Education in America(1)			
授業の目標・概要：日本の高等教育は、さまざまな面で、少なからずアメリカの高等教育の影響を受けている。よって日本の高等教育を理解する上で、アメリカの高等教育の現状および歴史を理解することは、大切である。本授業では、①英語または日本語のアメリカ高等教育文献を読みこなす力をつける。②文献をまとめ、プレゼンテーションする力をつける。 ③文献または参加者のプレゼンテーションについてコメントする力をつける。④トピックについて参加者と討論する力をつける。 授業計画：1回目 授業内容の説明 文献講読レポーターの割り当て 2回目以降 文献講読。以下の点を検討して、アメリカの高等教育について理解を深める。 ①連邦政府と州政府の役割 ②高等教育財政 ③大学のガバナンスと経営 ④州立大学と私立大学の機能 ⑤高等教育の機会均等 授業の方法：指定された英語または日本語の文献をレポーターが、概要をまとめ、紹介および解釈する。それに基づいて参加者全員が討論を行う。 成績評価方法：レポートの内容、討論参加度、による。 教科書：第1回授業時に指示する。ウェブ上から入手できる文献を中心にする。 参考書：第1回授業時に提示する。 関連ホームページ：国立大学財務・経営センター HP			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：214-13	担当教員：山本 清 小方 直幸 両角 亜希子	単位数：2	学期：通年
講義題目：大学経営政策論文指導		授業科目：大学経営政策論文指導	
----- Individual Tutorial in University Management and Higher Education Policy			
授業の目標・概要：博士論文、修士論文の作成のための論文指導を行う。 授業計画：個々の学生の進捗状況に合わせて指導を行う。具体的なスケジュールは4月に決定する。 授業の方法：個々の学生の内容に応じて論文指導を行う。 成績評価方法：授業への出席と発表。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

総合教育科学専攻 心身発達科学専修 教育心理学コース

科目番号：215-01	担当教員：秋田 喜代美	単位数：2	学期：夏
講義題目：授業の心理学	授業科目：教授・学習心理学基本研究		

Psychology of Teaching			
授業の目標・概要：教育心理学の中でも教授学習研究に関する基本的概念を最近の知見全体を紹介したテキストの購読と議論を通して学び議論する。 授業計画：教授学習に関するハンドブックの授業に関する研究10章分とOECDが2010年10月に出版した近年の学習研究と教育実践をつなぐ知見レビューを読み、学習研究を授業実践とどのようにつないで研究するんかという研究のあり方について議論するために文献購読を行う。 授業の方法：ガイダンスならびに発表担当者による章のポイントの報告と全員での議論と解説等に基づき毎回行う。 成績評価方法：演習への参加による報告や議論による平常点ならびに期末レポート 教科書：Mayer, R. & Alexander, P.(Eds)2011 "Handbook of Resaerch on Learning and Instruction" NY: Routledge Dumont, H., Instance, D., & Benavides, F.(Eds) 2010 "The Nature of Learning:Using Research to Inspire Practice" Paris:OECD 参考書：R. K. ソーヤー（編）森敏昭・秋田喜代美（監訳）2009『学習科学ハンドブック』培風館 pp490. 秋田喜代美・藤江康彦 2010『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会 PP265. 履修上の注意：基本的に毎回出席できることを前提として履修されたい。また英文の読み方や購読指導ではなく議論を重視したいので全員があらかじめ当該章を読んで批判的に議論することを前提としている。本授業は学校教育高度化専攻教職開発学コースの授業とのダブルコードとなっている。			
本学他研究科学生		履修可	(一名まで) / 履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可	(一名まで) / 履修不可

科目番号：215-02	担当教員：市川 伸一	単位数：2	学期：夏
講義題目：認知と教育	授業科目：教授・学習心理学基本研究		
Cognition and Education			
授業の目標・概要：【認知と教育】この夏学期の演習では、教育心理学になじみのない他分野の学生も参加することを考慮し、和文の文献講読とする。すなわち『心理学研究』、『教育心理学研究』、『発達心理学研究』、『認知心理学研究』、『認知科学』の過去3年分の論文の中から、受講者が各自の関心に沿った任意の論文を選択し、内容を要約し、専門用語についての解説をし、「論文査読者」になったつもりで論評を行うものとする。他の受講者は全員がその論文を読み、討論に参加する。論文の批評を通して、問題設定のしかた、実験や調査の方法論、結果の分析と解釈のしかたを身につけることが最大の目的である。訳読の負担が軽減された分、内容的な論評と討論に重点を置くので、受講者はそのつもりで参加してほしい。 授業計画：毎週2人の発表というペースですすめる。 授業の方法：上記の概要を参照。さらに詳しくは、初日に説明する。（発表は上の学年から行っていく。） 成績評価方法：発表、討論などの平常点。ならびに、最終レポート。 教科書：とくに使用しない。 参考書：必要に応じて指示する。			
本学他研究科学生		履修可（2名まで）／履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（2名まで）／履修不可	

科目番号：215-03	担当教員：南風原 朝和	単位数：2	学期：夏
講義題目：心理統計学概論		授業科目：教育情報科学基本研究	

Introduction to Psychological Statistics			
授業の目標・概要：学部段階での統計学習が不十分であると感じる学生，統計に関するいろいろな疑問をかかえている学生を対象に，心理統計学の専門的な内容ではなく，より基礎的な内容に焦点をあてて，今後の統計学習や統計を含む文献を読み解くための足固めをすることを目標とした講義である。学部の心理統計学Ⅰ～Ⅲを受講した学生は対象外とする。 授業の方法：講義形式 成績評価方法：レポート 教科書：南風原『心理統計学の基礎－統合的理解のために』（有斐閣，2002年） 参考書：南風原・平井・杉澤『心理統計学ワークブック－理解の確認と深化のために』（有斐閣，2009年）			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：215-04	担当教員：南風原 朝和	単位数：2	学期：夏
講義題目：心理統計学の諸問題Ⅰ		授業科目：教育情報科学基本研究	

Issues in Psychological StatisticsⅠ			
授業の目標・概要：心理統計学の理論・方法・応用について，新しい展開を広く概観する。講義と，受講者が自分の関心のある論文を紹介して討論する演習とを組み合わせる。進める。 授業の方法：講義＋演習 成績評価方法：平常点			

科目番号：215-05	担当教員：遠藤 利彦	単位数：2	学期：夏
講義題目：感情と進化・文化		授業科目：発達心理学基本研究	
Evolutionary and Cultural Psychology of Human Emotions			
授業の目標・概要：私たちが日々、経験した表出する種々の感情は、私たち個々人の内的生活や心理・生理的適応において、また私たち個人と他者との関係性の構築や維持において、あるいはまた私たちを取り巻く社会・文化的風土 (climate) の形成において、きわめて多様かつ不可欠の役割を果たしていると考えられる。この演習では、主に進化に由来する感情の基本的性質と、それと人間関係、集団、文化との関わりなどについて広く概観・整理したテキストを批判的に精読することを通して、私たちの日常の社会的な生活全般における感情の機能と意味について、進化論と文化論、両方の視座から深く統合的に考究することにした。 特に今年度は、ヒトの様々な感情およびそれに深く結びついた社会的行動や社会的認知（あるいはそれらの発達）がどのような進化的要因と結びついて在るかということについて考察を深めることとする。 授業計画：初回に各回の担当者を定め、全体のスケジュールを組む。 授業の方法：各回の担当者が、テキストにおける担当箇所の概要とそれに対する自身のコメントを発表し、それに基づいて全員参加型の議論を行う。また、必要に応じて、教員が補足的あるいは発展的な内容の講義を行うものとする。 成績評価方法：授業への出席状況と発表内容および毎回の議論への参加度などに基づいて、総合的に評価を行う。 教科書：教員が複数のテキストの候補を挙げ、参加者と相談の上、その内の1～2冊を選択・決定する。 テキスト候補：① Fogas, J. P., Haselton, M. G., von Hippel, W. (2007). Evolution and the social mind: Evolutionary psychology and social cognition. New York: Psychology Press. ② LaFreniere, P. (2010). Adaptive origins: Evolution and human development. New York: Psychology Press. 参考書：授業時に、適宜、紹介する。			
本学他研究科学生		履修可 (名まで) / 履修不可	
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可 (名まで) / 履修不可	

科目番号：215-06	担当教員：針生 悦子	単位数：2	学期：夏
講義題目：ことばと認知の発達 I		授業科目：発達心理学基本研究	
Language and Cognitive Development I			
授業の目標・概要：言語を獲得するとはどのようなことで、そのためには何が必要か。また、言語を獲得することで思考や認知などはどのように変わるのか。このような問題意識のもと、基本的な文献の購読をおこなう。 授業の方法：演習形式 成績評価方法：授業における発表や発言の内容を評価する 教科書：初回、授業時に指示する			
本学他研究科学生		履修可 (名まで) / 履修不可	
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可 (2名まで) / 履修不可	

科目番号：215-07	担当教員：佐々木 正人	単位数：2	学期：夏
講義題目：生態心理学 I		授業科目：教育認知科学基本研究	

Ecological Psychology I			
授業の目標・概要：生態心理学の文献を最新の学会誌から、生態心理学の背景をなす書物、主としてこの両者を読みます。ギブソン自身の書いたものも少しは検討します。また参加者独自の研究を発表していただき吟味します。発達、身体行為、習慣、デザイン、ロボット、建築、身体論など広い関心を持つ参加者を求めます。 授業計画：参加者の発表をベースに議論します。最初の回に内容と分担スケジュールを話し合います。 授業の方法：レジュメ発表と議論。 成績評価方法：発表とレポートで行います。 参考書：以下の図書は読んでみてほしい。 ギブソン 生態学的視覚論（サイエンス社） ギブソン 知覚システム論（東大出版会 近刊） 佐々木 レイアウトの法則（春秋社） 佐々木 アフォーダンス（講談社学芸文庫） 履修上の注意：継続して参加すること。自分の考えを話してみることに。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：215-08	担当教員：岡田 猛	単位数：2	学期：夏
講義題目：創造的認知の心理学 I		授業科目：教育認知科学基本研究	

Psychology of Creative Cognition I			
授業の目標・概要：創造性についての心理学的・認知科学的な研究に関する文献講読により、この領域の基礎的な知見を獲得することを目指す。 授業の方法：今年度は、Kaufman & Sternberg (Eds.) (2010). The Cambridge handbook of creativity. を通年で講読する。参加者には、毎回の授業に出席し議論に参加することと、担当章の発表が求められる。 成績評価方法：授業への出席と議論への参加、及び担当章の発表。 教科書：Kaufman & Sternberg (Eds.) (2010). The Cambridge handbook of creativity.			
本学他研究科学生		履修可 (一名まで) / 履修不可	
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可 (一名まで) / 履修不可	

科目番号：215-09	担当教員：秋田 喜代美	単位数：2	学期：夏
講義題目：保育学研究		授業科目：教授・学習心理学特殊研究	

Studies on Early Childhood Education			
授業の目標・概要：保育者の専門性や熟達ならびに専門性開発のための園内研修等に関する研究文献を読むことで、保育者の知識や思考判断、行為における専門性とその開発に関する知識の習得と研究方法、ならびに最近の動向について心理学、保育学、保育制度・組織の観点から学ぶことを目標とする。 授業計画：初回2回はガイダンスならびに秋田の近年の保育の専門性に関する研究の紹介、3－6回は保育者個人の専門的知識や熟達に関する文献等の購読、7－10回は園内研修等組織的なあり方に関する論文文献の購読、10－14回は管理職としての園長や施設長の役割、ならびに海外における国や自治体での保育者の専門性開発、職場開発の在り方に関する文献購読と議論を行う。1－2回は現職のベテランの園長等に来ていただいて実践事例を含めての議論を深めたいと考えている。 授業の方法：上記主題に関する文献の報告と議論、ならびにDVD視聴等を通して保育者ならびに組織的な専門性開発のありかたに関して検討を行う。保育者と小学校以上の教師の専門性との差異や共通性に関連して議論を行いながら進めたいと考える。 成績評価方法：演習への参加による平常点ならびに期末レポートによる。 教科書：秋田喜代美・西山薫・菱田隆昭（編）『今を生きる保育者論』みらい 2007 pp199 参考書：秋田喜代美・芦田宏・鈴木正敏・門田理世・野口隆子・箕輪潤子・淀川裕美・小田豊『子どもの経験から振り返る保育プロセス：明日のより良い保育のために』2010 幼児教育映像制作委員会 津守真 『保育者の地平』ミネルヴァ書房 履修上の注意：本授業は学校教育高度化専攻教職開発学コースとのダブルコード授業である。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：215-10	担当教員：秋田 喜代美	単位数：2	学期：冬
講義題目：授業における学習研究		授業科目：教授・学習心理学特殊研究	

Research on Learning in Classroom			
授業の目標・概要：リテラシーの習得と教室談話、授業、教師に関する論文の輪読と議論を行うことを通して、論文の読み方と最近の動向の検討を行なう。 授業計画：国語、英語などの読解・文章産出指導、科学数学リテラシー、メディアリテラシー、ソーシャルリテラシーに関して、この数年間に発刊された実証論文をある著者やトピックを中心にして参加者が選択し、それらを批判的に読むことを通して、議論を行う。 授業の方法：トピックスごとに複数名で分担しながら、学校における学習過程に関する近年のジャーナル論文を紹介しあい、議論する。とりあげる雑誌としては、Cognition and Instruction, Learning and Instruction, Journal of the Learning Sciences, Educational Psychologist, Journal of Educational Psychology, Teaching and Teacher Education 等を予定している。 成績評価方法：演習への参加および発表と討議、学期末小レポート 教科書：指定せず 参考書：ソイヤ、K（編）森敏昭・秋田喜代美（監訳）『学習科学ハンドブック』培風館 2009 秋田喜代美・藤江康彦（著）『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会・2010 履修上の注意：本授業は、学校教育高度化専攻教職開発学コース、教育内容コースとのダブルコード授業となっている。 関連ホームページ：なし その他：なし			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：215-11	担当教員：市川 伸一	単位数：2	学期：冬
講義題目：教授・学習過程		授業科目：教授・学習心理学特殊研究	

Teaching-Learning Process			
授業の目標・概要：半年の間に、ある研究分野についてのレビューを行うことを目標とする。中間報告を経て、最終的には年度末にプレゼンテーションを行う。レビューは、単なる先行研究の紹介やまとめではなく、主体的に構成し、何らかの主張を持ったものでなくてはならない。そのため、教育心理学という制約は一応つけるが、幅広い分野の中から、受講者が興味を持って没頭できるテーマを自ら選択して提起してほしい。卒業論文や修士論文を書き上げた学生は、核となるテーマを持っているであろうから、それらを膨らませる方向でも差し支えない。なお、発表は学会の小講演のような形式で行うので、効果的なプレゼンテーションのしかたについても身につけてほしい。なお発表は学会の小講演のような形式で行うので、効果的なプレゼンテーションのしかたについても身につけてほしい 授業計画：途中で、「よいレビューとは何か」「よいプレゼンとは何か」について、博士課程の学生から発表してもらい、全体討議を行う。1月頃、中間発表会を行い、3月上旬に最終発表会を行う。 授業の方法：通常のゼミのように、毎週集まり発表するというものではないが、最後の発表会はまるまる2日（ほぼ全日）かかるので、そのつもりで参加すること。 成績評価方法：発表などの平常点、および最終レポート。最終レポートは、発表のビデオと相互評価をもとに、自らの発表、他者の発表についてまとめ、今後の改善に生かすためのものである。 教科書：とくに使用しない。 参考書：必要に応じて指示する。 履修上の注意：初回に詳しい説明を行うので、必ず出席すること。 その他：このゼミを過去に受講した学生が再度受講する場合、レビューではなく、自らの実施した調査や実験等のリサーチを発表してもよいこととする。			
本学他研究科学生		履修可 (2名まで) / 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可 (2名まで) / 履修不可	

科目番号：215-12	担当教員：南風原 朝和	単位数：2	学期：冬
講義題目：心理統計学の諸問題Ⅱ		授業科目：教育情報科学特殊研究	

Issues in Psychological Statistics Ⅱ			
授業の目標・概要：夏学期に引き続き、心理統計学の理論・方法・応用について、新しい展開を広く概観する。講義と、受講者が自分の関心のある論文を紹介して討論する演習とを組み合わせる。 授業の方法：講義＋演習 成績評価方法：平常点			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：215-13	担当教員：遠藤 利彦	単位数：2	学期：冬
講義題目：関係性と子どもの社会情緒的発達		授業科目：発達心理学特殊研究	
Relationships and Children's Socio-Emotional Development			
授業の目標・概要：近年の発達心理学およびその周辺諸科学の成果を広く概観・整理したテキストを精読しながら、特に子どもの社会情緒的発達の様相、および、それらに養育環境、とりわけ種々の関係性（親子関係や家族関係など）や社会文化の特質がいかなる影響を及ぼし得るかについて基本的知見を得る。また、早期段階における個人差が何に起因して生じ、また、それがその後の生涯発達過程においてどのような連続性あるいは不連続性を呈するかなどについても、遺伝と環境に関する最新の諸議論を踏まえつつ考究することとしたい。 特に今年度は、養育者と子どものアタッチメントが、その脳神経学的な基盤も含め、いかに子どもの社会性の発達に影響を及ぼし得るかというところに力点を置き、考察を深めることとする。 授業計画：初回に各回の担当者を定め、全体のスケジュールを組む。 授業の方法：各回の担当者が、テキストにおける担当箇所の概要とそれに対する自身のコメントを発表し、それに基づいて全員参加型の議論を行う。また、教員が必要に応じて、補足的あるいは発展的な内容の講義を行うものとする。 成績評価方法：授業への出席状況と発表内容および毎回の議論への参加度などに基つき、総合的に評価を行う。 教科書：教員が複数のテキストの候補を挙げ、参加者と相談の上、その内の1～2冊を選択・決定する。 テキスト候補： ① Hart, S. (2011). The impact of attachment. New York: W. W. Norton & Company. ② Music, G. (2011). Nurturing natures: Attachment and children's emotional, sociocultural and brain development. New York: Psychology Press. 参考書：授業時に適宜、紹介する。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：215-14	担当教員：針生 悦子	単位数：2	学期：冬
講義題目：ことばと認知の発達Ⅱ		授業科目：発達心理学特殊研究	

Language and Cognitive Development Ⅱ			
授業の目標・概要： 言語発達や認知発達をあつかった研究論文の購読を通じて、最新の研究動向をさぐるとともに、研究手法などについて学ぶ。			
授業の方法： 演習形式			
成績評価方法： 授業における発表や発言などを評価する			

科目番号：215-15	担当教員：佐々木 正人	単位数：2	学期：冬
講義題目：生態心理学Ⅱ		授業科目：教育認知科学特殊研究	
Ecological Psychology Ⅱ			
授業の目標・概要：すべて生態心理学Ⅰに準じます。 ただしⅠに参加していなくても問題ありません。 授業の方法：生態心理学Ⅰに準じます 成績評価方法：生態心理学Ⅰに準じます。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：215-16	担当教員：岡田 猛	単位数：2	学期：冬
講義題目：創造的認知の心理学Ⅱ		授業科目：教育認知科学特殊研究	

Psychology of Creative Cognition Ⅱ			
授業の目標・概要：夏学期の「創造的認知の心理学Ⅰ」の継続授業であり、Kaufman & Sternberg (Eds.) (2010). The Cambridge handbook of creativity. の講読を行う。 授業の方法：夏学期の「創造的認知の心理学Ⅰ」の継続授業であり、同じ授業方法である。 成績評価方法：夏学期の「創造的認知の心理学Ⅰ」の継続授業であり、同じ成績評価方法である。 教科書：Kaufman & Sternberg (Eds.) (2010). The Cambridge handbook of creativity.			

科目番号：215-17	担当教員：荘島 宏二郎	単位数：2	学期：夏
講義題目：テスト理論とその展開：学力テスト・心理テストの尺度構成法		授業科目：教育情報科学特殊研究	
Test Theories for Constructing Ability Tests and Psychological Questionnaires			
授業の目標・概要：心理質問紙あるいはテストについて、尺度の作成法および尺度を用いた評価法に関連する統計学的な手法について学習する。また、関連するソフトウェアの使い方についてもレクチャーする。履修希望者は、学部までの基礎的な統計学に関する知識を前提とする。			
授業計画：計画は、授業の進度によって、多少前後する可能性があるが、おおむね以下のよう なスケジュールで考えている。			
第1回 ガイダンス 第2～3回 古典的テスト理論 第4～6回 項目反応理論 第7～9回 潜在ランク理論（ニューラルテスト理論） 第10～最後 因子分析・多変量解析など			
授業の方法：教員が、資料に基づき解説を行う。			
成績評価方法：レポートを課す。			
参考書：植野真臣・荘島宏二郎（2010）学習評価の新潮流 朝倉書店			
関連ホームページ：http://www.rd.dnc.ac.jp/~shojima/			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：215-18	担当教員：豊田 秀樹	単位数：2	学期：冬
講義題目：共分散構造分析—構造方程式モデリング—		授業科目：教育情報科学特殊研究	
Covariance Structure Analysis - Structural Equation Modeling -			
授業の目標・概要：共分散構造分析（構造方程式モデリング）を中心に、でもそればかりではなく心理統計モデルの幾つかを選んで（質的研究のための理論的飽和の目安とか、AHPとか）入門的な学習をします。 授業の方法：基本的に講義形式で行いますが、レポートしてもらうこと、データをとってもらうこと、各自分析してもらうこと、発表してもらうことなどもあるかもしれません。 成績評価方法：出席数・討論や発表などの平常点で行います。 教科書：特にありません。 参考書：共分散構造分析「Amos 編」 東京図書 共分散構造分析「入門編」 朝倉書店 データマイニング入門 東京図書 消費者心理を読み解く統計学 東京図書 拙著です。 履修上の注意：心理統計学を専門としている学生ではなく、統計分析を使おうとしている院生さんの参加を期待しています。 関連ホームページ：http://www.waseda.jp/sem-toyoda-lab/index.html			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：215-19	担当教員：古山 宣洋	単位数：2	学期：冬
講義題目：生態学的コミュニケーション論	授業科目：教育認知科学特殊研究		
Ecological Approach to Communication			
授業の目標・概要：本科目では、生態心理学を基盤とするコミュニケーション論について考究する。生態心理学は、有機体が、自身の動きによって生じる包囲エネルギーの変換において持続する変わらない部分、すなわち不変項を情報として取り出すことで環境の知覚を達成し、さらにそのようにして取り出した情報が、環境内における自身の行為の可能性としてのアフォーダンスを特定するとする知覚理論を提案している。本講義では、生態心理学が提案する観点から言語的・非言語的コミュニケーションに関して考究し、学習場面、教示場面、心理カウンセリング場面などの理解にどのような意味をもつのかについて討議する。 授業の方法：講義・討議 成績評価方法：発表（人数によってはレポート） 教科書：資料は適宜配布予定 参考書：参考書は適宜周知予定			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：215-20	担当教員：秋田 喜代美	単位数：2	学期：通年
講義題目：教育心理学論文指導		授業科目：教授・学習心理学論文指導	
Dissertation Research in Educational Psychology			
授業の目標・概要：保育や授業研究について、教育心理学的なアプローチによって、各自の研究テーマにそって実証的な論文執筆ができるように指導を行う。 授業計画：保育や学校教育という制度的な場での子どもや教師の発達、保育や授業での言葉や談話の分析、保育者及び教師の認知と思考や園・学校での保育者と教師の学習等に関して、修士論文、博士論文等の執筆を希望する者に対して具体的に、それぞれの問題意識に即して論文執筆が当該年にできるように指導を行なう。 授業の方法：個人指導および秋田研究室全体での集団での論文指導を行う。 なお本論文指導は、学校教育高度化専攻教職開発コースの授業研究分野論文指導と時間割上同時に開講される。 成績評価方法：個人の論文執筆過程における研究状況と研究成果によって評価を行う。 教科書：指定なし 参考書：指定なし 履修上の注意：本演習は、秋田を指導教員とする者に対して実施する。 関連ホームページ：なし その他：特になし			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／履修不可	

科目番号：215-21	担当教員：市川 伸一	単位数：2	学期：通年
講義題目：教育心理学論文指導		授業科目：教授・学習心理学論文指導	
Dissertation Research in Educational Psychology			
授業の目標・概要：教育心理学、とくに、教授・学習の分野で修士論文・博士論文を書こうとしている学生に対し、研究指導、発表指導、論文指導等を行う。			
授業計画：年間にわたり、随時行う。			
授業の方法：研究指導、発表指導			
成績評価方法：総合的に判断する			

科目番号：215-22	担当教員：南風原 朝和	単 位 数：2	学 期：通年
講義題目：教育心理学論文指導		授業科目：教育情報科学論文指導	
Dissertation Research in Educational Psychology			
授業の目標・概要：教育情報科学の分野で修士論文・博士論文を執筆する学生に対し，研究指導および論文指導を行う。			
授業の方法：演習形式			
成績評価方法：平常点			

科目番号：215-23	担当教員：遠藤 利彦	単 位 数：2	学 期：通年
講義題目：教育心理学論文指導		授業科目：発達心理学論文指導	
Dissertation Research in Educational Psychology			
授業の目標・概要：修士論文または博士論文の執筆に向けた研究指導を行う。 授業の方法：基本的に演習形式で行う。 成績評価方法：平常点。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：215-24	担当教員：針生 悦子	単位数：2	学期：通年
講義題目：教育心理学論文指導		授業科目：発達心理学論文指導	

Dissertation Research in Educational Psychology			
授業の目標・概要：心理学，特に，認知，言語，および発達の分野で修士論文・博士論文を書こうとしている学生に対して，研究指導，論文指導をおこなう。 授業の方法：演習形式。参加者は，各自の研究の経過や見通しについて発表をおこない，それに対して，討論・助言をおこなっていく。 成績評価方法：演習における発言や発表を総合的に評価する。			

科目番号：215-25	担当教員：佐々木 正人	単位数：2	学期：通年
講義題目：教育心理学論文指導		授業科目：教育認知科学論文指導	
Dissertation Research in Educational Psychology			
授業の目標・概要：学位論文作成の指導を行います 授業の方法：個別あるいは集団で行います 成績評価方法：参加を持って行います			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：215-26	担当教員：岡田 猛	単位数：2	学期：通年
講義題目：教育心理学論文指導		授業科目：教育認知科学論文指導	
Dissertation Research in Educational Psychology			
授業の目標・概要：教育心理学の論文指導を通して、院生の研究論文を執筆能力を高める。 授業計画：院生の研究論文を執筆能力を高めるために、教育心理学の論文指導を行う。 授業の方法：個別指導 成績評価方法：総合的に判断する。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

総合教育科学専攻 心身発達科学専修 臨床心理学コース

科目番号：216-01	担当教員：下山 晴彦 中釜 洋子	単位数：1	学期：夏
講義題目：臨床心理実習Ⅰ		授業科目：臨床心理システム論基本研究	
Practicum in Clinical PsychologyⅠ			
授業の目標・概要：＜全体テーマ＞学内研究機関である心理教育相談室および学外の連携研修機関（精神科病院、クリニック、学校、産業組織など）において臨床業務に参加し、現場実習を行う。その経験の見直しを兼ねて事例検討を行う。 授業の方法：毎回、小グループに分かれたケース検討という形で授業を進める。受講生による担当ケースの発表とグループ討議、教員からのコメントによって授業を構成する。 成績評価方法：出席状況と授業における発表とアクティブな参加状況、必要に応じて課題として出すレポートにより総合的に判断する 履修上の注意：受講者の積極的なコミットメントを期待したい			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／履修不可	

科目番号：216-02	担当教員：下山 晴彦 中釜 洋子	単位数：1	学期：冬
講義題目：臨床心理実習Ⅱ		授業科目：臨床心理システム論基本研究	
Practicum in Clinical PsychologyⅡ			
授業の目標・概要：臨床心理実習Ⅰに引き続いて内部実習および外部実習を継続する。テーマ：臨床心理実習Ⅱでは、特に修士課程終了の活動への移行に向けての準備を行う。その点で、臨床現場で臨床心理士として活動するための社会性、倫理、他職種との協働などの知識と技能の獲得を主要な教育訓練の目標とする。 授業の方法：学内臨床実習＋外部施設研修＋事例検討会 成績評価方法：レポート提出			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／履修不可	

科目番号：216-03	担当教員：高橋 美保	単位数：2	学期：冬
講義題目：臨床心理学特論Ⅱ		授業科目：臨床心理システム論基本研究	
Clinical Psychology Ⅱ			
授業の目標・概要：特論Ⅰにおける臨床心理学の専門性についての基本的な理解を前提に、特論Ⅱでは実際の臨床現場で様々な社会システムと関わっていく際に求められる実践的な態度、知識、技能について講義する。社会的場面で働く際に必要な専門性について、講義とワーク、ディスカッションを通して学ぶことをねらいとする。 授業計画：＊コミュニティにおける心理援助 ＊集団（グループワーク、家族）を通しての心理援助 ＊人生の移行を理解する ＊援助専門職のセルフケア 授業の方法：テーマを選択し、テーマごとにグループで発表を担当する。毎回、発表とワーク、グループシェアリングを組みこむ。 成績評価方法：発表、毎回のレポートにより総合的に評価する。 教科書：「心理援助の専門職として働くために」 金剛出版 下山晴彦（監訳） 参考書：授業の中で適宜紹介する。 履修上の注意：発表をグループで担当することからも、グループワークを直に体験して頂きたい。全体シェアリングにおいても積極的な参加を求めます。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：216-04	担当教員：能智 正博	単位数：2	学期：冬
講義題目：臨床心理面接特論Ⅱ		授業科目：臨床心理システム論基本研究	
Interview Methods for Clinical Psychology Ⅱ			
授業の目標・概要：近年、臨床心理学的な研究において質的研究の技法に近年ますます注目が集まっている。心理療法やカウンセリングなどの実践においても、面接結果をていねいに読み解いていくための手続きや技法は、質的な調査インタビューから学ぶところが大きい。 この授業では、基本的なテキストの輪読をして質的なインタビュー調査の全体像を理解した後、各自が収集した語りデータを素材として分析法の実習を行う。手法としてはグラウンデッドセオリー・アプローチを基本としながら他の方法にも目配りを行い、幅広く質的データの分析法を理解することを目標とする。 授業計画：以下のようなトピックを扱う。・インタビューの諸理論 ・インタビュー法のバリエーション ・インタビューの手順 ・ナラティブの分析の諸技法 ・初期コーディングの手続き ・発展的コーディングの手続き 授業の方法：学期の前半では調査インタビューに関するテキストを素材にして、受講者は担当箇所の発表を行うとともに、ディスカッションのファシリテーターの役割を担う。並行して、授業外でインタビューを行ってデータを用意する。 学期の後半では、分析をいくつかのステップに分けて学んでいくが、受講生が語りのデータを提供し、それをエクササイズの方法として用いながら分析の手続きを学んでいく。収集したデータの分析は各自進めていき、最終的に、分析結果をもとにしたレポートを執筆する。 成績評価方法：出席と授業への参加：50% レポート：50% 教科書：開講時に指示する。 参考書：Kvale, S. & Brinkmann, S. (2009) InterViews: Learning the crafts of qualitative research interviewing. Sage Publication. 能智正博 (2011) 質的研究法. (東京大学出版会) 履修上の注意：臨床心理学コース限定の授業なので、他コースの学生は受講できません。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／履修不可	

科目番号：216-05	担当教員：中釜 洋子	単位数：2	学期：冬
講義題目：臨床心理学特論 I		授業科目：臨床心理カリキュラム論基本研究	
Clinical Psychology I			
授業の目標・概要：臨床心理学の初学者を対象に、臨床心理学の全体像と学習にあたっての心構えについて講義する。特に心理援助職を目指すための心構え、教育訓練過程で必要とされる最低限の知識と技能とは何かについて、講義とディスカッションを通して学ぶことがねらいである 授業計画：§ 1：臨床心理学とは何か § 2-4：臨床心理士になることの意味／動機を探る § 5-7：臨床心理学の教育訓練の過程 § 8-9：学習にあたっての心構え § 10-11：学習に臨む姿勢 § 12-14：専門性を見直しと発展 授業の方法：レポーターの発表とグループ討議を中心を授業を進めるグループダイナミクスも取り入れて、グループワークのファシリテートについても体験的に学ぶ構成とする 成績評価方法：毎回の振り返りレポートの提出と、レポーターを努めること、授業の最後に提出する課題レポートによって総合的に評価する 教科書：コーリー&コーリー（下山監訳）『心理援助の専門職になるために』 金剛出版 参考書：授業の中で適宜紹介する 履修上の注意：レポーターを務めることは何よりの体験的学びとなる。積極的に臨み、自分自身の傾向について考えてみて頂きたい。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／履修不可	

科目番号：216-06	担当教員：下山 晴彦	単位数：2	学期：夏
講義題目：臨床心理査定演習 I		授業科目：臨床心理カリキュラム論基本研究	
Seminar on Assessment of Clinical Psychology I			
授業の目標・概要：<全体テーマ>臨床心理学の実践活動におけるアセスメントの意義と役割、そしてその方法を解説し、シミュレーション学習を行うことを通して、実際に現場で活用できる準備をする。 テーマ：アセスメントの基礎知識と方法の解説 ＊臨床活動におけるアセスメントの役割 ＊アセスメントの過程と方法 ＊精神障害の分類 ＊異常心理学 ＊DSMの解説と活用法 ＊心理機能の正常と異常 ＊見立ての形成：機能分析とケースフォームレーション ＊初回面接 授業の方法：1) 臨床心理アセスメントに関する文献購読と発表 2) ビデオによる異常心理解説 3) 各障害についての研究成果の発表 成績評価方法：レポート提出 教科書：『臨床心理アセスメント入門』下山晴彦（著） 金剛出版 『テキスト臨床心理学別巻 理解のための手引き』下山晴彦（編著）誠信書房 参考書：『精神医学を知る』 金生由紀子・下山晴彦（編） 東京大学出版会			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／履修不可	

科目番号：216-07	担当教員：下山 晴彦 中釜 洋子	単位数：1	学期：夏
講義題目：臨床心理基礎実習 I	授業科目：臨床心理カリキュラム論基本研究		
----- Basic Practicum in Clinical Psychology I			
授業の目標・概要：＜全体テーマ＞臨床心理活動の基礎となる実践技能を解説し、その上でシミュレーション学習を通して技能を習得する。現場で実践活動を行うための最低限の技能を習得することが目的となる。 テーマ：臨床面接法の基礎理論と技能実習 ＊臨床面接法とは ＊臨床面接法の基礎理論と技能 ＊共感的面接技能の基礎訓練 ＊ロールプレイ実習 1 とグループ討議 ＊査定の面接技能の基礎理論と技能 ＊ロールプレイ実習 2 とグループ討議 テキスト：「心理臨床の基礎 1：心理臨床の発想と実践」 岩波書店 下山晴彦（著） 授業計画： § 1～2：レクチャー「臨床面接法とは」 § 3～9：共感を用いた臨床面接のロールプレイとその振り返り § 10～14：アセスメント面接のロールプレイとその振り返り § 15：質疑応答 授業の方法：講義とロールプレイの実施及びテープ起こしデータを用いた小グループでの話し合いという形態で授業を進める 成績評価方法：出席状況と授業へのアクティブな参加状況、学期末およびセッションの区切りで課すレポートとで総合的に判断する 教科書：「心理臨床の基礎 1：心理臨床の発想と実践」 岩波書店 下山晴彦（著） 参考書：授業中に適宜紹介する 履修上の注意：ロールプレイとその振り返りを用いての体験学習であるので、積極的なコミットメントを期待したい			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：216-08	担当教員：下山 晴彦 高橋 美保 中釜 洋子	単位数：2	学期：冬
講義題目：臨床心理面接特論 I	授業科目：発達臨床心理学基本研究		
----- Interview Methods for Clinical Psychology I			
授業の目標・概要：テーマ I：心理療法の方法としての個人面接とは何かについて解説する。 ＊心理援助技法論（来談者中心療法・分析心理学・精神分析・認知行動療法） テーマ II：集団やシステムなどに介入する理論と具体的技法を解説する。 ＊家族療法 ＊集団療法 ＊コミュニティ心理学的介入 ＊コンサルテーション ＊スクールカウンセリング 授業の方法：担当教員がオムニバス形式で授業を担当する。 成績評価方法：成績評価方法：平常点と学期末レポートにより総合的に評価する。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：216-09	担当教員：能智 正博 高橋 美保	単位数：2	学期：夏
講義題目：臨床心理査定演習Ⅱ	授業科目：発達臨床心理学基本研究		
Seminar on Assessment of Clinical Psychology Ⅱ			
授業の目標・概要：心理アセスメント―見立てをたてるということ―は、心理的な問題を理解するために不可欠である。アセスメントには、心理臨床面接におけるクライアントの話をもとに行う場合と、心理検査をもとに行う場合がある。本演習では後者の心理検査を用いたアセスメントに焦点化し、心理援助実践において使われる心理検査の概要を把握するとともに、それらを適切に実施し、アセスメントする能力を獲得することを目指すとする。 概要：はじめにアセスメント全体の概説を行い、次に、様々な心理検査についての概要の説明をした上で、受講者全員が互いに検査をとりあい、検査結果を書きあげるという一連のワークを行う。本演習では、検査者としての検査スキル、アセスメント能力の向上を図るとともに、検査をされる側の体験をすることも重視している。 授業計画：*アセスメントを行うことの意味 *アセスメントの方法と実際 *アセスメントの結果をどのように心理援助にいかすか *様々な質問紙検査の解説と実習 *発達検査（K-ABC 式検査）の解説と実習 *知能検査（WISC-Ⅲ・WAIS-R）の解説と実習 *知能検査（ビネーV）の解説と実習 *神経心理学的検査の解説と実習 *投映法（ロールシャッハ・テスト、SCT、描画法）の解説と実習 *シェアリング 授業の方法：講義＋ロールプレイ 成績評価方法：授業＋レポート 教科書：授業中適宜伝える。 参考書：授業中適宜伝える。 履修上の注意：臨床心理学コースの学生のみ受講可能。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：216-10	担当教員：中釜 洋子 高橋 美保	単位数：1	学期：冬
講義題目：臨床心理基礎実習Ⅱ	授業科目：発達臨床心理学基本研究		

Basic Practicum in Clinical Psychology II			
授業の目標・概要：目標：心理面接の実際の流れを把握し、面接の始まりから終結までの一連のケース運営の基礎的知識と実践力を獲得することを目標とする。 概要：心理教育相談室を例として、相談機関の組織の構造を理解すると同時に、ケース運営のポイントについて理解を深める。具体的には心理相談が、どのように始まりどのような経過を経て終わって行くのかについて一連の流れを理解し、様々な局面における臨床的論点について考えを深める。具体的な臨床実践としては、遊戯療法、保護者との並行面接などに焦点化する。 授業計画：具体的には以下の内容をテーマとする＊相談機関の組織 ＊相談申し込みとインテーク面接 ＊ケース運営の様々な形 ＊遊戯療法 ＊保護者面接 ＊保護者並行面接とコワーク ＊ケースの危機 ＊ケースの終わり方 授業の方法：各テーマについての概説とディスカッションを行う。 テーマによってはワーク、ロールプレイを行う。 成績評価方法：平常点			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：216-11	担当教員：中釜 洋子	単位数：2	学期：夏
講義題目：家族心理学特論		授業科目：臨床心理システム論特殊研究	
Family Psychology			
授業の目標・概要：システミックな理解を身につけることで、家族の力動について理解し、臨床現場で複数人が構成する人間関係への介入が出来るような実践的知識と方法論を身につけることをねらいとする。とりわけ今年は、受講者の関心領域と研究テーマを意識し、そこでのスペシフィックな問題に対するシステミックな見立てと介入について学ぶことに焦点を当てる 授業計画：§1：オリエンテーション §2～8：システミックなセラピーとは何か：カギ概念、ねらい、面接の進め方（技法）を学ぶ 修士課程の学生がレポーターとなり、課題論文の購読とロールプレイ §9～14：臨床事例を素材にしての文献購読と関連事例の検討 博士課程の学生がレポーターとなり、テーマの設定と関連論文のサーベイ、事例検討等 §15：まとめ 授業の方法：文献購読と臨床場面のビデオ鑑賞や体験学習、事例検討を織り交ぜながら授業を進める。受講生にはレポーター担当や小グループでの話し合い時における積極的な発言を含め、授業への能動的な関与を求めたい。 成績評価方法：授業への参加状況と学期末に課す課題レポートによる 教科書：中釜洋子 2008「家族のための心理援助」金剛出版 中釜洋子 2010「個人療法と家族療法をつなぐ」東大出版会 参考書：適宜紹介する 履修上の注意：適宜臨床例を交えながら授業を行うため、受講生にはその点への配慮をお願いしたい。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（2名まで）／履修不可	

科目番号：216-12	担当教員：高橋 美保	単位数：2	学期：冬
講義題目：産業臨床心理学特論		授業科目：臨床心理システム論特殊研究	
Industrial Clinical Psychology			
授業の目標・概要：“働く”ということは、人が生活の糧を得て生きていくために必要な営みである。しかし、働く人を取り巻く環境は目まぐるしく変化しており、働くことにまつわるストレスも高まっている。授業では、このような働く人の心理的問題とその心理的援助について、臨床心理学的な視点から理解を深めることをねらいとする。具体的には、以下のテーマについての知識を習得し、産業領域の心理的援助実践に役立てられるようになることが期待される。 授業計画：以下の4つのテーマから具体的な発表課題を設定し、毎回発表とワークにより理解を深める。 1. 働くことにまつわる社会情勢の現状と心理的問題－産業臨床心理学の社会的意義 2. 働くことの意味および会社で働くことの実態－キャリアの視点から 3. 会社組織における労働者の心理的援助の実態と臨床心理士の役割－産業メンタルヘルスの視点から 4. 働けない人への心理的援助－失業者支援、若年就労支援について 授業の方法：テーマについての概要発表と、それに関するワークによる体験的理解から構成される。 成績評価方法：テーマの発表担当と授業への参加状況、学期末レポートにより総合的に評価する。 教科書：特になし 参考書：授業の中で適宜紹介する。発表に必要な書籍や文献については、都度相談する。 履修上の注意：発表を通してプレゼンテーション・ファシリテーション 授業への積極的な参加を求める。			
本学他研究科学生		履修可（5名まで）／履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／履修不可	

科目番号：216-13	担当教員：北島 歩美	単位数：2	学期：夏
講義題目：家族相談演習 I		授業科目：臨床心理システム論特殊研究	
Family Counseling I			
授業の目標・概要：事例を通して、家族関係についてのアセスメント方法、家族関係への介入方法を学ぶことを目的とする。 授業計画：その都度、事例を用いてスーパーヴィジョンを行う。 授業の方法：少人数での事例検討会 成績評価方法：平常点 教科書：特になし 参考書：特に指定しない			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：216-14	担当教員：北島 歩美	単位数：2	学期：冬
講義題目：家族相談演習 II		授業科目：臨床心理システム論特殊研究	
Family Counseling II			
授業の目標・概要：事例を通して、家族関係についてのアセスメント方法、家族関係の介入方法を学ぶことを目的とする。 授業計画：その都度、事例を用いてスーパーヴィジョンを行う。 授業の方法：少人数での事例検討会 成績評価方法：平常点 教科書：特になし 参考書：特に指定しない			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：216-15	担当教員：五十嵐 透子	単位数：2	学期：夏
講義題目：心理療法特論		授業科目：臨床心理システム論特殊研究	
----- Psychotherapy			
授業の目標・概要：心理臨床において、クライアントの様々な状態に合わせた多角的かつ統合的、および言語的あるいは非言語的対応の習得を目的とする。エビデンスに基づくマニュアルが技法中心に用いられやすい課題と、特に海外で発展した理論と技法の活用における社会文化的要因を考慮することや留意点も検討を行ってみたい。特に、不安障害に対する対応への理解と実践を深めることを行う。 授業計画：集中講義で行う：9月26日から29日 授業の方法：講義、ビデオ、互いにクライアント役とセラピスト役になって、リラクセーションなどのエクササイズを行いグループ・ディスカッションを含めた体験学習を行う。 成績評価方法：出席と講義への参加 70%；レポート 30% 教科書：リラクセーション法の理論と実践（五十嵐 透子）医歯薬出版			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：216-16	担当教員：芳川 玲子	単位数：2	学期：夏
講義題目：コミュニティアプローチ特論Ⅰ	授業科目：臨床心理システム論特殊研究		

Community Approach Ⅰ			
授業の目標・概要：臨床心理学に対する関心の高まりに従って、心理相談やカウンセリング、心理療法に対するニーズも高くなっている。様々な臨床現場に通用するアプローチを身につけ、実践できることは、臨床心理学を学ぶ者にとって大切なことである。この授業は、様々な臨床現場の事例について、心理学的な見立て、心理力動、さらに心理学的対処法について習得することを目標とする。 授業計画：これまで臨床心理学演習等において学んだ基礎的な技法を、インテーク、アセスメント、カウンセリングという心理相談のプロセスを実際に体験しながら、個人もしくはグループ・スーパービジョン形式で、ケースの背景、対応する技法、効果性などを検討していく。 授業の方法：個々の事例を中心に行うため、事前予約制に基づいたスーパービジョン型式で行う。受講生は個別に連絡をとること。 成績評価方法：スーパービジョンを行っている際の参加態度、ケースに対する関わり姿勢で評価する。 教科書：事例に合わせてその都度適宜に指示する。 参考書：事例に合わせてその都度適宜に指示する 履修上の注意：ケース報告をしなければ評価対象にしないので、必ずケースを提出すること。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：216-17	担当教員：芳川 玲子	単位数：2	学期：冬
講義題目：コミュニティアプローチ特論Ⅱ		授業科目：臨床心理システム論特殊研究	
Community Approach Ⅱ			
授業の目標・概要：臨床心理学に対する関心の高まりに従って、心理相談やカウンセリング、心理療法に対するニーズも高くなっている。様々な臨床現場に通用するアプローチを身につけ、実践できることは、臨床心理学を学ぶ者にとって大切なことである。コミュニティアプローチ特論Ⅱの授業では、Ⅰに引き続き、様々な臨床現場の事例について、心理学的な見立て、心理力動、さらに心理学的対処法について習得することを目指す。 授業計画：コミュニティアプローチ特論Ⅰをさらに展開し、インテーク、アセスメント、カウンセリングという心理相談のプロセスを実際に体験しながら、個人もしくはグループ・スーパービジョン形式で、ケースの背景、対応する技法、効果性などを検討していく。 授業の方法：個々の事例を中心に行うため、事前予約制に基づいたスーパービジョン型式で行う。受講生は個別に連絡をとること。 成績評価方法：スーパービジョンを行っている際の参加態度、ケースに対する関わり姿勢で評価する。 教科書：事例に合わせてその都度適宜に指示する。 参考書：事例に合わせてその都度適宜に指示する 履修上の注意：ケース報告をしなければ評価対象にしないので、必ずケースを提出すること。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：216-18	担当教員：松澤 広和	単 位 数：2	学 期：夏
講義題目：老年期の心理臨床Ⅰ		授業科目：発達臨床心理学特殊研究	

sychotherapy for the Elderly Ⅰ			
授業の目標・概要：高齢者人口の増加に伴い、高齢者の認知症・うつ病・虐待・犯罪の増加・介護者家族の問題など、取り組むべき課題も多岐に渡るようになっている。 この講義では、高齢者およびその家族に対する心理的援助の方法について理解を深めることを目的とする。 授業の方法：講義に加え、事例検討やロールプレイなどを用いて実施する。 成績評価方法：講義への参加姿勢、講義内での発言等によって評価する。			

科目番号：216-19	担当教員：松澤 広和	単位数：2	学期：冬
講義題目：老年期の心理臨床Ⅱ		授業科目：発達臨床心理学特殊研究	
----- Psychotherapy for the Elderly Ⅱ			
授業の目標・概要：夏学期に引き続き、高齢者を取り巻く心理的問題への理解と対応について扱う。 授業の方法：講義に加え、事例検討やロールプレイなどを用いて実施する。 成績評価方法：講義への参加姿勢、講義内での発言等によって評価する。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：216-20	担当教員：下山 晴彦	単位数：2	学期：夏
講義題目：障害の心理と援助Ⅰ		授業科目：発達臨床心理学特殊研究	
----- Developmental Clinical Psychology Ⅰ			
授業の目標・概要：テーマ：認知行動療法入門 近年、心理障害や精神障害に関連する問題解決のための主要方法となっている認知行動療法について、体系的に学習し、最終的には臨床実践で自在に活用できるようになることを目的とする。参加者は、臨床実践の経験のある者、あるいは今後実践をする可能性が高い者とする。 最初は、担当教員が認知行動療法の理論体系と技法体系を講義する。その後に関連する文献を各人が担当し、その内容を発表する。 参加者の臨床経験に応じて、うつ病の認知行動療法の事例についての検討会も行う。また、外部講師を招いてのワークショップも企画している。 参加者は、認知行動療法が実際の現場でどのように活用されているのかを知るために、下記の参考書を読んでおくことが望ましい。 授業の方法：教員の講義＋参加者の文献購読結果の報告＋討論 成績評価方法：レポート提出 教科書：臨床心理アセスメント入門 下山晴彦（著） 金剛出版 2009 認知行動療法を学ぶ 下山晴彦（編著） 金剛出版 2011 参考書：参考書：『専門職としての臨床心理士』Hall 他著 下山訳 東京大学出版会			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：216-21	担当教員：下山 晴彦	単位数：2	学期：冬
講義題目：障害の心理と援助Ⅱ		授業科目：発達臨床心理学特殊研究	
Developmental Clinical Psychology Ⅱ			
授業の目標・概要：テーマ：子どものうつ病の認知行動療法プログラム 不登校や引きこもりなどの、子どもや若者の問題の背景にうつ病が伏在していることが多い。子どものうつ病は、意欲低下などの心理症状として示されることが少なく、むしろ身体症状や行動の問題として現われてくる。そのため、対応が遅れることが多くなっている。そこで、授業では、子どものうつ病について学び、次の子どものうつ病に特化した認知行動療法のプログラムについて検討する。次のうつ病の認知行動療法のプログラムの実践事例の事例検討を行い、参加者の臨床技能の教育訓練を行う。 授業の方法：1) 子どもと若者の認知行動療法の技法紹介 2) 子どもと若者の認知行動療法プログラム紹介 3) 事例発表と検討会 4) まとめ 成績評価方法：レポート提出			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／履修不可	

科目番号：216-22	担当教員：能智 正博	単位数：2	学期：夏
講義題目：臨床心理学研究法		授業科目：臨床心理カリキュラム論特殊研究	

Research Methods in Clinical Psychology			
授業の目標・概要：近年、臨床心理学領域においてますます研究活動が重視されるようになっているが、質的研究法はそのなかでも特に注目されている方法である。この授業では、質的研究の基本文献や論文を読みながらその背景や理論について議論を深める。 本年は、質的研究の評価についてのモノグラフを読んだ上で、質的研究の論文にあたってその評価を試みることで、質的研究を見る目を養うことを目標とする。 授業計画：学期の前半では関連文献を読んで、質的研究の質を高めたり評価したりする方法についての一般的な議論を押さえておく。 学期の後半では、受講生が関心のある文献を選択し、グループワークなどを通じてその論文の評価を試みる。 授業の方法：学期の前半は輪読方式で、文献のレジュメを作ってその内容について議論を進めながら、質的研究の質についての理解を深める。 学期の後半では、選択された文献について内容をレポーターが内容を紹介し、その上でその研究の長所と短所について議論を進める。 成績評価方法：出席と授業への参加：50% レポート：50% 教科書：開講時に指示する 参考書：開講時に指示する			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／履修不可	

科目番号：216-23	担当教員：林 もも子	単位数：2	学期：夏
講義題目：発達臨床心理学特論		授業科目：発達臨床心理学特殊研究	
Developmental Clinical Psychology			
授業の目標・概要：精神分析的な視点による遊戯療法の理論や実践を学ぶ。文献の購読と事例検討を行う。 授業計画：最初に精神分析理論および概念の概説を行った上で、事例に即した精神分析的な遊戯療法のテキストを全員で購読する。また、受講者の中から数人に遊戯療法の事例を提示してもらい、事例検討も行う。 授業の方法：集中講義。全講方式ですすめる。すなわち、全員がレジュメを用意し、それを全員分コピーしたものを最初の10分ほどで黙読によってシェアし、その後は、30分ほどグループ（人数によっては全員で）グループ・マインドマップを書きながら議論する。残りの時間に、グループ・マインドマップに基づいて各グループから疑問や議論のポイントを発表してもらい、全員で議論して理解を深める。受講生は、事前にテキストを購入し、各章について、A4一枚以内で、疑問点、議論したいポイントを書いたものを、受講の1週間前までに林までメールで提出する。平井のテキストは全章、チェシクのテキストは、6章まで。精神分析用語など、わからないことについては、できるところまで自分で調べて理解する努力をしておく。 成績評価方法：平常点50%、レポート50%により評価する。 教科書：平井正三著「子どもの精神分析的な心理療法の経験」金剛出版、モートン・チェシク著「子どもの心理療法」創元社。 参考書：小此木啓吾編集「精神分析事典」岩崎学術出版社。 前田重治著「図説 臨床精神分析学」および「続図説 臨床精神分析学」誠心書房。林もも子著「思春期とアタッチメント」みすず書房。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：216-24	担当教員：倉光 修	単位数：2	学期：夏
講義題目：心理療法特論：スーパービジョンⅠ		授業科目：発達臨床心理学特殊研究	

Clinical Supervision Ⅰ			
授業の目標・概要：臨床心理学コースの学生のスーパーヴィジョンを行う。 授業計画：スーパーヴィジョンの時間を適宜設定する。 授業の方法：できるだけ、1：1の形をとれるように配慮する。 成績評価方法：スーパーヴィジョンを受けた回数と、その効果によって評価する。 その他：受講希望者は、指導教員の了解を得ること。			

科目番号：216-25	担当教員：倉光 修	単位数：2	学期：冬
講義題目：心理療法特論：スーパービジョンⅡ		授業科目：発達臨床心理学特殊研究	
Clinical Supervision Ⅱ			
授業の目標・概要：臨床心理学コースの学生のスーパービジョンを行う。 授業計画：スーパービジョンの時間を適宜設定する。 授業の方法：できるだけ、1：1の形をとれるように配慮する。 成績評価方法：スーパービジョンを受けた回数と、その効果によって評価する。 その他：受講希望者は、指導教員の了解を得ること。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：216-26	担当教員：中釜 洋子	単位数：2	学期：通年
講義題目：臨床心理学論文指導		授業科目：臨床心理システム論論文指導	
Dissertation Research in Clinical Psychology			
授業の目標・概要：受講者の授業内外における積極的な研究活動を推進／支援することがこの授業のねらいである。各自の研究テーマを定め、明確化し、相応しい方法論の選択にはじまり、実施、結果のまとめ、発表とジャーナルへの投稿までを視野に入れた指導を行う。臨床心理学研究、なかでもシステムの視点を備えた研究領域の更なる発展、蓄積に貢献することが大きな意味でのねらいである 授業計画： § 1：オリエンテーション § 2～14：1～2名の受講者による研究活動進捗状況の発表とその検討 § 15：半期の振り返り 授業の方法：毎回、各自の発表とグループによるその検討という形態で授業を進める 成績評価方法：受講者の授業内外における積極的な研究活動を推進／支援する 教科書：特に無し必要に応じて紹介する 参考書：特に無し必要に応じて紹介する 履修上の注意：期間中、受講生は1～2回の発表機会を得ることになる。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：216-27	担当教員：下山 晴彦 星加 良司	単位数：2	学期：通年
講義題目：臨床心理学論文指導		授業科目：臨床心理学論文指導	
Dissertation Research in Clinical Psychology			
授業の目標・概要：臨床心理カリキュラム論の分野で修士論文または博士論文を書こうとしている院生のために研究指導、論文指導をする。			
授業の方法：発表			
成績評価方法：発表内容による評価			
</			

科目番号：216-28	担当教員：能智 正博	単位数：2	学期：通年
講義題目：臨床心理学論文指導		授業科目：臨床心理カリキュラム論論文指導	
Dissertation Research in Clinical Psychology			
授業の目標・概要：臨床心理学の分野で質的なアプローチに基づいて修士論文または博士論文を書こうとしている院生のために、研究指導、および論文指導を行う。 授業計画：受講生は1年に2回発表の機会が与えられ、研究計画、データ、分析過程の報告、論文草稿等を提示して指導を受けることができる。1回目の発表とディスカッションの結果を受けて、2回目では研究をさらに進めた段階の発表を行う。 授業の方法：発表担当者の研究計画、データ、分析過程の報告、論文草稿等の提示を受けて、それについて受講生全員でディスカッションを行う。 成績評価方法：平常点。 教科書：特になし。 参考書：適宜指示する。 履修上の注意：臨床心理学コース限定の授業なので、他コースの学生は受講できません。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：216-29	担当教員：高橋 美保	単位数：2	学期：通年
講義題目：臨床心理学論文指導		授業科目：発達臨床心理学論文指導	
Dissertation Research in Clinical Psychology			
授業の目標・概要：発達臨床心理学の分野で修士論文、または博士論文を書こうとしている院生のために研究指導・論文指導を行う。 授業の方法：研究の進捗状況と研究内容の報告およびそれについての議論を行う。 成績評価方法：平常点			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

総合教育科学専攻 心身発達科学専修 身体教育学コース

科目番号：217-01	担当教員：野崎 大地	単位数：2	学期：夏
講義題目：身体教育科学の諸問題 I		授業科目：身体教育科学基本研究	
Topics in Physical Education I			
授業の目標・概要：身体教育科学分野にはどのような解明すべき重要問題があり、それらの問題がどのようなアプローチによって研究されようとしているか、最新研究論文の精読を通して理解することを目的とする。 授業計画：初回のガイダンス：教員の選定した論文リストを元に各回の担当者を決める。二回目以降：担当者による論文紹介およびそれに基づいて出席者全員で議論を行う。 授業の方法：担当者はパワーポイント等を用いて論文の詳細を説明する。担当者の論文説明に基づき、出席者全員で論文の新奇性、重要性、問題点などについて議論する。出席者にはあらかじめ論文を精読しておくことが求められる。 成績評価方法：出席および担当回のプレゼンテーションを元に評価する。 関連ホームページ：http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~nozaki/nozaki_wiki			
本学他研究科学生		履修可 (5名まで) / 履修不可	
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可 (5名まで) / 履修不可	

科目番号：217-02	担当教員：山本 義春	単位数：2	学期：夏
講義題目：身体システム論 I		授業科目：教育生理学基本研究	
System Analysis of Human Activity I			
授業の目標・概要：人間の活動あるいは行動に関する探究に際しては、微視的・巨視的両視点からの総合的なアプローチが必要である。本講義では、「臓器と個体」「神経細胞と脳」「個人と社会」など、「要素と全体」を繋ぐ数理モデルを中心に、複雑適応系・創発システム・自己組織系などに関する研究論文を輪読する。 授業計画：過去本講義で取り上げた論文についてはhttp://www.p.u-tokyo.ac.jp/~yamamoto/kogi_g/kogi_g.htmlを参照のこと。新たな論文情報は適宜掲載する。 授業の方法：論文の選択は、原則として担当教員が行う。一回に一名の受講者が内容を紹介し、その後参加者全員で議論を行う。担当教員もなるべく平易な解説を心掛けるので、参加者も「理論的に考える」ことを心掛けて欲しい。 成績評価方法：平常点（出席・発表）による評価。 履修上の注意：生理学一般に馴染みのない人は夏学期に開講される学部講義「教育の生理学」を、数理解析一般について馴染みのない人は冬学期に開講される学部講義「バイオダイナミックス」を、それぞれ受講しておくことが望ましい。 なお、本年度の授業は英語で実施する。 関連ホームページ：http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~yamamoto/kogi_g/kogi_g.html			
本学他研究科学生		履修可 (1名まで) / 履修不可	
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可 (1名まで) / 履修不可	

科目番号：217-03	担当教員：多賀 厳太郎	単位数：2	学期：夏
講義題目：発達脳科学特論 I		授業科目：発達脳科学基本研究	
Developmental Brain Sciences I			
授業の目標・概要：ヒトという複雑な系が生成・発展する「発達」の法則性を理解することを目標とする。脳科学、発達心理学、認知科学、行動学、非線形物理学、システム工学などの分野の境界を乗り越えながら、オリジナルな研究を行うための実践的な力を養うことを目標とする。履修者による、関連領域の文献報告、研究発表等を行う。 授業計画：第1回 教員による発達脳科学についての概説 第2回～第15回 受講者による発表と討論 授業の方法：発達脳科学に関連する原著論文または書籍を、履修者が選び、講読し、資料を作成し、発表する。その内容について全員で討論を行う。 成績評価方法：発表および平常点で評価する。 教科書：特に指定しない 参考書：特に指定しない 関連ホームページ：http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tagalab/lecture.html			
本学他研究科学生		履修可	(一名まで) / 履修不可
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可	(一名まで) / 履修不可

科目番号：217-04	担当教員：佐々木 司	単位数：2	学期：夏
講義題目：健康教育学の諸問題 I		授業科目：健康教育学基本研究	
Topics in Health Education I			
授業の目標・概要：精神保健や発達の問題を中心に、健康問題に関連する諸要因の解析と、それに基づく介入・心理教育などについて学習する。 授業の方法：各回とも担当学生を決め、選んだ文献（基本的に英文の original article）について紹介し、議論を行うことで、健康教育研究に必要な知識と観点を養う。 成績評価方法：通常点（出席と発表の評価） 教科書：特に指定しない（発表する文献については、第 1 回目に keywords や文献の例を示す）。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／履修不可	

科目番号：217-05	担当教員：野崎 大地	単位数：2	学期：冬
講義題目：身体教育科学の諸問題Ⅱ		授業科目：身体教育科学特殊研究	

Topics in Physical Education Ⅱ			
授業の目標・概要：身体教育科学分野にはどのような解明すべき重要問題があり、それらの問題がどのようなアプローチによって研究されようとしているか、最新研究論文の精読を通して理解することを目的とする。 授業計画：初回のガイダンス：教員の選定した論文リストを元に各回の担当者を決める。二回目以降：担当者による論文紹介およびそれに基づいて出席者全員で議論を行う。 授業の方法：担当者はパワーポイント等を用いて論文の詳細を説明する。担当者の論文説明に基づき、出席者全員で論文の新奇性、重要性、問題点などについて議論する。出席者にはあらかじめ論文を精読しておくことが求められる。 成績評価方法：出席および担当回のプレゼンテーションを元に評価する。 関連ホームページ：http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~nozaki/nozaki_wiki			
本学他研究科学生		履修可 (5名まで) / 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可 (5名まで) / 履修不可	

科目番号：217-06	担当教員：山本 義春	単位数：2	学期：冬
講義題目：身体システム論Ⅱ		授業科目：教育生理学特殊研究	

System Analysis of Human Activity Ⅱ			
授業の目標・概要：引き続き身体システム論Ⅰに準じて行う。 授業計画：引き続き身体システム論Ⅰに準じて行う。 授業の方法：引き続き身体システム論Ⅰに準じて行う。 成績評価方法：平常点（出席・発表）による評価。 履修上の注意：引き続き身体システム論Ⅰに準じて行う。 関連ホームページ：http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~yamamoto/kogi_g/kogi_g.html			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／履修不可	

科目番号：217-07	担当教員：多賀 厳太郎	単位数：2	学期：冬
講義題目：発達脳科学特論Ⅱ		授業科目：発達脳科学特殊研究	
Developmental Brain Sciences Ⅱ			
授業の目標・概要：夏学期に引き続き行う。ヒトという複雑な系が生成・発展する「発達」の法則性を理解することを目標とする。脳科学、発達心理学、認知科学、行動学、非線形物理学、システム工学などの分野の境界を乗り越えながら、オリジナルな研究を行うための実践的な力を養うことを目標とする。履修者による、関連領域の文献報告、研究発表等を行う。 授業計画：第1回 教員による発達脳科学についての概説 第2回～第15回 受講者による発表と討論 授業の方法：発達脳科学に関連する原著論文または書籍を、履修者が選び、講読し、資料を作成し、発表する。その内容について全員で討論を行う。 成績評価方法：発表および平常点で評価する。 教科書：特に指定しない 参考書：特に指定しない 関連ホームページ：http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tagalab/lecture.html			
本学他研究科学生		履修可 (名まで) / 履修不可	
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可 (名まで) / 履修不可	

科目番号：217-08	担当教員：佐々木 司	単 位 数：2	学 期：冬
講義題目：健康教育学の諸問題Ⅱ		授業科目：健康教育学特殊研究	
Topics in Health Education Ⅱ			
授業の目標・概要：健康教育学の諸問題Ⅰで学習した知識を元に、研究計画の立案を含めたさらに専門的な学習を進める。 授業の方法：健康教育学の諸問題Ⅰと同様であるが、学習の進んだ学生で健康教育学に関する研究を志す学生については、自分の研究計画を立案・発表し、それについての意見を求める機会としても良い。 成績評価方法：通常点（出席と発表の評価） 教科書：特に指定しない。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：217-09	担当教員：野崎 大地	単位数：2	学期：通年
講義題目：身体教育科学論文指導		授業科目：身体教育科学論文指導	
Dissertation Research in Physical Education			
授業の目標・概要：オリジナリティの高い身体教育科学研究を遂行し、論文としてまとめあげるための指導を行う。 授業の方法：毎週、ミーティング形式で研究進捗状況の発表、もしくは関連研究論文の紹介を行い、出席者全員で討論する。 成績評価方法：平常点 関連ホームページ：http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~nozaki			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：217-10	担当教員：山本 義春	単 位 数：2	学 期：通年
講義題目：教育生理学論文指導		授業科目：教育生理学論文指導	

Dissertation Research in Educational Physiology			
授業の目標・概要：教育生理学に関する博士論文・修士論文の執筆のための討論会を履修者全員で行う。			
授業の方法：随時討論会を行う。			
成績評価方法：平常点（出席）による評価。			

科目番号：217-11	担当教員：多賀 徹太郎	単 位 数：2	学 期：通年
講義題目：発達脳科学論文指導		授業科目：発達脳科学論文指導	
Dissertation Research in Developmental Brain Sciences			
授業の目標・概要：発達脳科学に関する博士論文・修士論文の執筆のための討論会を履修者全員で行う。 授業の方法：討論を中心とする。 成績評価方法：総合的に評価する。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：217-12	担当教員：佐々木 司	単 位 数：2	学 期：通年
講義題目：健康教育学論文指導		授業科目：健康教育学論文指導	
----- Dissertation Research in Health Education			
授業の目標・概要：健康教育学の研究課題の進行状況について各学生が発表し、議論を行う 授業の方法：各回とも、担当学生が自分の研究の進行状況について発表する。 成績評価方法：通常点 教科書：特になし。			

科目番号：217-13	担当教員：東郷 史治	単位数：2	学期：通年
講義題目：教育生理学論文指導		授業科目：教育生理学論文指導	
Dissertation Research in Educational Physiology			
授業の目標・概要：教育生理学に関する博士論文・修士論文執筆のための研究指導、論文指導をする。 授業の方法：研究の進捗状況の発表、あるいは関連研究論文の紹介をし、履修者全員で討論する。 成績評価方法：平常点			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

総合教育科学専攻 連携・分野

科目番号：218-01	担当教員：黒田 一雄	単位数：2	学期：夏
講義題目：国際教育政策論		授業科目：比較教育学特殊研究	
International Education Policy			
授業の目標・概要：世界には未だ 7 億人以上の非識字者と 5 千万人以上の未就学の児童が存在しており、「万人のための教育」を達成するために、国際社会は協調・協力して活動していくことが求められています。一方、人の国際的移動の爆発的増大、グローバル経済の急速な展開、IT の長足の進歩、そして知識経済の台頭は、従来基本的には一国の枠組みで考えられていた教育にも大きな変容を迫りつつあります。留学というクロスナショナルな教育形態は一般化し、教育はビジネスとしてグローバルな展開を見せ、教育のバーチャル化は急速に進展しています。 本講義は、「万人のための教育」を指向しながらも、急速にグローバル化・市場化・情報化しつつある世界の教育状況に、国際機関を初めとする国際社会がどのように対処しようとしているのかを学び、今後の国際的な教育協力活動に関する展望を得ることを目的とします。 授業計画：①国際教育協力の潮流と教育開発の理論的展開Ⅰ ②国際教育協力の潮流と教育開発の理論的展開Ⅱ ③教育開発の理論と分析手法概説 ④初等教育と開発・中等教育と開発 ⑤高等教育と開発 ⑥識字・ノンフォーマル教育・産業技術教育・職業訓練と開発⑦女子・女性の教育と開発 ⑧教育と健康・紛争後の教育復興 ⑨教育学からのアプローチ・社会学からのアプローチ ⑩経済学からのアプローチ ⑪教育と開発に関する分析手法 ⑫教育改善のための分析手法・教育現場における分析手法 ⑬世界・日本の国際教育協力の今後 ⑭講義のまとめ1 ⑮講義のまとめ2 授業の方法：授業の進め方は、講義・ディスカッションと皆さんによるプレゼンテーションを組み合わせます。テストは行ないませんが、国際機関や二国間援助機関・NGO の国際教育協力に関するレポートを提出していただきます。 成績評価方法：1. 授業への出席・ディスカッションへの積極的参加 30% 2. プレゼンテーションの評価 30% 3. レポート 40% 注：2 と 3 に関しては、グループワークのこともありえます。その場合、チームワークを重視するため、構成員を個別には評価せず、グループを総合で評価します。つまり、同じグループのメンバーは全て同じ点をとることになります。 教科書：黒田一雄・横関祐見子編『国際教育開発論』有斐閣、2005 参考書：1. Saha, Lawrence J., Fagerland, Ingemar (1989). Education and National Development: A Comparative Perspective 2nd ed. Oxford: Pergamon 2. Eileen Kane. (1995). Research Handbook for Girls' Education in Africa. Washington, D.C.: World Bank 3. Alain Mingat, Jee-Peng Tan, Shobhana Sosale. (2003). Tools for Education Policy Analysis. Washington, D.C.: World Bank 4. 深山正光『国際教育の研究』新協出版社・桐書房 2007 5. ロナルド・ドーア『学歴社会 新しい文明病』岩波書店、1978 6. パウロ・フレイレ『被抑圧者の教育学』亜紀書房、1979 7. レ・タン・コイ『比較教育学』行路社、1991 8. 江原裕美編『開発と教育』新評論、2001 9. 内海成治『国際教育協力論』世界思想社、2001 10. 浜野隆『国際協力論入門』角川書店、2002 11. 江原裕美編『内発的発展と教育』新評論、2003 12. 大塚啓二郎・黒崎卓編『教育と経済発展』東洋経済新報社、2003 13. 澤村信英編『アフリカの開発と教育』明石書店、2003 14. 米村明夫編『世界の教育開発』明石書店、2003 15. 千葉卓弘監修『国際教育協力を志す人のために』2004 16. 国際協力機構編『日本の教育経験』東信堂、2005 17. 小川啓一・西村幹子・北村友人編『国際教育開発の再検討』東信堂 2008 18. 澤村信英編『教育開発国際協力研究の展開』明石書店 2008 19. 小川啓一・西村幹子編『途上国における基礎教育支援（上）』学文社 2008 20. 広里恭史・北村友人編『途上国における基礎教育支援（下）』学文社 2008 21. Barbara Bruns, Alain Mingat, Ramahatra Rakotomalala (2003). A Chance for Every Child. Washington, DC. : World Bank 22. World Bank. (1995). Priorities and Strategies for Education A World Bank Review. : Washington, DC. : World Bank 23. World Bank. (1999). Education Sector Strategy. Washington, D.C.: World Bank 24. UNESCO. (2001-2010). EFA Global Monitoring Report, Paris: UNESCO 25. UNICEF. (1998, 2004). The State of the World's Children. New York: UNICEF 26. Kenneth King and Lene Buchert (ed.). Changing International Aid to Education: Global patterns and national contexts. Paris: UNESCO Publishing/ NORRAG 27. Phillip W. Jones (2005), The United Nations and Education. RoutledgeFalmer 28. Collette Chabbott (2003), Constructing Education for Development. RoutledgeFalmer 29. World Bank (1994), Higher Education. Washington D.C. World Bank 30. World Bank (2002), Constructing Knowledge Societies. Washington D.C. World Bank 31. The Task Force on Higher Education and Society (2000), Higher Education in Developing Countries. Washington, D.C.: World Bank 履修上の注意：なし その他：なし			
本学他研究科学生	履修可（名まで）／ 履修不可		
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）	履修可（名まで）／ 履修不可		

科目番号：218-02	担当教員：金子 元久	単位数：2	学期：夏
講義題目：大学経営政策特論論文指導		授業科目：大学経営政策論文指導	
----- Individual Tutorial in University Management and Higher Education			
授業の目標・概要：参加者のテーマに応じて研究・論文作成を指導する 授業の方法：討論を中心とする 成績評価方法：総合的に判断する			

科目番号：218-03	担当教員：中嶋 義文	単位数：2	学期：通年
講義題目：臨床心理学論文指導		授業科目：臨床心理システム論論文指導	
----- Dissertation Research in Clinical Psychology			
授業の目標・概要： 医療における臨床心理（特に一般医療における心理学的援助＝コンサルテーション・リエゾン）および産業における臨床心理の研究・調査（フィールドワーク）・論文作成への助指導を行う。 授業の方法： 研究の進捗状況と報告および討議 成績評価方法： 平常点			

科目番号：218-04	担当教員：中嶋 義文	単位数：2	学期：冬
講義題目：精神医学特論		授業科目：臨床心理カリキュラム論特殊研究	

Psychiatry			
授業の目標・概要：医療における臨床心理学的援助のあり方を考える目的で、保健医療従事者の専門性の基盤となっている医学・医療における論理や思考法について学ぶ。 授業計画：先端医療の現状とその歴史と問題を取りあげ、医学・医療における論理について討議を行う。 授業の方法：前回の講義後の意見に答えた後、マルチメディアによる話題提供を行い、討議と解説を行う。 成績評価方法：授業への参加（当日の出席および後日の意見） 参考書：池上直己：医療問題（第四版）日本経済新聞出版社 梶田明：医学の歴史 講談社学術文庫 コンラッド&シュナイダー：逸脱と医療化 ミネルヴァ書房 フリードソン：医療と専門家支配 恒星社厚生閣 など参考にされたい			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：218-05	担当教員：加藤 忠史	単位数：2	学期：通年
講義題目：精神の生物学		授業科目：身体教育科学特殊研究	

Biology of the mind			
授業の目標・概要：動物実験、およびヒトの脳画像研究を中心とした脳科学は、いかにして人間の精神の分子基盤に迫ることができるであろうか。その最も有力な方法の一つは、精神疾患の脳科学研究である。本講義では、分子生物学的レベルでの精神現象の理解を目指した取り組みの現状を紹介する。 統合失調症、うつ病、双極性障害、自閉症、AD/HD、不安障害、身体表現性障害など、主な精神疾患を取り上げ、各疾患の臨床像の基礎知識、およびその病態メカニズムが脳のレベルでどこまで理解できるかについて、最新の知見を元に、集中講義形式で解説する。また、動物の行動異常に関する研究についても、生態学的あるいは進化精神医学的視点を取り入れつつ、最新の脳科学研究の知見を含め、解説する。 知識を伝えることよりも、研究の方向性を考えることを主眼とし、脳科学の基礎知識、脳科学・精神医学と社会をめぐる諸問題など、幅広い観点から、研究の現状を展望する。 教科書：加藤忠史 脳と精神疾患 朝倉書店 2009年 授業計画：講義日程 1/11、18、25、2/1、8（いずれも水曜午後）を予定している。 成績評価方法：未定			
本学他研究科学生		履修可 （名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可 （名まで）／ 履修不可	

学校教育高度化専攻 教職開発コース

科目番号：301-01	担当教員：秋田 喜代美	単位数：2	学期：夏
講義題目：授業の心理学		授業科目：教職開発・理論研究 (授業研究・基礎研究)	

Psychology of Teaching			
授業の目標・概要：教育心理学の中でも教授学習研究に関する基本的概念を最近の知見全体を紹介したテキストの購読と議論を通して学び議論する。 授業計画：教授学習に関するハンドブックの授業に関する研究10章分とOECDが2010年10月に出版した近年の学習研究と教育実践をつなぐ知見レビューを読み、学習研究を授業実践とどのようにつないで研究するんかという研究のあり方について議論するために文献購読を行う。 授業の方法：ガイダンスならびに発表担当者による章のポイントの報告と全員での議論と解説等に基づき毎回行う。 成績評価方法：演習への参加による報告や議論による平常点ならびに期末レポート 教科書：Mayer, R. & Alexander, P.(Eds)2011 "Handbook of Resaerch on Learning and Instruction" NY: Routledge Dumont, H., Instance, D., & Benavides, F.(Eds) 2010 "The Nature of Learning:Using Research to Inspire Practice" Paris:OECD 参考書：R. K. ソーヤー (編) 森敏昭・秋田喜代美 (監訳) 2009『学習科学ハンドブック』培風館 pp490. 秋田喜代美・藤江康彦 2010『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会 PP265. 履修上の注意：基本的に毎回出席できることを前提として履修されたい。また英文の読み方や購読指導ではなく議論を重視したいので全員があらかじめ当該章を読んで批判的に議論することを前提としている。本授業は学校教育高度化専攻教職開発学コースの授業とのダブルコードとなっている。			
本学他研究科学生		履修可 (一名まで) / 履修不可	
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可 (一名まで) / 履修不可	

科目番号：301-02	担当教員：白水 始	単位数：2	学期：冬
講義題目：学習科学による授業研究		授業科目：教職開発・理論研究 (授業研究・基礎研究)	
Lesson Study of Leaning Science			
授業の目標・概要：協調学習の理論と実践について、学習科学の立場から検討する。協調学習によって引き起こされる概念変化や未来の学習への準備など、そのメカニズムに関する理論的文献をジグソー方式で読み合わせ、理解を深める。同時に、実験室や教室実践での協調場面の質的、量的分析やビデオデータ分析を行い、発話や行動から参加者の理解過程を把握する方法論に習熟する。学習科学の一つの特徴は、学びにおける道具や他人、社会など外的なリソースとのインタラクションを重視しつつ、その中での各個人の理解のユニークな軌跡も重視する多様な視座にある。上記の作業を通じて、今後の授業研究に役立ちうるこれらの視座の獲得をめざす。なお、授業で協動的に検討したい事例を持つ受講生は、焦点場面のビデオデータやプロトコルデータと文脈を説明した資料を持参すること。 授業計画：集中講義で行う。講義を4日間で行う場合は、前半2日間で異なる文献を分担して読み合わせ、後半2日間で異なる授業場面データを分担して分析し結果を交換するジグソー法を各々行う。 授業の方法：集中講義で行う。講義を4日間で行う場合は、前半2日間で異なる文献を分担して読み合わせ、後半2日間で異なる授業場面データを分担して分析し結果を交換するジグソー法を各々行う。 成績評価方法：授業内での学習活動および最終レポートによる評価を行う。 履修上の注意：2008-2010年度の既習者も授業を履修できるよう、異なった内容で行う（集中講義のため、単位も取得可能である）。			
本学他研究科学生		履修可（一名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（一名まで）／ 履修不可	

科目番号：301-03	担当教員：的場 正美	単位数：2	学期：夏
講義題目：授業分析の方法と課題		授業科目：教職開発・理論研究 (授業研究・発展研究)	
Methodology of Analysis of Teaching			
授業の目標・概要：概要：授業研究と授業分析を中心に講義します。本講義は、授業研究と授業分析の歴史、授業研究集団の区分とその特徴、授業分析の原理と手順、実際の授業分析の方法と演習を内容としています。到達目標：本講義を通して受講生は、授業研究と授業分析の歴史を理解し、授業分析の基本概念を習得する。さらに具体的な授業分析の方法と手順について理解し、他の研究領域に応用できる基礎的な力量を形成します。 授業計画：1) 授業研究と授業分析の定義と教育学における位置、2) 現代社会における授業分析の課題、3) 明治・大正期の授業研究、4) 戦後の授業研究と授業分析、5) Lesson study の展開、6) 世界の授業研究、7) 教科指導と授業研究、8) 授業分析の理論、9) 授業分析の視点、10) 授業分析の実際、11) 授業分析の叙述形式、12) 授業分析における記録の解釈、13) 授業研究の課題、14) 授業分析の課題、15) まとめ 授業の方法：本講義は、授業研究と授業分析の概略と歴史は講義を中心にし、小集団によるグループ討議で実施する。戦後の授業研究および lesson study の動向は、講義の後、課題を設定し、グループの調査研究をする。授業分析の手順は、実際の授業記録の分析を演習形式でおこなう。 成績評価方法：評価方法:小レポート(40%)、毎回の理解度(20%)、最終レポート(40%)でします。★小レポートは4回の予定です。課題 氏名(学籍番号を含む)、要約(100字程度)、本文を含み、A4横書き、1枚以内。★最終レポートの書式、分量など詳細は、2日目にお知らせします。 教科書：日本教育方法学会編(2009)『日本の授業研究』下巻、学文社。 参考書：日比裕、的場正美(1999)『授業分析の方法と課題』黎明書房。 履修上の注意：特になし。 その他：特になし。			
本学他研究科学生		履修可(名まで) / 履修不可	
特別聴講学生(お茶の水女子大学大学院学生)		履修可(名まで) / 履修不可	

科目番号：301-04	担当教員：佐藤 学	単位数：2	学期：冬
講義題目：教職専門性の研究		授業科目：教 職 開 発・理 論 研 究 (カリキュラム研究・発展研究)	

Research on Teaching Profession			
授業の目標・概要：英、米、日における教職専門性の研究、教師教育の研究の最新の研究論文の文献講読を行う。 授業計画：第1回から第5回英米日の教師研究の文献購読 第6回から第10回英米日の教師文化研究、教師教育研究の文献購読 第11回から第15回 英米日の学校改革研究の文献購読 授業の方法：文献購読のゼミナール。 成績評価方法：レポートによって評価する。 教科書：講義ごとに指示する。 参考書：佐藤学『教師というアポリア』（世織書房）			
本学他研究科学生		履修可（2名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（ 名まで）／ 履修不可	

科目番号：301-05	担当教員：秋田 喜代美	単位数：2	学期：冬
講義題目：授業における学習研究		授業科目：教職開発・理論研究 (授業研究・発展研究)	
Research on Learning in Classroom			
授業の目標・概要：リテラシーの習得と教室談話、授業、教師に関する論文の輪読と議論を行うことを通して、論文の読み方と最近の動向の検討を行なう。 授業計画：国語、英語などの読解・文章産出指導、科学数学リテラシー、メディアリテラシー、ソーシャルリテラシーに関して、この数年間に発刊された実証論文をある著者やトピックを中心にして参加者が選択し、それらを批判的に読むことを通して、議論を行う。 授業の方法：トピックスごとに複数名で分担しながら、学校における学習過程に関する近年のジャーナル論文を紹介しあい、議論する。とりあげる雑誌としては、Cognition and Instruction, Learning and Instruction, Journal of the Learning Sciences, Educational Psychologist, Journal of Educational Psychology, Teaching and Teacher Education 等を予定している。 成績評価方法：演習への参加および発表と討議、学期末小レポート 教科書：指定せず 参考書：ソイヤ、K（編）森敏昭・秋田喜代美（監訳）『学習科学ハンドブック』培風館 2009 秋田喜代美・藤江康彦（著）『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会・2010 履修上の注意：本授業は、学校教育高度化専攻教職開発学コース、教育内容コースとのダブルコード授業となっている。 関連ホームページ：なし その他：なし			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：301-06	担当教員：藤江 康彦	単位数：2	学期：冬
講義題目：授業の事例研究		授業科目：教職開発・実践研究 (授業研究・事例研究)	

Case Method of Teaching			
授業の目標・概要：さまざまな教科の授業事例をDVDや実践記録を通して読むことによって、具体的な実践から学ぶ方法を学ぶ。また同時に、その授業を通して現在の学校や授業の改革や教職の仕事のむずかしさや生徒の学習過程について学ぶ。 授業計画：小中高等学校等様々な学校での授業事例、また実践記録、あるいは最近出版された授業研究に関わる書物を読みあい、分析や解釈を行なうことを予定している。 授業の方法：1時間で授業事例をみて検討する方法、小グループで同一授業ビデオを分析しその解釈を交流する方法、各自同じ実践等の記録を読んできてその考えを交流し合う方法などの方法を組み合わせながら、相互の 成績評価方法：演習への参加と課題レポートならびに学期末のレポート 教科書：指定せず 参考書：秋田喜代美・キャサリンルイス（編）『授業の研究 教師の学習：レッスNSTAデイへのいざない』明石書店 2008 秋田喜代美（編）『教師の言葉とコミュニケーション』教育開発研究所 2010 履修上の注意：45分ないし50分の授業をみて検討を行う事例検討のために、90分ではなく時間が延長することがある。この点は了解の上で参加されたい。 関連ホームページ：特になし その他：特になし			
本学他研究科学生		履修可 (名まで) / 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可 (名まで) / 履修不可	

科目番号：301-07	担当教員：佐藤 学	単位数：2	学期：夏
講義題目：カリキュラムの事例研究		授業科目：教職開発・実践研究 (カリキュラム研究・事例研究)	
----- Case Method of Curriculum Development			
授業の目標・概要：カリキュラム領域（カリキュラム、授業、学習、教科教育など）の実践事例を提示し、事例研究を行う。 授業計画：毎回、ビデオ記録による学校と授業の事例を提示し、協同的討議による事例研究を行う。 授業の方法：ケース・メソッド。 成績評価方法：レポートによって評価する。			
本学他研究科学生		履修可 (2名まで) ／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可 (名まで) ／ 履修不可	

科目番号：301-08	担当教員：佐藤 学	単位数：2	学期：夏
講義題目：カリキュラムの実地研究		授業科目：教職開発・実践研究 (カリキュラム研究・実地研究)	
Clinical Studies of Curriculum			
授業の目標・概要:カリキュラム領域（カリキュラム、授業、学習、教科教育など）のフィールドワークを行う講義である。 授業計画：第一回 オリエンテーション 第二回 オリエンテーション 第三回から第15回 フィールドワーク 授業の方法：最初に2回のオリエンテーションによって、各自の研究テーマとフィールドの対象とする学校と教室を決定し、合計15時間以上のフィールドワークを行い、レポートを作成する。 成績評価方法：レポートによって評価する。 教科書：なし。 参考書：講義で指示する。 履修上の注意：修士1年の者は、原則として冬学期からの受講を奨励する。初めて実地研究を受講する者は、原則として東大付属中等学校においてフィールドワークを行うものとする。			
本学他研究科学生		履修可 (2名まで) / 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可 (名まで) / 履修不可	

科目番号：301-09	担当教員：佐藤 学	単位数：2	学期：通年
講義題目：カリキュラム研究論文指導		授業科目：教職開発・論文指導 (カリキュラム研究・論文指導)	
Mentoring Seminar of Research on Curriculum			
授業の目標・概要：佐藤研究室の指導院生の論文指導のゼミナールである。修士論文、学術誌論文、および博士論文の指導を行う。 授業計画：毎回、研究計画の発表、研究発表、執筆論文の相互批評を行う。 授業の方法：研究発表と相互批評。 成績評価方法：発表内容と平常点によって評価する。 履修上の注意：受講者は指導院生に限られる。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：301-10	担当教員：秋田 喜代美	単位数：2	学期：通年
講義題目：授業研究論文指導		授業科目：教職開発・論文指導 (授業研究・論文指導)	
Mentoring Seminar of Research on Classroom Lessons			
授業の目標・概要：授業研究や保育研究について、教育心理学的なアプローチによって、各自の研究テーマにそって実証的な論文執筆ができるように指導を行う。 授業計画：保育や学校教育という制度的な場での子どもや教師の発達、保育や授業での言葉や談話の分析、保育者及び教師の認知と思考や園・学校での保育者と教師の学習等に関して、修士論文、博士論文等の執筆を希望する者に対して具体的に、それぞれの問題意識に即して論文執筆が当該年にできるように指導を行なう。 授業の方法：個人指導および秋田研究室全体での集団での論文指導を行う。 なお本論文指導は、総合教育科学専攻 教育心理学コースの教授学習分野論文指導と時間割上同時に開講される。 成績評価方法：個人の論文執筆過程における研究状況と研究成果によって評価を行う。 教科書：指定なし 参考書：指定なし 履修上の注意：本演習は、秋田を指導教員とする者に対して実施する。 関連ホームページ：なし その他：特になし			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：301-11	担当教員：藤村 宣之	単位数：2	学期：夏
講義題目：数学的思考の発達と学習過程		授業科目：教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	
Development of Mathematical Thinking and Mathematical Learning			
授業の目標・概要：子どもの数学的思考の発達と学習過程について，教育心理学や発達心理学領域の領域で，どのような知見が得られているか，またどのような心理学的方法論を用いて研究を行うことが可能かについて，実証的研究をもとに理解を深めることを目標とする。数学的思考の発達については，概念変化（conceptual change），概念的理解（conceptual understanding）と手続き的知識（procedural knowledge）の関係性などに焦点をあて，認知発達研究や個別介入研究の知見やそれを導く心理学的方法論について，解説と検討を行う。数学的思考に関する学習過程については，社会的相互作用を含む数学学習の認知プロセスに焦点をあて，その知見と方法論について解説と検討を行う。 授業計画：第1回：オリエンテーション 第2回：認知発達と数学的思考の発達 第3～4回：数学的思考の発達をとらえる視点①概念変化 第5～6回：数学的思考の発達をとらえる視点②概念的理解 第7～8回：数学的思考の発達をとらえる視点③手続き的知識 第9回：数学的思考の認知プロセス 第10～11回：数学学習の認知プロセス①定型の問題解決 第12～13回：数学学習の認知プロセス②非定型の問題解決 第14回：数学学習の認知プロセス③社会的相互作用 第15回：まとめ 授業の方法：授業の内容について，プレゼンテーションソフト，授業プリントなどを用いて教員が解説を行い，参加者全体で質疑，討論を行う。また指定した文献について，各参加者はレポートとコメントを行い，全体で討論を行う。 成績評価方法：期末レポート，小レポート，および授業への参加状況を総合して評価する。 教科書：プリント等の授業資料を作成して利用する。 参考書：授業時に適宜，指示し，資料を配布する。			
本学他研究科学生		履修可（1名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（1名まで）／ 履修不可	

科目番号：301-12	担当教員：高木 展郎	単位数：2	学期：夏
講義題目：ことばの教育と授業		授業科目：教職開発・理論研究 (教職開発・基礎研究)	

Language Education in School Lessons			
授業の目標・概要：学校教育における授業は、それぞれの国のことばによって行われている。日本においては、そのほとんどを、母語としての日本語によって授業が行われており、国語科という教科によってその中心的な母語教育が行われている。しかし、教科国語のみでことばの教育が行われるのみでなく、様々な教科の授業を通して行われていることも事実である。そこで、ことばの教育が授業の中でどのように行われているのか、その現状をとらえつつ、ことばの教育が様々な教科の授業にどのように機能するかについて、これまでの教育課程の変遷を通して考察する。 授業計画：第1回：ことばの持つ役割と教育における意味 第2回：教育課程とことばの教育Ⅰ 第3回：教育課程とことばの教育Ⅱ 第4回：教育課程とことばの教育Ⅲ 第5回：各教科におけることばの教育と授業（国語）第6回：各教科におけることばの教育と授業（算数） 第7回：各教科におけることばの教育と授業（理科）第8回：各教科におけることばの教育と授業（社会） 第9回：各教科におけることばの教育と授業（他教科）第10回：授業研究のあり方と授業の実践Ⅰ 第11回：授業研究のあり方と授業の実践Ⅱ 第12回：指導構成と授業づくり 第13回：指導計画と授業づくり 第14回：授業における指導計画と評価 第15回：ことばの教育における評価 授業の方法：基本的には、各回ごとに、資料（DVDを含む）をもとに、そこに示されている内容（小中学校の授業の様子・内容）から、授業にことばがどのように関わっているのか、ということに焦点を当て、討論をとおしてその意味を明らかにするとともに、授業のあり方を考察する。 成績評価方法：授業は、基本的に資料を基に、その資料内容について討論を通して考察を行う。授業終了後、その会の授業のリフレクションを宿題とし、各回ごとの授業を振り返り再構成して吟味し、次の授業につなげていく。このリフレクションの内容によって、評価を行う。 教科書：学習指導要領（平成20年版、小学校・中学校）・その他、プリント資料・DVD等 参考書：イ・ヨンスク『「国語」という思想』1996 岩波書店、			
本学他研究科学生		履修可 （5名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可 （5名まで）／ 履修不可	

科目番号：301-13	担当教員：佐藤 学	単位数：2	学期：冬
講義題目：教職開発事例研究		授業科目：教職開発・実践研究 (教職開発・事例研究)	

Case Studies of Teacher Professional Development			
授業の目標・概要：小学校、中学校、高校の授業の実践事例を提示し、事例研究を行う。 授業計画：毎回、ビデオ記録による学校と授業の事例を提示し、協同的討議による事例研究を行う。 授業の方法：ケース・メソッド。 成績評価方法：レポートによって評価する。			
本学他研究科学生		履修可 (2名まで) / 履修不可	
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可 (名まで) / 履修不可	

科目番号：301-14	担当教員：佐藤 学 藤村 宣之	単位数：2	学期：夏
講義題目：数学教育事例研究		授業科目：教職開発・実践研究 (教職開発・事例研究)	

Case Studies of Mathematics Education			
授業の目標・概要:小学校、中学校、高校の数学の授業の実践事例を提示し、事例研究を行う。 授業計画：毎回、ビデオ記録による学校と授業の事例を提示し、協同的討議による事例研究を行う。 授業の方法：ケース・メソッド。 成績評価方法：レポートによって評価する。 その他：カリキュラムの事例研究または教職開発事例研究の合併科目である。			

科目番号：301-15	担当教員：佐藤 学 高橋 和久	単 位 数：2	学 期：夏
講義題目：言語教育事例研究		授業科目：教職開発・実践研究 (教職開発・事例研究)	
----- Case Method of Language Education			
授業の目標・概要：小学校、中学校、高校の言語教育（国語教育、英語教育）の授業の実践事例を提示し、事例研究を行う。 授業計画：毎回、ビデオ記録による学校と授業の事例を提示し、協同的討議による事例研究を行う。 成績評価方法：レポートによって評価する。 その他：カリキュラムの事例研究または教職開発事例研究の合併科目である。			
本学他研究科学生		履修可 （2名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可 （ 名まで）／ 履修不可	

科目番号：301-16	担当教員：佐藤 学 川本 隆史	単位数：2	学期：夏
講義題目：人文社会教育事例研究		授業科目：教職開発・実践研究 (教職開発・事例研究)	
----- Case Studies of Social Sciences			
授業の目標・概要：小学校、中学校、高校の人文社会科学関係の授業の実践事例を提示し、事例研究を行う。 授業計画：毎回、ビデオ記録による学校と授業の事例を提示し、協同的討議による事例研究を行う。 授業の方法：ケース・メソッド。 成績評価方法：レポートによって評価する。 その他：カリキュラムの事例研究または教職開発事例研究の合併科目である。			
本学他研究科学生		履修可 (2名まで) ／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可 (名まで) ／ 履修不可	

科目番号：301-17	担当教員：秋田 喜代美	単位数：2	学期：冬
講義題目：授業の実地研究		授業科目：教職開発・実践研究 (授業研究・実地研究)	
Fieldwork on Teaching Practice			
授業の目標・概要:各自研究テーマを設定し、学校において観察、記録、実習、調査等のフィールドワークを実施し、その報告を作成し提出する。 授業計画:最初2時間程度、ガイダンスを行い、この授業の趣旨や実施計画、評価方法の概要を説明したのち、参加者はそれぞれ研究テーマ、対象とする学校の選択を行い、履修計画を作成する。その履修計画に基づき、依頼する学校や教師との協議ののち、フィールドワークを実施する。 授業の方法: 各自のフィールドワークを中心とするゼミナールであり、個人研究が基本となる。この実地研究の履修に関しては、修士課程における履修において特段の事情や要望がない限り、最低2単位は東京大学付属中等教育学校において実施することを基本とする。なお、専任、非常勤を問わず勤務校におけるフィールドワークは認められない 成績評価方法: フィールドワークの実施状況および研究レポートによって評価する。 参考書: 必要に応じて履修中に指示する。 履修上の注意: フィールドワークを実施するに際してはフィールドワークを15時間以上実施することが必要である。 修士1年の院生は冬学期以降の履修を原則とする。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：301-18	担当教員：高橋 和久	単位数：2	学期：夏
講義題目：英語教育・基礎研究		授業科目：教職開発・理論研究 (教職開発・基礎研究)	
Basic seminar on English education			
授業の目標・概要：英語教育を考えるためには英語の語感を磨く必要があるだろう。いくつかのテキストを用いて、英語について考え、同時に、「グローバル化」時代の英語教育をどのように位置づけるべきかについて、いくつかの角度から考える。その上で、具体的な教科書素材についても考察したい。 授業計画：1) 標準的な英語で書かれたテキストを味わいつつ分析する。2) 英語教育に関する論文、レポートを読む。英語に関する知識を深めるのに役立つかもしれないドリルを行う。3) 教科書のある単元をどのように想定するかを議論する。 授業の方法：教師による若干の説明はあるが、基本的に全員参加の演習方式。 成績評価方法：授業参加度とレポート。 教科書：プリントを使用する。 参考書：授業への積極的な参加を期待します。			
本学他研究科学生		履修可 (名まで) / 履修不可	
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可 (名まで) / 履修不可	

科目番号：301-19	担当教員：高橋 和久	単位数：2	学期：冬
講義題目：英語教育・発展研究		授業科目：教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	
Advanced seminar on English education			
授業の目標・概要：夏学期の授業を引き継ぐ形で、グローバル化時代における英語教育の位置づけを考えながら、英語の授業形態の望みうる理想形と現実の制約の狭間を実感するために、具体的な仮想テキストの作成を目指す。 授業計画：1) 英語教育と文化背景についての論文を読み、2) どのような英語素材が教科書としてふさわしいかを考え、3) 新指導要領を意識した仮想教科書の作成を目指す。 授業の方法：演習形式 成績評価方法：授業への参加度とレポート 教科書：プリント使用			
本学他研究科学生		履修可 (名まで) / 履修不可	
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可 (名まで) / 履修不可	

科目番号：301-20	担当教員：川本 隆史	単位数：2	学期：夏
講義題目：市民性の教育理論		授業科目：教職開発・理論研究 (教職開発・基礎研究)	
----- Research into the Theories of Citizenship Education			
授業の目標・概要：「市民性の教育」に焦点を据えつつ、人文社会教育の基礎理論を協働して探究する演習にしたい。具体的な進め方については、初回に参加メンバーの関心および研究計画を相互に述べ合い、それらの多様性を尊重しつつ決めていくことにしたい。したがって一回目にはメモなりを準備の上で臨むこと。 現時点では、共通のテキストの候補として以下の作品を考えている。 ジョン・ロールズ『正義論〔改訂版〕』紀伊國屋書店、2010 年。 授業の方法：レポーターを定めての報告・討議を軸とするが、参加者全員にレジュメの提出を義務づける。態勢が整えば各回のプロトコルも担当者を決めて残すことにしたい。 成績評価方法：各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。			
本学他研究科学生		履修可 (若干名まで) ／ 履修不可	
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可 (若干名まで) ／ 履修不可	

科目番号：301-21	担当教員：秋田 喜代美	単位数：2	学期：夏
講義題目：保育学研究		授業科目：教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	
----- Studies on Early Childhood Education			
授業の目標・概要：保育者の専門性や熟達ならびに専門性開発のための園内研修等に関する研究文献を読むことで、保育者の知識や思考判断、行為における専門性とその開発に関する知識の習得と研究方法、ならびに最近の動向について心理学、保育学、保育制度・組織の観点から学ぶことを目標とする。 授業計画：初回2回はガイダンスならびに秋田の近年の保育の専門性に関する研究の紹介、3－6回は保育者個人の専門的知識や熟達に関する文献等の購読、7－10回は園内研修等組織的なあり方に関する論文文献の購読、10－14回は管理職としての園長や施設長の役割、ならびに海外における国や自治体での保育者の専門性開発、職場開発の在り方に関する文献購読と議論を行う。1－2回は現職のベテランの園長等に来ていただいて実践事例を含めての議論を深めたいと考えている。 授業の方法：上記主題に関する文献の報告と議論、ならびにDVD視聴等を通して保育者ならびに組織的な専門性開発のありかたに関して検討を行う。保育者と小学校以上の教師の専門性との差異や共通性に関連して議論を行いながら進めたいと考える。 成績評価方法：演習への参加による平常点ならびに期末レポートによる。 教科書：秋田喜代美・西山薫・菱田隆昭（編）『今を生きる保育者論』みらい 2007 pp199 参考書：秋田喜代美・芦田宏・鈴木正敏・門田理世・野口隆子・箕輪潤子・淀川裕美・小田豊『子どもの経験から振り返る保育プロセス：明日のより良い保育のために』2010 幼児教育映像制作委員会 津守真 『保育者の地平』ミネルヴァ書房 履修上の注意：本授業は総合教育科学専攻教育心理学コースとのダブル授業である。			
本学他研究科学生		履修可 (名まで) / 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可 (名まで) / 履修不可	

科目番号：301-22	担当教員：和井田 清司	単位数：2	学期：冬
講義題目：社会系教育開発研究		授業科目：教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	

Research on Curriculum and Teaching Method of Social Studies			
授業の目標・概要：社会科教育分野を中心にして、主に戦後日本の教育実践について研究します。授業計画，方法の具体については授業当初に提示します。ただし，履修者の状況（人数・問題関心・ニーズ等）に応じて柔軟に対応するつもりです。 授業計画：・オリエンテーション・戦後日本の教育実践についての講義（3・4回）・ゲストを招いての報告と討議（3・4回） ・フィールドワーク（学校現場・教育図書館・ハンセン病資料館等） ・履修者による話題提供とディスカッション 授業の方法：教員のレクチャー，ゲスト（主に著名な実践者・研究者）を招いての議論やフィールドワーク，履修者の研究発表および討議をおりまぜて展開します。 成績評価方法：成績評価については，試験は実施せず，出席状況および発表（レポート）によって判断します。 教科書：特に特定のものはなく，必要に応じてコピー等を配付します。 参考書：和井田清司他『高校初期社会科の研究』学文社 1998 和井田清司他編『授業が変わるディベート術』国土社 1998 和井田清司『教師を生きる』学文社 2004 和井田清司編『内発的学校改革』学文社 2005 和井田清司他編『「上越教師の会」の研究』学文社 2007 和井田清司他編『中等社会科の理論と実践』学文社 2007 和井田清司編著『戦後日本の教育実践・リーディングス・田中裕一』学文社 2010 田中耕治編著『時代を拓いた教師たち・戦後教育実践からのメッセージ』日本標準 2005 田中耕治編著『時代を拓いた教師たちⅡ・実践から教育を問い直す』日本標準 2009 履修上の注意：初回および2回目において，授業計画の詳細について相談し決定します。欠席なきことを望みます。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：301-23	担当教員：藤村 宣之	単位数：2	学期：冬
講義題目：数学的思考の発達と授業過程		授業科目：教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	
Development of Mathematical Thinking and Mathematics Education			
授業の目標・概要：子どもの数学的思考の発達とそれを促進する授業過程について、どのような心理学的方法論を用いて研究を行うことが可能か、また、どのような教育心理学上の知見が得られているかについて、実証的研究をもとに理解を深めることを目標とする。 数学的思考に関わる国際比較調査（PISA, TIMSS）の心理学分析を出発点として、国際比較研究の心理学的方法論と知見、短期的教授介入研究の心理学的方法論と知見、長期的教授介入研究（継続的授業研究）の心理学的方法論と知見について、具体的な研究事例にもとづいて検討を行う。また、概念的理解の深化（わかる学力の育成）を促す学習（協同的探究学習）のプロセスと効果などに関して、教育心理学上の知見を解説する。さらに、それらの研究の心理学的意義や、今後の教科教育のあり方などについて討論を行う。 授業計画：第1回：オリエンテーション 第2～3回：数学的思考に関わる国際比較調査の心理学的分析 第4～5回：数学的思考に関わる国際比較研究の心理学的方法論と知見 第6～7回：数学的思考の発達を促す短期的教授介入研究の心理学的方法論と知見 第8～9回：数学的思考の発達を促す長期的教授介入研究の心理学的方法論と知見 第10～11回：概念的理解の発達を促す協同的探究学習の心理のプロセスと効果 第12回：手続き的知識の獲得を促す手続き構成・適用学習の心理のプロセスと効果 第13～14回：数学的思考の発達を促す授業過程とカリキュラム 第15回：まとめ 授業の方法：授業の内容について、プレゼンテーションソフト、授業プリントなどを用いて教員が解説を行い、参加者全体で質疑、討論を行う。また指定した文献（学術誌掲載論文）について、各参加者はレポートとコメントを行い、全体で討論を行う。 成績評価方法：期末レポート、小レポート、および授業への参加状況を総合して評価する。 教科書：プリント等の授業資料を作成して利用する。 参考書：授業時に適宜、指示し、資料を配布する。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：301-24	担当教員：松坂　ヒロシ	単位数：2	学期：冬
講義題目：英語音声とその指導		授業科目：教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	
English Phonetics for Education			
授業の目標・概要：授業の到達目標及びテーマ　英語の音声に焦点を当て、受講者が（１）発音指導その他音声面の指導を行う指導者として成長すること、および（２）英語の音声を英語で論じられるようになることを目的とする。 授業の概要　英語の音声事実を確認し、日本の学習者の音声上の弱点について考察し、指導者として留意すべき事柄を考える。 授業計画：第１回　導入：音声指導の範囲　第２回　母音の分類　第３回　子音の分類 第４回　弱母音と弱形の指導　第５回　/t/ 音素の概念　第６回　他の子音の指導；アスピレーション 第７　摩擦音、破擦音の指導　第８回　側音、半母音の指導　第９回　同化の指導（１） 第１０回　同化の指導（２）　第１１回　強勢と抑揚の指導　第１２回　発音の英米差　第１３回　余剰性 第１４回　リスニング指導　第１５回　まとめ 授業の方法：教員による講義、および学生による討論。講義は基本的に英語で行う。 成績評価方法：レポート、授業への参加、出席状況などにより、総合的に評価する。 教科書：指定しない。ハンドアウトを使用する。 参考書：Cruttenden, A. (2001). Gimson's pronunciation of English (6th ed.), revised and edited version of A. C. Gimson's original book. Edward Arnold. 竹林滋．(1996).『英語音声学』．研究社． 松坂ヒロシ．(1986).『英語音声学入門』．研究社． 履修上の注意：学部レベルで英語音声学または一般音声学を履修した受講者が望ましいが、そうでない受講者にもなるべく配慮し、必要に応じて基本概念を説明する。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：301-25	担当教員：三宅　なほみ	単位数：2	学期：通年
講義題目：学習科学研究		授業科目：教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	
Discussion on Learning Sciences			
授業の目標・概要：学習の認知的なメカニズムとその理解に基づく学びの場のデザインや授業の実践・評価について、学習科学という研究領域で積み上げられてきた知見を振り返り、今後この分野でどのような視座から、どんな方法論によって、何が明らかにされてゆく必要があるのかを検討する。「知識の社会的構成」「協調過程による学び」などの名で呼ばれる代表的な研究を統合するとどんなことが言えるのか、受講者一人一人が「私の考える協調的な学習観」を形成できる場になりたい。 授業計画：学習という研究テーマは、人と社会、人に内在する知識構造や認知的処理機能と外在する他人や環境との複雑な相互作用の解明を要求する領域複合的な研究テーマである。この授業では、まず認知科学や学習科学がどのように成立してきたのかを視座に入れ、人の認知過程を相互作用と見る見方の出現と効用を検討し、実験室を基盤とする基礎研究と実社会をフィールドとする新しい科学的方法論との融合が今後「学習」をどのような研究に導いて行くのかを検討したい。 授業の方法：協調過程による学習を自分たちでも体験しながら学ぶ。特に資料の内容や実験の成果などをく自分なりのことばでまとめることが、私たち自身の考え方をどう構成し、また制約するかについて継続的に検討する。 成績評価方法：各回での話し合いなど受講者の思考過程の記録を取り、分析して評価したい。授業終了後に、各自の研究この授業で考えたことがどう貢献できるか、レポートを求める。 教科書：指定しない。資料は毎回こちらで印刷して配布する。 参考書：稲垣・波多野 (1986)『人はいかに学ぶか』中公新書 98 三宅・白水 (2003)『学習科学とテクノロジー』放送大学教育振興会 *この本の参考文献欄に 2003 年当時のものではあるが推奨する参考書を挙げたブランスフォード他 (2002)『授業を変える』北大路書房 (原典 1999) 履修上の注意：原則隔週で授業するが、予定が変更になることがある。掲示の他、メール連絡などを活用するので利用して欲しい。 関連ホームページ：http://coref.u-tokyo.ac.jp/ その他：内容について要望などがあれば、積極的にメールをいただきたい。			
本学他研究科学生		履修可 (一名まで) / 履修不可	
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可 (一名まで) / 履修不可	

科目番号：301-26	担当教員：金田 卓也	単位数：2	学期：夏
講義題目：芸術教育の実践研究	授業科目：教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)		
Practical Recerch on Art Education			
授業の目標・概要：芸術表現の基底にあるイメージ・想像力・身体感覚といったものは学校教育においてあまり重要視されてきたものではない。それは、図工・美術・音楽などの教科教育としての芸術教育が常に主要教科以外のものとして扱われてきたことにもあらわれている。教育において芸術表現について考えるということは学校教育そのもののあり方を問い直すことにもつながる。本講義では、他教科とは大きく異なる芸術教育の本質を理解した上で、学校教育における芸術教科の位置づけを明らかにするとともに、教科教育の枠を外した場における芸術活動の可能性についても検討する。履修院生それぞれの研究分野と芸術教育を関連付けて授業を進めていく。 「芸術 (art)」というきわめて多義的な言葉の意味するものは、語る者ひとりひとり、受け取る者ひとりひとりで大きく異なっている。本授業ではそうした問いを出発点に、芸術と教育をめぐる諸概念を概観し、芸術教育の具体的な実践事例を検討しながら考察を試みる。履修院生が実際に表現活動を試み、表現することの喜びとはなにかということを実際に体験することも本授業の重要な部分である。 教科教育としては主要ではない「芸術」教科であるが、子どもたちの生活を見ると、音楽やビジュアル・アートは欠かせないものになっている。従来の「音楽」・「美術」という芸術概念ではなく、メディアやサブカルチャーと関連したより広い意味での「アート」も含めて芸術教育をとらえたい。最近の欧米の芸術教育実践の動向やアートセラピーについても紹介する。子どもたちの表現した作品事例や芸術教育プログラムの事例を取り上げ、芸術教育の実践方法を具体的に探っていく。 授業計画：第1回：イントロダクション 芸術教育に関する諸概念の整理 第2回：芸術教育の理念の歴史「芸術教育」・「美的教育」・「感性教育」・「アート教育」 第3回：想像力と創造力 Imagination and Creativity 第4回：メディアと芸術教育 Media and Art Education 第5回：諸外国における芸術教育の動向 Tom Anderson's "Art for Life" 第6回：多元文化的アプローチ Multicultural Art Education 第7回：学校外機関との連携 美術館教育 Museum Education 第8回：東洋の芸道思想と芸術教育 第9回：関連領域としてのアートセラピー Expressive Arts Therapy 第10回：実践事例研究 (1) 多様な造形表現 第11回：実践事例研究 (2) 共同制作 第12回：実践事例研究 (3) 教科の横断 総合的な学習と表現活動 第13回：課題発表 I 第14回：課題発表 II 第15回：総括 授業の方法：実際に表現活動を体験しながら授業を進める。 成績評価方法：授業への参加態度 (30%) 各回の小レポート (40%) 課題レポート (30%) 参考書：授業中に配布する。 履修上の注意：各自 12 色以上の色鉛筆を毎回準備すること。			
本学他研究科学生		履修可	(一名まで) / 履修不可
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可	(一名まで) / 履修不可

科目番号：301-27	担当教員：藤江 康彦	単位数：2	学期：夏
講義題目：授業研究の方法		授業科目：教職開発・理論研究 (教職開発・発展研究)	
Methodology of Research on Teaching			
授業の目標・概要：授業を対象とした研究には、「授業を理解する」ことを目的としたものと「授業を創造する」ことを目的としたものがある。本授業では、文献講読やレポートの作成、検討を通して、それぞれの目的に応じた授業研究の方法について理解するとともに、授業研究をめぐる実践者と研究者それぞれの専門性、その専門性に基づく実践者と研究者の協働のあり方について検討する。到達目標は、以下の通りである。・授業研究の目的と特徴について理解する。・授業の理解と創造をめぐる実践者と研究者の活動における専門性のあり方に気づく。・授業研究をめぐる実践者と研究者の関係性について探究する。 授業計画：I. ガイダンス ① ガイダンス ② 授業研究の目的 II. テキスト講読 ① 授業研究の新しい視点と方法 ② 新しい授業理論の構築 ③ 授業づくりの手がかり ④ 授業を理解する ⑤ 授業を計画する ⑥ 授業を実施する ⑦ 授業の効果を上げる ⑧ 授業を分析する ⑨ 授業を評価する ⑩ カリキュラムから授業を考える III. レポート作成と検討 ①レポート作成 ②検討会 ③まとめ 授業の方法：・本講義は集中講義のかたちで行う。・全体の3分の2はテキストの講読と議論に充て、3分の1はテキストの内容に関する各自の関心に応じたレポート作成の演習と全体での検討に充てる。・テキストの講読と議論は、参加者が個人ないしはグループで進める。・レポート作成は個人で進め、それを全体の前で発表して全員で検討する。・レポートの詳細については、授業内で説明する。 成績評価方法：授業参加（文献講読の担当、議論やレポート検討での発言）の様子、レポートの内容に基づき総合的に評価する。 教科書：高垣マユミ（編著）『授業デザインの最前線：理論と実践をつなぐ知のコラボレーション』北大路書房 参考書：秋田喜代美・藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会 秋田喜代美・キャサリン・ルイス（編著）『授業の研究 教師の学習』明石書店 秋田喜代美・藤江康彦（編著）『はじめての質的研究法：教育・学習編』東京図書 高垣マユミ（編著）『授業デザインの最前線Ⅱ：理論と実践を創造する知のプロセス』北大路書房 日本教育方法学会（編）『日本の授業研究：Lesson Study in Japan』（上巻・下巻）学文社 履修上の注意：事前に教科書に目を通しておくことが望ましい。			
本学他研究科学生		履修可 (一名まで) / 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可 (一名まで) / 履修不可	

学校教育高度化専攻 教育内容開発コース

科目番号：302-01	担当教員：藤村 宣之	単位数：2	学期：夏
講義題目：数学的思考の発達と学習過程		授業科目：教育内容開発・理論研究 (数学・科学教育・基礎研究)	
Development of Mathematical Thinking and Mathematical Learning			
授業の目標・概要：子どもの数学的思考の発達と学習過程について、教育心理学や発達心理学領域の領域で、どのような知見が得られているか、またどのような心理学的方法論を用いて研究を行うことが可能かについて、実証的研究をもとに理解を深めることを目標とする。数学的思考の発達については、概念変化（conceptual change）、概念的理解（conceptual understanding）と手続き的知識（procedural knowledge）の関係性などに焦点をあて、認知発達研究や個別介入研究の知見やそれを導く心理学的方法論について、解説と検討を行う。数学的思考に関する学習過程については、社会的相互作用を含む数学学習の認知プロセスに焦点をあて、その知見と方法論について解説と検討を行う。 授業計画：第1回：オリエンテーション 第2回：認知発達と数学的思考の発達 第3～4回：数学的思考の発達をとらえる視点①概念変化第 5～6回：数学的思考の発達をとらえる視点②概念的理解 第7～8回：数学的思考の発達をとらえる視点③手続き的知識 第9回：数学的思考の認知プロセス 第10～11回：数学学習の認知プロセス①定型的問題解決 第12～13回：数学学習の認知プロセス②非定型的問題解決 第14回：数学学習の認知プロセス③社会的相互作用 第15回：まとめ 授業の方法：授業の内容について、プレゼンテーションソフト、授業プリントなどを用いて教員が解説を行い、参加者全体で質疑、討論を行う。また指定した文献について、各参加者はレポートとコメントを行い、全体で討論を行う。 成績評価方法：期末レポート、小レポート、および授業への参加状況を総合して評価する。 教科書：プリント等の授業資料を作成して利用する。 参考書：授業時に適宜、指示し、資料を配布する。			
本学他研究科学生		履修可（一名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（一名まで）／ 履修不可	

科目番号：302-02	担当教員：松坂 ヒロシ	単位数：2	学期：冬
講義題目：英語音声とその指導		授業科目：教育内容開発・理論研究 (言語教育・基礎研究)	
English Phonetics for Education			
授業の目標・概要：英語の音声に焦点を当て、受講者が（１）発音指導その他音声面の指導を行う指導者として成長すること、および（２）英語の音声を英語で論じられるようになることを目的とする。 授業の概要 英語の音声事実を確認し、日本の学習者の音声上の弱点について考察し、指導者として留意すべき事柄を考える。 授業計画：第１回 導入：音声指導の範囲 第２回 母音の分類 第３回 子音の分類 第４回 弱母音と弱形の指導 第５回 /t/音素の概念 第６回 他の子音の指導；アスピレーション 第７回 摩擦音、破擦音の指導 第８回 側音、半母音の指導 第９回 同化の指導(1) 第１０回 同化の指導(2) 第１１回 強勢と抑揚の指導 第１２回 発音の英米差 第１３回 余剰性 第１４回 リスニング指導 第１５回 まとめ 授業の方法：教員による講義、および学生による討論。講義は基本的に英語で行う。 成績評価方法：レポート、授業への参加、出席状況などにより、総合的に評価する。 教科書：指定しない。ハンドアウトを使用する。 参考書：Cruttenden, A. (2001). Gimson's pronunciation of English (6th ed.), revised and edited version of A. C. Gimson's original book. Edward Arnold. 竹林滋. (1996).『英語音声学』. 研究社. 松坂ヒロシ. (1986).『英語音声学入門』. 研究社. 履修上の注意：学部レベルで英語音声学または一般音声学を履修した受講者が望ましいが、そうでない受講者にもなるべく配慮し、必要に応じて基本概念を説明する。			
本学他研究科学生		履修可	(一名まで) / 履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可	(一名まで) / 履修不可

科目番号：302-03	担当教員：高橋 和久	単位数：2	学期：夏
講義題目：英語教育・基礎研究		授業科目：教育内容開発・理論研究 (言語教育・基礎研究)	

Basic seminar on English education			
授業の目標・概要：英語教育を考えるためには英語の語感を磨く必要があるだろう。いくつかのテキストを用いて、英語について考え、同時に、「グローバル化」時代の英語教育をどのように位置づけるべきかについて、いくつかの角度から考える。その上で、具体的な教科書素材についても考察したい。 授業計画：1) 標準的な英語で書かれたテキストを味わいつつ分析する。2) 英語教育に関する論文、レポートを読む。英語に関する知識を深めるのに役立つかもしれないドリルを行う。3) 教科書のある単元をどのように想定するかを議論する。 授業の方法：教師による若干の説明はあるが、基本的に全員参加の演習方式。 成績評価方法：授業参加度とレポート。 教科書：プリントを使用する。 参考書：授業への積極的な参加を期待します。			
本学他研究科学生		履修可 (一名まで) / 履修不可	
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可 (一名まで) / 履修不可	

科目番号：302-04	担当教員：高木 展郎	単位数：2	学期：夏
講義題目：ことばの教育と授業		授業科目：教育内容開発・理論研究 (言語教育・基礎研究)	
Language Education in School Lessons			
授業の目標・概要：学校教育における授業は、それぞれの国のことばによって行われている。日本においては、そのほとんどを、母語としての日本語によって授業が行われており、国語科という教科によってその中心的な母語教育が行われている。しかし、教科国語のみでことばの教育が行われるのみでなく、様々な教科の授業を通して行われていることも事実である。そこで、ことばの教育が授業の中でどのように行われているのか、その現状をとらえつつ、ことばの教育が様々な教科の授業にどのように機能するかについて考察する。 授業計画：第1回：ことばの持つ役割と教育における意味 第2回：教育課程とことばの教育Ⅰ 第3回：教育課程とことばの教育Ⅱ 第4回：教育課程とことばの教育Ⅲ 第5回：各教科におけることばの教育と授業（国語） 第6回：各教科におけることばの教育と授業（算数） 第7回：各教科におけることばの教育と授業（理科） 第8回：各教科におけることばの教育と授業（社会） 第9回：各教科におけることばの教育と授業（他教科） 第10回：授業研究のあり方と授業の実践Ⅰ 第11回：授業研究のあり方と授業の実践Ⅱ 第12回：指導構成と授業づくり 第13回：指導計画と授業づくり 第14回：授業における指導計画と評価Ⅰ 第15回：ことばの教育における評価 授業の方法：基本的には、各回ごとに、資料（DVDを含む）をもとに、そこに示されている内容（小中学校の授業の様子・内容）から、授業にことばがどのように関わっているのか、ということに焦点を当て、討論をとおしてその意味を明らかにするとともに、授業のあり方を考察する。 成績評価方法：授業は、基本的に資料を基に、その資料内容について討論を通して考察を行う。授業終了後、その会の授業のリフレクションを宿題とし、各回ごとの授業を振り返り再構成して吟味し、次の授業につなげていく。このリフレクションの内容によって、評価を行う。 教科書：学習指導要領、その他プリントと DVD 参考書：イ・ヨンスク『「国語」という思想』1996 岩波書店、			
本学他研究科学生		履修可	(5名まで) / 履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可	(5名まで) / 履修不可

科目番号：302-05	担当教員：川本 隆史	単位数：2	学期：夏
講義題目：市民性の教育理論		授業科目：教育内容開発・理論研究 (人文社会教育・基礎研究)	
Research into the Theories of Citizenship Education			
授業の目標・概要：「市民性の教育」に焦点を据えつつ、人文社会教育の基礎理論を協働して探究する演習にしたい。具体的な進め方については、初回に参加メンバーの関心および研究計画を相互に述べ合い、それらの多様性を尊重しつつ決めていくことにしたい。したがって一回目にはメモなりを準備の上で臨むこと。 現時点では、共通のテキストの候補として以下の作品を考えている。 ジョン・ロールズ『正義論〔改訂版〕』紀伊國屋書店、2010年。 授業の方法：レポーターを定めての報告・討議を軸とするが、参加者全員にレジュメの提出を義務づける。態勢が整えば各回のプロトコルも担当者を決めて残すことにしたい。 成績評価方法：各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。			
本学他研究科学生		履修可 (若干名まで) ／ 履修不可	
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可 (若干名まで) ／ 履修不可	

科目番号：302-06	担当教員：三宅　なほみ	単位数：2	学期：通年
講義題目：学習科学研究		授業科目：教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	
Discussion on Learning Sciences			
授業の目標・概要：学習の認知的なメカニズムとその理解に基づく学びの場のデザインや授業の実践・評価について、学習科学という研究領域で積み上げられてきた知見を振り返り、今後この分野でどのような視座から、どんな方法論によって、何が明らかにされてゆく必要があるのかを検討する。「知識の社会的構成」「協調過程による学び」などの名で呼ばれる代表的な研究を統合するとどんなことが言えるのか、受講者一人一人が「私の考える協調的な学習観」を形成できる場にしたい。 授業計画：学習という研究テーマは、人と社会、人に内在する知識構造や認知的処理機能と外在する他人や環境との複雑な相互作用の解明を要求する領域複合的な研究テーマである。この授業では、まず認知科学や学習科学がどのように成立してきたのかを視座に入れ、人の認知過程を相互作用と見る見方の出現と効用を検討し、実験室を基盤とする基礎研究と実社会をフィールドとする新しい科学的方法論との融合が今後「学習」をどのような研究に導いて行くのかを検討したい。 授業の方法：協調過程による学習を自分たちでも体験しながら学ぶ。特に資料の内容や実験の成果などをく自分なりのことばでまとめることが、私たち自身の考え方をどう構成し、また制約するかについて継続的に検討する。 成績評価方法：各回での話し合いなど受講者の思考過程の記録を取り、分析して評価したい。授業終了後に、各自の研究この授業で考えたことがどう貢献できるか、レポートを求める。 教科書：指定しない。資料は毎回こちらで印刷して配布する。 参考書：稲垣・波多野 (1986)『人はいかに学ぶか』中公新書 98 三宅・白水 (2003)『学習科学とテクノロジー』放送大学教育振興会 *この本の参考文献欄に 2003 年当時のものではあるが推奨する参考書を挙げたブランドフォード他 (2002)『授業を変える』北大路書房 (原典 1999) 履修上の注意：原則隔週で授業するが、予定が変更になることがある。掲示の他、メール連絡などを活用するので利用して欲しい。 関連ホームページ：http://coref.u-tokyo.ac.jp/ その他：内容について要望などがあれば、積極的にメールをいただきたい。			
本学他研究科学生		履修可 (一名まで) / 履修不可	
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可 (一名まで) / 履修不可	

科目番号：302-07	担当教員：藤村 宣之	単位数：2	学期：冬
講義題目：数学的思考の発達と授業過程		授業科目：教育内容開発・理論研究 (数学・科学教育・発展研究)	
Development of Mathematical Thinking and Mathematics Education			
授業の目標・概要：子どもの数学的思考の発達とそれを促進する授業過程について、どのような心理学的方法論を用いて研究を行うことが可能か、また、どのような教育心理学上の知見が得られているかについて、実証的研究をもとに理解を深めることを目標とする。 数学的思考に関わる国際比較調査（PISA, TIMSS）の心理学分析を出発点として、国際比較研究の心理学的方法論と知見、短期的教授介入研究の心理学的方法論と知見、長期的教授介入研究（継続的授業研究）の心理学的方法論と知見について、具体的な研究事例にもとづいて検討を行う。また、概念の理解の深化（わかる学力の育成）を促す学習（協同的探究学習）のプロセスと効果などに関して、教育心理学上の知見を解説する。さらに、それらの研究の心理学的意義や、今後の教科教育のあり方などについて討論を行う。 授業計画：第1回：オリエンテーション 第2～3回：数学的思考に関わる国際比較調査の心理学的分析 第4～5回：数学的思考に関わる国際比較研究の心理学的方法論と知見 第6～7回：数学的思考の発達を促す短期的教授介入研究の心理学的方法論と知見 第8～9回：数学的思考の発達を促す長期的教授介入研究の心理学的方法論と知見 第10～11回：概念的理解の発達を促す協同的探究学習の心理のプロセスと効果 第12回：手続き的知識の獲得を促す手続き構成・適用学習の心理のプロセスと効果 第13～14回：数学的思考の発達を促す授業過程とカリキュラム 第15回：まとめ 授業の方法：授業の内容について、プレゼンテーションソフト、授業プリントなどを用いて教員が解説を行い、参加者全体で質疑、討論を行う。また指定した文献（学術誌掲載論文）について、各参加者はレポートとコメントを行い、全体で討論を行う。 成績評価方法：期末レポート、小レポート、および授業への参加状況を総合して評価する。 教科書：プリント等の授業資料を作成して利用する。 参考書：授業時に適宜指示し、資料を配布する。			
本学他研究科学生		履修可（一名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（一名まで）／ 履修不可	

科目番号：302-08	担当教員：高橋 和久	単位数：2	学期：冬
講義題目：英語教育・発展研究		授業科目：教育内容開発・理論研究 (言語教育・発展研究)	

Advanced seminar on English education			
授業の目標・概要：夏学期の授業を引き継ぐ形で、グローバル化時代における英語教育の位置づけを考えながら、英語の授業形態の望みうる理想形と現実の制約の狭間を実感するために、具体的な仮想テキストの作成を目指す。 授業計画：1) 英語教育と文化背景についての論文を読み、2) どのような英語素材が教科書としてふさわしいかを考え、3) 新指導要領を意識した仮想教科書の作成を目指す。 授業の方法：演習形式 成績評価方法：授業への参加度とレポート 教科書：プリント使用			
本学他研究科学生		履修可 (一名まで) / 履修不可	
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可 (一名まで) / 履修不可	

科目番号：302-09	担当教員：和井田 清司	単位数：2	学期：冬
講義題目：社会系教育開発研究		授業科目：教育内容開発・理論研究 (人文社会教育・発展研究)	
Research on Curriculum and Teaching Method of Social Studies			
授業の目標・概要：社会科教育分野を中心にして、主に戦後日本の教育実践について研究します。授業計画，方法の具体については授業当初に提示します。ただし，履修者の状況（人数・問題関心・ニーズ等）に応じて柔軟に対応するつもりです。 授業計画：・オリエンテーション・戦後日本の教育実践についての講義（3-4回）・ゲストを招いての報告と討議（3-4回） ・フィールドワーク（学校現場・教育図書館・ハンセン病資料館等） ・履修者による話題提供とディスカッション 授業の方法：教員のレクチャー，ゲスト（主に著名な実践者・研究者）を招いての議論やフィールドワーク，履修者の研究発表および討議をおりまぜて展開します。 成績評価方法：成績評価については，試験は実施せず，出席状況および発表（レポート）によって判断します。 教科書：特に特定のものはなく，必要に応じてコピー等を配付します。 参考書：和井田清司他『高校初期社会科の研究』学文社 1998 和井田清司他編『授業が変わるディベート術』国土社 1998 和井田清司『教師を生きる』学文社 2004 和井田清司編『内発的学校改革』学文社 2005 和井田清司他編『「上越教師の会」の研究』学文社 2007 和井田清司他編『中等社会科の理論と実践』学文社 2007 和井田清司編著『戦後日本の教育実践・リーディングス・田中裕一』学文社 2010 田中耕治編著『時代を拓いた教師たち・戦後教育実践からのメッセージ』日本標準 2005 田中耕治編著『時代を拓いた教師たちⅡ・実践から教育を問う直す』日本標準 2009 履修上の注意：初回および2回目において，授業計画の詳細について相談し決定します。欠席なきことを望みます。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／履修不可	

科目番号：302-10	担当教員：佐藤 学 藤村 宣之	単 位 数：2	学 期：夏
講義題目：数学教育事例研究		授業科目：教育内容開発・実践研究 (数学・科学教育・事例研究)	
----- Case Studies of Mathematics Education			
授業の目標・概要:小学校、中学校、高校の数学の授業の実践事例を提示し、事例研究を行う。 授業計画：毎回、ビデオ記録による学校と授業の事例を提示し、協同的討議による事例研究を行う。 授業の方法：ケース・メソッド。 成績評価方法：レポートによって評価する。 その他：カリキュラムの事例研究または教職開発事例研究の合併科目である。			
本学他研究科学生		履修可 (2名まで) ／ 履修不可	
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可 (名まで) ／ 履修不可	

科目番号：302-11	担当教員：佐藤 学 高橋 和久	単位数：2	学期：夏
講義題目：言語教育事例研究		授業科目：教育内容開発・実践研究 (言語教育・事例研究)	

Case Studies of Language Education			
授業の目標・概要：小学校、中学校、高校の言語教育（国語教育、英語教育）の授業の実践事例を提示し、事例研究を行う。 授業計画：毎回、ビデオ記録による学校と授業の事例を提示し、協同的討議による事例研究を行う。 授業の方法：ケース・メソッド。 成績評価方法：レポートによって評価する。 その他：カリキュラムの事例研究または教職開発事例研究の合併科目である。			
本学他研究科学生		履修可 (2名まで) / 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可 (名まで) / 履修不可	

科目番号：302-12	担当教員：佐藤 学 川本 隆史	単位数：2	学期：夏
講義題目：人文社会教育事例研究		授業科目：教育内容開発・実践研究 (人文社会教育・事例研究)	

Case Studies of Social Sciences			
授業の目標・概要：小学校、中学校、高校の人文社会科学関係の授業の実践事例を提示し、事例研究を行う。 授業計画：毎回、ビデオ記録による学校と授業の事例を提示し、協同的討議による事例研究を行う。 授業の方法：ケース・メソッド。 成績評価方法：レポートによって評価する。 その他：カリキュラムの事例研究または教職開発事例研究の合併科目である。			
本学他研究科学生		履修可 (2名まで) ／ 履修不可	
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可 (名まで) ／ 履修不可	

科目番号：302-13	担当教員：佐藤 学	単位数：2	学期：冬
講義題目：教職開発事例研究		授業科目：教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)	

Case Studies of Teacher Professional Development			
授業の目標・概要：小学校、中学校、高校の授業の実践事例を提示し、事例研究を行う。 授業計画：毎回、ビデオ記録による学校と授業の事例を提示し、協同的討議による事例研究を行う。 成績評価方法：レポートによって評価する。			

科目番号：302-14	担当教員：金森 修	単位数：2	学期：冬
講義題目：科学技術教育論文指導		授業科目：教育内容開発・論文指導 (数学・科学教育・論文指導)	
Research of Dissertation			
授業の目標・概要：基礎教育学コースの学位論文（修士論文及び博士論文）の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。金森が知識論・学問論、今井が教育哲学・教育思想史、小玉が教育人間学・教育思想、福島が障害者教育・障害学、川本が西洋教育史、田中が教育臨床学を担当し、個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。 なお、修士学位論文は400字詰め原稿用紙に換算して200枚以内にまとめること。 授業の方法：個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。 成績評価方法：各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／履修不可	

科目番号：302-15	担当教員：秋田 喜代美	単位数：2	学期：通年
講義題目：授業研究論文指導		授業科目：教育内容開発・論文指導 (言語教育・論文指導)	
Mentoring Seminar of Research on Classroom Lessons			
授業の目標・概要：授業研究や保育研究について、言語教育に関する視点からアプローチすることによって、各自の研究テーマにそって実証的な論文執筆ができるように指導を行う。 授業計画：保育や学校教育という制度的な場での子どもや教師の発達、保育や授業での言葉や談話の分析、保育者及び教師の認知と思考や園・学校での保育者と教師の学習等に関して、修士論文、博士論文等の執筆を希望する者に対して具体的に、それぞれの問題意識に即して論文執筆が当概念にできるように指導を行なう。 授業の方法：個人指導および秋田研究室全体での集団での論文指導を行う。 なお本論文指導は、総合教育科学専攻 教育心理学コースの教授学習分野論文指導と時間割上同時に開講される。 成績評価方法：個人の論文執筆過程における研究状況と研究成果によって評価を行う。 教科書：指定なし 参考書：指定なし 履修上の注意：本演習は、秋田を指導教員とする者に対して実施する。 関連ホームページ：なし その他：特になし			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：302-16	担当教員：川本 隆史	単位数：2	学期：夏
講義題目：人文社会教育論文指導		授業科目：教育内容開発・論文指導 (人文社会教育・論文指導)	
Instruction in Essay-writing on Humanities and Social Sciences Education			
授業の目標・概要：教育内容開発コース（人文社会教育）の学位論文（修士論文及び博士論文）の完成を目標に、各人の問題関心を学術研究としてテーマ化することからはじめ、資料選択の適否、方法論の検討、論述方法等について、適宜指導を行う。個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。なお改めて注意するまでもないことだろうが、そもそも論文（とりわけ人文社会教育に関わる論考）を執筆するにあたって、いわゆる「王道」が敷かれていたり、安直なマニュアルが用意されているわけではない。自ら鍛え上げた問題関心と事象に迫ろうとするひたむきな努力とが結びついて初めて、論文を作品化する道が拓けてくるのである。"QUAE SIT SAPIENTIA DISCE LEGENDO" 授業の方法：研究発表者が毎回、自分の研究内容について発表し、参加者から、哲学的な意味で「批判的」である吟味を受け、それらをもとに自分の研究についてふりかえり、よりよい研究展開の契機とする。 成績評価方法：各自の目標達成度、研究成果によって評価を行う。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：302-17	担当教員：藤村 宣之	単位数：2	学期：通年
講義題目：教育内容開発・論文指導	授業科目：教育内容開発・論文指導		

Research of Dissertation			
授業の目標・概要：教科教育（特に算数・数学教育）に関連する研究についての論文指導を行う。心理学的アプローチによる研究を中心に，研究の進め方，論文の書き方などに関する指導を行う。 授業の方法：参加者は，一人ずつ自身の研究テーマについてのプレゼンテーションを行い，その発表内容について，参加者全員で集团的に検討を行う。 成績評価方法：授業におけるプレゼンテーションの内容，および授業への参加度にもとづいて評価する。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：302-18	担当教員：白水 始	単位数：2	学期：冬
講義題目：学習科学による授業研究		授業科目：教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・基礎研究)	
Lesson Study of Learning Science			
授業の目標・概要：協調学習の理論と実践について、学習科学の立場から検討する。協調学習によって引き起こされる概念変化や未来の学習への準備など、そのメカニズムに関する理論的文献をジグソー方式で読み合わせ、理解を深める。同時に、実験室や教室実践での協調場面の質的、量的分析やビデオデータ分析を行い、発話や行動から参加者の理解過程を把握する方法論に習熟する。学習科学の一つの特徴は、学びにおける道具や他人、社会など外的なリソースとのインタラクションを重視しつつ、その中での各個人の理解のユニークな軌跡も重視する多様な視座にある。上記の作業を通じて、今後の授業研究に役立ちうるこれらの視座の獲得をめざす。なお、授業で協調的に検討したい事例を持つ受講生は、焦点場面のビデオデータやプロトコルデータと文脈を説明した資料を持参すること。 授業計画：集中講義で行う。講義を4日間で行う場合は、前半2日間で異なる文献を分担して読み合わせ、後半2日間で異なる授業場面データを分担して分析し結果を交換するジグソー法を各々行う。 授業の方法：集中講義で行う。講義を4日間で行う場合は、前半2日間で異なる文献を分担して読み合わせ、後半2日間で異なる授業場面データを分担して分析し結果を交換するジグソー法を各々行う。 成績評価方法：授業内での学習活動および最終レポートによる評価を行う。 履修上の注意：2008-2010年度の既習者も授業を履修できるよう、異なった内容で行う（集中講義のため、単位も取得可能である）。			
本学他研究科学生		履修可 （名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可 （名まで）／ 履修不可	

科目番号：302-19	担当教員：的場 正美	単位数：2	学期：夏
講義題目：授業分析の方法と課題		授業科目：教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	
Methodology of Analysis of Teaching			
授業の目標・概要：授業研究と授業分析を中心に講義します。本講義は、授業研究と授業分析の歴史、授業研究集団の区分とその特徴、授業分析の原理と手順、実際の授業分析の方法と演習を内容としています。本講義を通して受講生は、授業研究と授業分析の歴史を理解し、授業分析の基本概念を習得する。さらに具体的な授業分析の方法と手順について理解し、他の研究領域に応用できる基礎的な力量を形成します。 授業計画：1) 授業研究と授業分析の定義と教育学における位置、2) 現代社会における授業分析の課題、3) 明治・大正期の授業研究、4) 戦後の授業研究と授業分析、5) Lesson study の展開、6) 世界の授業研究、7) 教科指導と授業研究、8) 授業分析の理論、9) 授業分析の視点、10) 授業分析の実際、11) 授業分析の叙述形式、12) 授業分析における記録の解釈、13) 授業研究の課題、14) 授業分析の課題、15) まとめ 授業の方法：講義は、授業研究と授業分析の概略と歴史は講義を中心にし、小集団によるグループ討議で実施する。戦後の授業研究および lesson study の動向は、講義の後、課題を設定し、グループの調査研究をする。授業分析の手順は、実際の授業記録の分析を演習形式でおこなう。 成績評価方法：評価方法:小レポート(40%)、毎回の理解度(20%)、最終レポート(40%)でします。★小レポートは4回の予定です。課題 氏名(学籍番号を含む)、要約(100字程度)、本文を含み、A4横書き、1枚以内。 ★最終レポートの書式、分量など詳細は、2日目にお知らせします。 教科書：日本教育方法学会編(2009)『日本の授業研究』下巻、学文社。 参考書：日比裕、的場正美(1999)『授業分析の方法と課題』黎明書房。 履修上の注意：特になし。 その他：特になし。			
本学他研究科学生		履修可(名まで) / 履修不可	
特別聴講学生(お茶の水女子大学大学院学生)		履修可(名まで) / 履修不可	

科目番号：302-20	担当教員：佐藤 学	単位数：2	学期：冬
講義題目：教職専門性の研究		授業科目：教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	

Research on Teaching Profession			
授業の目標・概要：英、米、日における教職専門性の研究、教師教育の研究の最新の研究論文の文献講読を行う。 授業計画：第1回から第5回英米日の教師研究の文献購読 第6回から第10回英米日の教師文化研究、教師教育研究の文献購読 第11回から第15回 英米日の学校改革研究の文献購読 授業の方法：文献購読のゼミナール。 成績評価方法：レポートによって評価する。 教科書：講義ごとに指示する。 参考書：佐藤学『教師というアポリア』（世織書房）			
本学他研究科学生		履修可（2名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（ 名まで）／ 履修不可	

科目番号：302-21	担当教員：藤江 康彦	単位数：2	学期：冬
講義題目：授業の事例研究		授業科目：教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)	

Case Method of Teaching			
授業の目標・概要：さまざまな教科の授業事例をDVDや実践記録を通して読むことによって、具体的な実践から学ぶ方法を学ぶ。また同時に、その授業を通して現在の学校や授業の改革や教職の仕事のむずかしさや生徒の学習過程について学ぶ。 授業計画：小中高等学校等様々な学校での授業事例、また実践記録、あるいは最近出版された授業研究に関わる書物を読みあい、分析や解釈を行なうことを予定している。 授業の方法：1時間で授業事例をみて検討する方法、小グループで同一授業ビデオを分析しその解釈を交流する方法、各自同じ実践等の記録を読んできてその考えを交流し合う方法などの方法を組み合わせながら、相互の 成績評価方法：演習への参加と課題レポートならびに学期末のレポート 教科書：指定せず 参考書：秋田喜代美・キャサリンルイス（編）『授業の研究 教師の学習：レッスンスタディへのいざない』明石書店 2008 秋田喜代美（編）『教師の言葉とコミュニケーション』教育開発研究所 2010 履修上の注意：45分ないし50分の授業をみて検討を行う事例検討のために、90分ではなく時間が延長することがある。この点は了解の上で参加されたい。 本授業は学校教育高度化専攻教職開発学コースの授業とのダブルコードとなっている。 関連ホームページ：特になし その他：特になし			
本学他研究科学生		履修可 (一名まで) / 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可 (一名まで) / 履修不可	

科目番号：302-22	担当教員：佐藤 学	単位数：2	学期：夏
講義題目：カリキュラムの事例研究		授業科目：教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)	
----- Case Method of Curriculum Development			
授業の目標・概要：カリキュラム領域（カリキュラム、授業、学習、教科教育など）の実践事例を提示し、事例研究を行う。 授業計画：毎回、ビデオ記録による学校と授業の事例を提示し、協同的討議による事例研究を行う。 授業の方法：ケース・メソッド。 成績評価方法：レポートによって評価する。			
本学他研究科学生		履修可 (2名まで) ／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可 (名まで) ／ 履修不可	

科目番号：302-23	担当教員：佐藤 学	単位数：2	学期：夏
講義題目：カリキュラムの実地研究		授業科目：教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・実地研究)	
Clinical Studies of Curriculum			
授業の目標・概要:カリキュラム領域（カリキュラム、授業、学習、教科教育など）のフィールドワークを行う講義である。 授業計画：第一回 オリエンテーション 第二回 オリエンテーション 第三回から第十五回 フィールドワーク 授業の方法：最初の2回のオリエンテーションにおいて、各自が研究テーマとフィールドの対象となる学校と教室を決定し、合計15時間以上のフィールドワークを行って、レポートを作成する。 成績評価方法：レポートによって評価する。 教科書：特になし。 参考書：講義で指示する。 履修上の注意：修士1年の者は、原則として冬学期から受講するものとする。最初に受講する者は、原則として東大付属中等学校においてフィールドワークを行うものとする。			
本学他研究科学生		履修可 (2名まで) / 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可 (名まで) / 履修不可	

科目番号：302-24	担当教員：秋田 喜代美	単位数：2	学期：冬
講義題目：授業の実地研究		授業科目：教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・実地研究)	
Fieldwork on Teaching Practice			
授業の目標・概要:各自研究テーマを設定し、学校において観察、記録、実習、調査等のフィールドワークを実施し、その報告を作成し提出する。 授業計画:最初2時間程度、ガイダンスを行い、この授業の趣旨や実施計画、評価方法の概要を説明したのち、参加者はそれぞれ研究テーマ、対象とする学校の選択を行い、履修計画を作成する。その履修計画に基づき、依頼する学校や教師との協議ののち、フィールドワークを実施する。 授業の方法:各自のフィールドワークを中心とするゼミナールであり、個人研究が基本となる。この実地研究の履修に関しては、修士課程における履修において特段の事情や要望がない限り、最低2単位は東京大学付属中等教育学校において実施することを基本とする。なお、専任、非常勤を問わず勤務校におけるフィールドワークは認められない 成績評価方法:フィールドワークの実施状況および研究レポートによって評価する。 参考書:必要に応じて履修中に指示する。 履修上の注意:フィールドワークを実施するに際してはフィールドワークを15時間以上実施することが必要である。 修士1年の院生は冬学期以降の履修を原則とする。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／履修不可	

科目番号：302-25	担当教員：勝野 正章	単位数：2	学期：夏
講義題目：現代学校改革の諸問題		授業科目：教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・基礎研究)	
Issues in Contemporary School Reforms			
授業の目標・概要：現代日本の学校改革に関する政策と制度改革について広く知識を獲得するとともに、社会的、経済的、政治的文脈に位置づけた分析を行う。学校改革に関する理論的理解が可能になるよう、内外の研究を概観する。 授業計画：以下のようなテーマをとりあげる。1. 学校改革の基本モデル PA モデル アカウンタビリティ マネジリアリズム 市場（競争と選択）連携・協働・パートナーシップ 2. 学校改革の具体的問題 学校組織・文化改革 リーダーシップ 学校評価 学校改善 教員評価 学校財務 授業の方法：講義とその内容に関するディスカッションにより進める。 成績評価方法：平常点及び学期末レポートで評価する。 教科書：なし 参考書：小川正人・勝野正章『教育経営論』（放送大学教育振興会） 履修上の注意：なし その他：なし			
本学他研究科学生		履修可	(一名まで) / 履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可	(一名まで) / 履修不可

科目番号：302-26	担当教員：大桃 敏行	単位数：2	学期：夏
講義題目：教育政策基礎論		授業科目：教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	

Foundation of Education Policy			
授業の目標・概要：教育政策研究の基本事項を学び、教育の公共管理システムの転換、教育行財政制度改革、教育政策の展開、教育保障における公教育の責任について理解を深めることを目標とする。授業計画に示す事項について講義し、討議を通じて理解を深める。日米比較の視点を含めて検討を進める。 授業計画：次の順で検討を進める。1) 教育政策と教育政策研究、2) 教育の組織化と教育の公共管理システムの形成、3) 教育行財政制度改革、4) 教育政策過程、5) 分権改革・規制改革と教育政策、6) スタンダード・アセスメント政策、7) 教育保障における公教育の責任。 授業の方法：講義を中心とし、内容について討議を行いながら授業を進める。 成績評価方法：討議への参加とレポートによる。 教科書：項目ごとにレジュメを作成し配布する。 参考書：項目ごとに授業で指示する。			
本学他研究科学生		履修可 (5名まで) / 履修不可	
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可 (5名まで) / 履修不可	

科目番号：302-27	担当教員：若林 直樹	単位数：2	学期：夏
講義題目：学校経営と組織論		授業科目：教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	
School Management and Organization			
授業の目標・概要：New Public Management（新公共経営）の観点からの、公立学校改革において組織のマネジメントやその改革は重要な問題となってきた。本論においては、組織の構造（仕組み）と過程（動き）の議論に基づき、組織マネジメントの課題について理解し、それが一般的な経営的文脈の変化（ネットワーク組織への変化など）を経ながら、現代の組織改革で取り組まれているかを考えたい。 授業計画：1. 現代の学校改革と組織マネジメントの変革 NPM下での学校改革と組織マネジメント 組織論を通じて理解すること 2. 組織の構造とデザイン 組織の定義、意思決定、環境適応 組織の基本構造とデザイン、ネットワーク化 3. ミクロ組織行動論 個人のリーダーシップとモチベーション 4. 学習する組織 組織文化と組織学習 5. 組織の変革について 組織のイノベーションと変革 6. ネットワーク組織下の学校組織改革 ネットワーク化する公立学校教育システムと学校改革 授業の方法：1) 初回に、現代の学校改革をめぐる組織マネジメントを考える意義と本講義の主要課題についての説明を行う。2) 2回目以降に主要課題についての1つのテーマについて1コマほどで一般的な事例を踏まえて講義を行う。必要に応じて学校改革での組織マネジメントとの対象を行い理解を深める。3) 必要に応じて、講義でのトピックにかんするディスカッションを行う。また講義課題についての課題報告を求めることもある。4) 講義の結果を踏まえて、現代の学校改革における組織マネジメントを考察するレポートを提出してもらう。 成績評価方法：出席点（20％）＋レポート、中間課題報告（80％）の合計による 教科書：田尾雅夫他編『はじめて学ぶ経営学』ナカニシヤ出版、2005年。若林直樹『ネットワーク組織』有斐閣 また、講義の中で、必要に応じて資料（日本語または英語）を配布したり参考文献（日本語または英語）を指示したりすることがある。 参考書：野村総合研究所編『経営用語の基礎知識』ダイヤモンド社、2001年。 履修上の注意：授業資料については、授業中もしくはウェブ上で適宜配布する。 関連ホームページ：http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/~wakaba/lecture/lec-index.html その他：特になし。			
本学他研究科学生		履修可（5名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（5名まで）／ 履修不可	

科目番号：302-28	担当教員：大桃 敏行	単位数：2	学期：夏
講義題目：教育政策事例研究 I		授業科目：教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)	

Case Study in Education Policy I			
授業の目標・概要：学校教育政策に関する事例研究を通して、教育政策・教育行政の理論的・実践的課題について理解を深めることを目標とする。今年度は学校の公共性と教育の平等保障をテーマとする。関連文献の分析を通じて学校の公共性や教育の平等保障に関する理解を深め、それに基づき教育政策の事例分析を行う。日米比較を中心とするが、受講生の研究テーマ・関心と関わって他の国もと取りあげる。 授業計画：次の順で授業を進める。事例研究の方法の説明／学校の公共性や教育の平等保障に関する事前研究／日本と諸外国の教育政策の事例研究／分析結果のまとめ。 授業の方法：受講生は学校の公共性や教育の平等保障に関する文献や政策事例について報告し、討議を通じて理解を深める。報告内容と検討結果を最終レポートにまとめる。 成績評価方法：授業での報告、討議への参加、最終レポートによる。 教科書：特に指定しない。 参考書：ケネス・ハウ著（大桃敏行・中村雅子・後藤武俊訳）『教育の平等と正義』東信堂、2004 年、藤田英典・大桃敏行編著『学校改革』日本図書センター、2010 年など。			
本学他研究科学生		履修可 (5 名まで) / 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可 (5 名まで) / 履修不可	

科目番号：302-29	担当教員：大桃 敏行	単位数：2	学期：冬
講義題目：教育政策事例研究Ⅱ		授業科目：教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)	

Case Study in Education Policy Ⅱ			
授業の目標・概要：教育行財政改革に関する事例研究を通して、教育政策・教育行政の理論的・実践的課題について理解を深めることを目標とする。今年度は中央・地方間関係をテーマとする。関連文献の分析を通じて教育行政における中央・地方間関係について理解を深め、それに基づき国際比較の観点から教育政策の事例分析を行う。対象国は日本のほかアメリカやイギリスなどを予定しているが、受講生の研究テーマ・関心と関わって決定する。 授業計画：次の順で授業を進める。 事例研究の方法の説明／教育行政における中央・地方間関係に関する事前研究／日本と諸外国の教育政策の事例研究／分析結果のまとめ。 授業の方法：受講生は教育行政における中央・地方間関係に関する文献や政策事例について報告し、討議を通じて理解を深める。報告内容と検討結果を最終レポートにまとめる。 成績評価方法：事例報告と討議への参加、最終レポートによる。 教科書：特に指定しない。 参考書：適宜、授業で指示する。			
本学他研究科学生		履修可 (5名まで) ／ 履修不可	
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可 (5名まで) ／ 履修不可	

科目番号：302-30	担当教員：勝野 正章	単位数：2	学期：夏
講義題目：学校経営実践の開発Ⅰ		授業科目：教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)	
Developmental Study of School Management Ⅰ			
授業の目標・概要：学校経営・運営を中心的な対象とする事例研究を行いながら、アクションリサーチや臨床的研究に関する理解を深める。 授業計画：実践家からの聴き取りを中心としながら、訪問調査・参与観察も適宜実施する。実践家をゲストに招くほか、本セミナーに参加する現職の大学院生には事例（実践記録）の提供を求めることがある。 授業の方法：学校経営・運営の開発に関わる事例研究を実践家との共同で行うことに加えて、アクションリサーチや臨床的研究の方法論についても学ぶ。 成績評価方法：平常的及び学期末レポートによって評価する。 教科書：なし 参考書：なし 履修上の注意：なし その他：なし			
本学他研究科学生		履修可 (一名まで) / 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可 (一名まで) / 履修不可	

科目番号：302-31	担当教員：勝野 正章	単位数：2	学期：冬
講義題目：学校経営実践の開発Ⅱ		授業科目：教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・事例研究)	
Developmental Study of School Management Ⅱ			
授業の目標・概要：学校改革の事例をとりあげ、夏学期の「現代学校改革の諸問題」「学校経営実践の開発」で習得した理論や概念をもとに、その社会的、経済的、政治的文脈に位置づけた分析を行う。今年度はシカゴの学校改革をとりあげる予定である。 授業計画：Bryk, A.S.(et.al.)(2010) Organizing Schools for Improvement: Lessons from Chicago, Univ of Chicago Pr のほか、Consortium on Chicago School Research (CCSR) の研究成果を中心に読み進める。 授業の方法：テキストの読解とその内容に関するディスカッションにより進める。 成績評価方法：平常点及び学期末レポートで評価する。 教科書：Bryk, A.S.(et.al.)(2010) Organizing Schools for Improvement: Lessons from Chicago, Univ of Chicago Pr			
本学他研究科学生		履修可 (一名まで) / 履修不可	
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可 (一名まで) / 履修不可	

科目番号：302-32	担当教員：大桃 敏行	単位数：2	学期：冬
講義題目：教育政策実地研究		授業科目：教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・実地研究)	
Fieldwork in Education Policy			
授業の目標・概要: 教育政策・教育行政の現場におけるフィールドワーク（観察、調査、実習・インターンシップ的なものを含む）を通して、教育政策・教育行政の理論的・実践的問題を探究し、自らの研究構想を深めることを目標とする。 授業計画: 実地研究の方法の説明、研究計画の作成、中間報告、調査結果の報告と最終レポートの作成を行う。 授業の方法: 受講生はそれぞれの研究テーマに即して研究計画を作成し、フィールドワークを進める。具体的な進め方は、受講生の研究テーマや対象となるフィールドによって異なるため、それに即して検討する。現職者には自ら勤務する自治体や教育機関などで職務を行いながら、問題解決のための研究をアクションリサーチとして実施することを勧める。 成績評価方法: レポートによる。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：302-33	担当教員：勝野 正章	単位数：2	学期：冬
講義題目：学校経営実地研究		授業科目：教育内容開発・実践研究 (教育内容開発・実地研究)	
Fieldwork in School Management			
授業の目標・概要：学校経営の現場におけるフィールドワーク（観察、調査、実習・インターンシップ的なものも含む）を通して学校経営の理論的・実践的問題を研究する。 授業計画：最初に受講生各自の研究計画書に基づいて、研究目的・テーマ・方法・計画の適切性、妥当性について協議を行い、その後は研究計画にしたがって各自で研究を進める。12月に進捗状況を確認するための中間報告、年度末に最終報告を求める。 授業の方法：受講生の研究テーマや対象となるフィールドによって異なるため、個別に相談しながら決めていく。現職者には自らの勤務する教育機関などで職務を行いながら、問題解決のための研究をアクションリサーチとして実施することを勧める。 成績評価方法：中間報告、最終報告（レポート）によって評価する。 教科書：なし 参考書：なし 履修上の注意：なし その他：なし			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：302-34	担当教員：秋田 喜代美	単位数：2	学期：冬
講義題目：授業における学習研究		授業科目：教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	

Research on Learning in Classroom			
授業の目標・概要：リテラシーの習得と教室談話、授業、教師に関する論文の輪読と議論を行うことを通して、論文の読み方と最近の動向の検討を行なう。 授業計画：国語、英語などの読解・文章産出指導、科学数学リテラシー、メディアリテラシー、ソーシャルリテラシーに関して、この数年間に発刊された実証論文をある著者やトピックを中心にして参加者が選択し、それらを批判的に読むことを通して、議論を行う。 授業の方法：トピックスごとに複数名で分担しながら、学校における学習過程に関する近年のジャーナル論文を紹介しあい、議論する。とりあげる雑誌としては、Cognition and Instruction, Learning and Instruction, Journal of the Learning Sciences, Educational Psychologist, Journal of Educational Psychology, Teaching and Teacher Education 等を予定している。 成績評価方法：演習への参加および発表と討議、学期末小レポート 教科書：指定せず 参考書：ソイヤ、K（編）森敏昭・秋田喜代美（監訳）『学習科学ハンドブック』培風館 2009 秋田喜代美・藤江康彦（著）『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会 -2010 履修上の注意：本授業は、学校教育高度化専攻教職開発学コース、総合教育科学教育心理コースとのダブルコード授業となっている。 関連ホームページ：なし その他：なし			
本学他研究科学生		履修可	(名まで) / 履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可	(名まで) / 履修不可

科目番号：302-35	担当教員：秋田 喜代美	単位数：2	学期：夏
講義題目：授業の心理学		授業科目：教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	

Psychology of Teaching			
授業の目標・概要：教育心理学の中でも教授学習研究に関する基本的概念を最近の知見全体を紹介したテキストの購読と議論を通して学び議論する。 授業計画：教授学習に関するハンドブックの授業に関する研究10章分とOECDが2010年10月に出版した近年の学習研究と教育実践をつなぐ知見レビューを読み、学習研究を授業実践とどのようにつないで研究するんかという研究のあり方について議論するために文献購読を行う。 授業の方法：ガイダンスならびに発表担当者による章のポイントの報告と全員での議論と解説等に基づき毎回行う。 成績評価方法：演習への参加による報告や議論による平常点ならびに期末レポート 教科書：Mayer, R. & Alexander, P.(Eds)2011 "Handbook of Research on Learning and Instruction" NY: Routledge Dumont, H., Instance, D., & Benavides, F.(Eds) 2010 "The Nature of Learning:Using Research to Inspire Practice" Paris:OECD 参考書：R. K. ソーヤー (編) 森敏昭・秋田喜代美 (監訳) 2009『学習科学ハンドブック』培風館 pp490. 秋田喜代美・藤江康彦 2010『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会 PP265. 履修上の注意：基本的に毎回出席できることを前提として履修されたい。また英文の読み方や購読指導ではなく議論を重視したいので全員があらかじめ当該章を読んで批判的に議論することを前提としている。本授業は学校教育高度化専攻教職開発学コースの授業とのダブルコードとなっている。			
本学他研究科学生		履修可 (一名まで) / 履修不可	
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可 (一名まで) / 履修不可	

科目番号：302-36	担当教員：金田 卓也	単位数：2	学期：夏
講義題目：芸術教育の実践研究		授業科目：教育内容開発・理論研究 (芸術教育・発展研究)	

Practical Recerch on Art Education			
授業の目標・概要：芸術表現の基底にあるイメージ・想像力・身体感覚といったものは学校教育においてあまり重要視されてきたものではない。それは、図工・美術・音楽などの教科教育としての芸術教育が常に主要教科以外のものとして扱われてきたことにもあらわれている。教育において芸術表現について考えるということは学校教育そのもののあり方を問い直すことにもつながる。本講義では、他教科とは大きく異なる芸術教育の本質を理解した上で、学校教育における芸術教科の位置づけを明らかにするとともに、教科教育の枠を外した場における芸術活動の可能性についても検討する。履修院生それぞれの研究分野と芸術教育を関連付けて授業を進めていく。 「芸術 (art)」というきわめて多義的な言葉の意味するものは、語る者ひとりひとり、受け取る者ひとりひとりで大きく異なっている。本授業ではそうした問いを出発点に、芸術と教育をめぐる諸概念を概観し、芸術教育の具体的な実践事例を検討しながら考察を試みる。履修院生が実際に表現活動を試み、表現することの喜びとはなにかということを実際に体験することも本授業の重要な部分である。 教科教育としては主要ではない「芸術」教科であるが、子どもたちの生活を見ると、音楽やビジュアル・アートは欠かせないものになっている。従来の「音楽」「美術」という芸術概念ではなく、メディアやサブカルチャーと関連したより広い意味での「アート」も含めて芸術教育をとらえたい。最近の欧米の芸術教育実践の動向やアートセラピーについても紹介する。子どもたちの表現した作品事例や芸術教育プログラムの事例を取り上げ、芸術教育の実践方法を具体的に探っていく。 授業計画：第1回：イントロダクション 芸術教育に関する諸概念の整理 第2回：芸術教育の理念の歴史「芸術教育」・「美的教育」・「感性教育」・「アート教育」 第3回：想像力と創造力 Imagination and Creativity 第4回：メディアと芸術教育 Media and Art Education 第5回：諸外国における芸術教育の動向 Tom Anderson's "Art for Life" 第6回：多元文化的アプローチ Multicultural Art Education 第7回：学校外機関との連携 美術館教育 Museum Education 第8回：東洋の芸道思想と芸術教育 第9回：関連領域としてのアートセラピー Expressive Arts Therapy 第10回：実践事例研究 (1) 多様な造形表現 第11回：実践事例研究 (2) 共同制作 第12回：実践事例研究 (3) 教科の横断 総合的な学習と表現活動 第13回：課題発表 I 第14回：課題発表 II 第15回：総括 授業の方法：実際に表現活動を体験しながら授業を進める。 成績評価方法：授業への参加態度 (30%) 各回の小レポート (40%) 課題レポート (30%) 参考書：授業中に配布する。 履修上の注意：各自12色以上の色鉛筆を毎回準備すること。			
本学他研究科学生		履修可 (一名まで) / 履修不可	
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可 (一名まで) / 履修不可	

科目番号：302-37	担当教員：金田 卓也	単位数：2	学期：通年
講義題目：芸術教育論文指導		授業科目：教育内容開発・論文指導 (芸術教育・論文指導)	
Dissertation Research in Art Education			
授業の目標・概要：各自の研究課題に応じて、芸術教育学的観点から、調査研究の方法論と論文作成についての助言を行う。 授業の方法：個別指導を中心とするが、必要に応じてグループでの指導の機会も設ける。 成績評価方法：各自の目標達成度、研究成果によって総合的に評価を行う。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：302-38	担当教員：藤江 康彦	単位数：2	学期：夏
講義題目：授業研究の方法		授業科目：教育内容開発・理論研究 (教育内容開発・発展研究)	
Methodology of Research on Teaching			
授業の目標・概要：授業を対象とした研究には、「授業を理解する」ことを目的としたものと「授業を創造する」ことを目的としたものがある。本授業では、文献講読やレポートの作成、検討を通して、それぞれの目的に応じた授業研究の方法について理解するとともに、授業研究をめぐる実践者と研究者それぞれの専門性、その専門性に基づく実践者と研究者の協働のあり方について検討する。到達目標は、以下の通りである。 ・授業研究の目的と特徴について理解する。・授業の理解と創造をめぐる実践者と研究者の活動における専門性のあり方に気づく。 ・授業研究をめぐる実践者と研究者の関係性について探究する。 授業計画：I. ガイダンス ① ガイダンス ② 授業研究の目的 II. テキスト講読 ① 授業研究の新しい視点と方法 ② 新しい授業理論の構築 ③ 授業づくりの手がかり ④ 授業を理解する ⑤ 授業を計画する ⑥ 授業を実施する ⑦ 授業の効果を上げる ⑧ 授業を分析する ⑨ 授業を評価する ⑩ カリキュラムから授業を考える III. レポート作成と検討 ①レポート作成 ②検討会 ③まとめ 授業の方法：・本講義は集中講義のかたちで行う。 ・全体の3分の2はテキストの講読と議論に充て、3分の1はテキストの内容に関する各自の関心に応じたレポート作成の演習と全体での検討に充てる。・テキストの講読と議論は、参加者が個人ないしはグループで進める。 ・レポート作成は個人で進め、それを全体の前で発表して全員で検討する。・レポートの詳細については、授業内で説明する。 成績評価方法：授業参加（文献講読の担当、議論やレポート検討での発言）の様子、レポートの内容に基づき総合的に評価する。 教科書：高垣マユミ（編著）『授業デザインの最前線：理論と実践をつなぐ知のコラボレーション』北大路書房 参考書：秋田喜代美・藤江康彦『授業研究と学習過程』放送大学教育振興会 秋田喜代美・キャサリン・ルイス（編著）『授業の研究 教師の学習』明石書店 秋田喜代美・藤江康彦（編著）『はじめての質的研究法：教育・学習編』東京図書 高垣マユミ（編著）『授業デザインの最前線Ⅱ：理論と実践を創造する知のプロセス』北大路書房 日本教育方法学会（編）『日本の授業研究：Lesson Study in Japan』（上巻・下巻）学文社 履修上の注意：事前に教科書に目を通しておくことが望ましい。			
本学他研究科学生		履修可 （名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可 （名まで）／ 履修不可	

学校教育高度化専攻 学校開発政策コース

科目番号：303-01	担当教員：大桃 敏行	単位数：2	学期：夏
講義題目：教育政策基礎論		授業科目：学校開発政策・理論研究 (教育政策基礎研究)	

Foundation of Education Policy			
授業の目標・概要：教育政策研究の基本事項を学び、教育の公共管理システムの転換、教育行財政制度改革、教育政策の展開、教育保障における公教育の責任について理解を深めることを目標とする。授業計画に示す事項について講義し、討議を通じて理解を深める。日米比較の視点を含めて検討を進める。 授業計画：次の順で検討を進める。1) 教育政策と教育政策研究、2) 教育の組織化と教育の公共管理システムの形成、3) 教育行財政制度改革、4) 教育政策過程、5) 分権改革・規制改革と教育政策、6) スタンダード・アセスメント政策、7) 教育保障における公教育の責任。 授業の方法：講義を中心とし、内容について討議を行いながら授業を進める。 成績評価方法：討議への参加とレポートによる。 教科書：項目ごとにレジュメを作成し配布する。 参考書：項目ごとに授業で指示する。			
本学他研究科学生		履修可	(5名まで) / 履修不可
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可	(5名まで) / 履修不可

科目番号：303-02	担当教員：勝野 正章	単位数：2	学期：夏
講義題目：現代学校改革の諸問題		授業科目：学校開発政策・理論研究 (学校教育経営基礎研究)	

Issues in Contemporary School Reforms			
授業の目標・概要：現代日本の学校改革に関する政策と制度改革について広く知識を獲得するとともに、社会的、経済的、政治的文脈に位置づけた分析を行う。学校改革に関する理論的理解が可能になるよう、内外の研究を概観する。 授業計画：以下のようなテーマをとりあげる。1. 学校改革の基本モデル PA モデル アカウンタビリティ マネジリアリズム 市場（競争と選択）連携・協働・パートナーシップ 2. 学校改革の具体的問題 学校組織・文化改革リーダーシップ 学校評価 学校改善 教員評価 学校財務 授業の方法：講義とその内容に関するディスカッションにより進める。 成績評価方法：平常点及び学期末レポートで評価する。 教科書：なし 参考書：小川正人・勝野正章『教育経営論』（放送大学教育振興会） 履修上の注意：なし その他：なし			
本学他研究科学生		履修可	（1名まで）／ 履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可	（1名まで）／ 履修不可

科目番号：303-03	担当教員：金井 利之	単位数：2	学期：冬
講義題目：自治体の政策と組織機構（自治体行政聴査）	授業科目：学校開発政策・理論研究（教育政策発展研究）		
Policies and Organization of Local Governments			
授業の目標・概要：本授業では、現代日本の自治体行政の実態を理解することを目的とする。 本年度は、具体的に、川口市と鳩ヶ谷市の合併問題を探り上げ、政治的には大きな話題となることの多い合併問題が、行政実務的には、実際に、どのようになされているのかにつき、地検を深めることとする。ここ2カ年ほど、川口市に関しては総合計画・行政管理を題材として採り上げたところであるが、その延長線上にある。 授業計画：第1回 概要説明 第2回 川口市の合併問題 第3回～第5回 学生レポート発表 第6回～ 川口市等実務者からのヒアリング 授業の方法：演習形式である。 合併実務に携わった現職の職員の方その他の関係者をゲストスピーカーとしてお招きして、ヒアリング調査を行う。参加学生は、分担して、ヒアリング記録を作成して提出するものとする。ヒアリングの実施は、必ずしも負担の軽いものではないが、極めて重要な技能の育成に貢献するので、積極的な参加を期待したい。 成績評価方法：平常点（挨拶、質問、連絡、調整、聴き取りなど）、開講時提出レポート、ヒアリング記録報告書などによる。 教科書：なし 参考書：過去の演習の報告集 履修上の注意：参加の前提として、参加希望者は授業開講時に、任意の合併事例について、A4版10枚程度（1枚あたり1600字）のレポートを提出すること。なお、毎回の授業は、時間を超過すると予想されるので、注意されたい。 また、場合によっては、現地・川口市役所での聴き取りの開催や、現地踏査があり得るかもしれない。公共政策大学院生、法学部生、大学院法学政治学研究科生などとの合同になる予定であり、多彩な角度からの聴き取りの実施を期待している。 関連ホームページ：川口市のホームページは参照されたい その他：なし			
本学他研究科学生		履修可	（15名まで）／ 履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可	（3名まで）／ 履修不可

科目番号：303-04	担当教員：中村 圭介	単 位 数：2	学 期：夏
講義題目：ケーススタディの方法Ⅰ		授業科目：学校開発政策・理論研究 (教育政策発展研究)	

A Method of Case Study I			
授業の目標・概要：この講義では、これまでに私が行ってきた労使関係調査をもとに、仮説の設定、対象工場・企業・労働者へのアプローチ、インタビューの方法、事例研究のまとめ方などについて、具体的に教授する。 授業計画：1. 労使関係論の目的、枠組み、方法について論ずる。2. 工場調査報告を読み、その後、ケース・スタディの方法を論ずる。 授業の方法：1. 論文、教科書を読み、議論をする。2. その後、ケース・スタディの方法についての授業を行う。 成績評価方法：出席率、講義への積極性。 教科書：中村圭介『日本の職場と生産システム』東京大学出版会、1996年 参考書：J.T.Dunlop, Industrial Relations Systems 石田光男『仕事の社会科学』ミネルヴァ書房、2003年			
本学他研究科学生		履修可	(1名まで) / 履修不可
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可	(1名まで) / 履修不可

科目番号：303-05	担当教員：中村 圭介	単位数：2	学期：冬
講義題目：ケーススタディの方法Ⅱ		授業科目：学校開発政策・理論研究 (教育政策発展研究)	

A Method of Case Study Ⅱ			
授業の目標・概要：ケーススタディの方法Ⅰと同じ 授業計画：1. ホワイトカラーの仕事に関する調査報告書を読み、議論する。 2. ホワイトカラーについての調査方法を論ずる。 授業の方法：ケーススタディの方法Ⅰと同じ 成績評価方法：ケーススタディの方法Ⅰと同じ 教科書：中村圭介、石田光男編『ホワイトカラーの仕事と成果・人事管理のフロンティア』東洋経済新報社、2005年 参考書：ケーススタディの方法Ⅰと同じ。			
本学他研究科学生		履修可 (名まで) / 履修不可	
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可 (名まで) / 履修不可	

科目番号：303-06	担当教員：若林 直樹	単位数：2	学期：夏
講義題目：学校経営と組織論		授業科目：学校開発政策・理論研究 (学校教育経営発展研究)	
School Management and Organization			
授業の目標・概要：New Public Management（新公共経営）の観点からの、公立学校改革において組織のマネジメントやその改革は重要な問題となってきた。本論においては、組織の構造（仕組み）と過程（動き）の議論に基づき、組織マネジメントの課題について理解し、それが一般的な経営的文脈の変化（ネットワーク組織への変化など）を経ながら、現代の組織改革で取り組まれているかを考えたい。 授業計画：1．現代の学校改革と組織マネジメントの変革 NPM下での学校改革と組織マネジメント 組織論を通じて理解できること 2．組織の構造とデザイン 組織の定義、意思決定、環境適応 組織の基本構造とデザイン、ネットワーク化 3．ミクロ組織行動論 個人のリーダーシップとモチベーション 4．学習する組織 組織文化と組織学習 5．組織の変革について 組織のイノベーションと変革 6．ネットワーク組織下の学校組織改革 ネットワーク化する公立学校教育システムと学校改革 授業の方法：1）初回に、現代の学校改革をめぐる組織マネジメントを考える意義と本講義の主要課題についての説明を行う。 2）2回目以降に主要課題についての1つのテーマについて1コマほどで一般的な事例を踏まえて講義を行う。必要に応じて学校改革での組織マネジメントとの対象を行い理解を深める。 3）必要に応じて、講義でのトピックにかんするディスカッションを行う。また講義課題についての課題報告を求めることもある。 4）講義の結果を踏まえて、現代の学校改革における組織マネジメントを考察するレポートを提出してもらう。 成績評価方法：出席点（20％）＋レポート、中間課題報告（80％）の合計による 教科書：田尾雅夫他編『はじめて学ぶ経営学』ナカニシヤ出版、2005年。若林直樹『ネットワーク組織』有斐閣また、講義の中で、必要に応じて資料（日本語または英語）を配布したり参考文献（日本語または英語）を指示したりすることがある。 参考書：野村総合研究所編『経営用語の基礎知識』ダイヤモンド社、2001年。 履修上の注意：授業資料については、授業中もしくはウェブ上で適宜配布する。 関連ホームページ：http://www.econ.kyoto-u.ac.jp/~wakaba/lecture/lec-index.html その他：特になし。			
本学他研究科学生		履修可（5名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（5名まで）／ 履修不可	

科目番号：303-07	担当教員：大桃 敏行	単位数：2	学期：夏
講義題目：教育政策事例研究Ⅰ		授業科目：学校開発政策・実践研究 (教育政策事例研究)	

Case Study in Education PolicyⅠ			
授業の目標・概要：学校教育政策に関する事例研究を通して、教育政策・教育行政の理論的・実践的課題について理解を深めることを目標とする。今年度は学校の公共性と教育の平等保障をテーマとする。関連文献の分析を通じて学校の公共性や教育の平等保障に関する理解を深め、それに基づき教育政策の事例分析を行う。日米比較を中心とするが、受講生の研究テーマ・関心と関わって他の国もと取りあげる。 授業計画：次の順で授業を進める。 事例研究の方法の説明／学校の公共性や教育の平等保障に関する事前研究／日本と諸外国の教育政策の事例研究／分析結果のまとめ。 授業の方法：受講生は学校の公共性や教育の平等保障に関する文献や政策事例について報告し、討議を通じて理解を深める。報告内容と検討結果を最終レポートにまとめる。 成績評価方法：授業での報告、討議への参加、最終レポートによる。 教科書：特に指定しない。 参考書：ケネス・ハウ著（大桃敏行・中村雅子・後藤武俊訳）『教育の平等と正義』東信堂、2004年、藤田英典・大桃敏行編著『学校改革』日本図書センター、2010年など。			
本学他研究科学生		履修可（5名まで）／履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（5名まで）／履修不可	

科目番号：303-08	担当教員：大桃 敏行	単位数：2	学期：冬
講義題目：教育政策事例研究Ⅱ		授業科目：学校開発政策・実践研究 (教育政策事例研究)	

Case Study in Education Policy Ⅱ			
授業の目標・概要：教育行財政改革に関する事例研究を通して、教育政策・教育行政の理論的・実践的課題について理解を深めることを目標とする。今年度は中央・地方間関係をテーマとする。関連文献の分析を通じて教育行政における中央・地方間関係について理解を深め、それに基づき国際比較の観点から教育政策の事例分析を行う。対象国は日本のほかアメリカやイギリスなどを予定しているが、受講生の研究テーマ・関心と関わって決定する。 授業計画：次の順で授業を進める。 事例研究の方法の説明／教育行政における中央・地方間関係に関する事前研究／日本と諸外国の教育政策の事例研究／分析結果のまとめ。 授業の方法：受講生は教育行政における中央・地方間関係に関する文献や政策事例について報告し、討議を通じて理解を深める。報告内容と検討結果を最終レポートにまとめる。 成績評価方法：事例報告と討議への参加、最終レポートによる。 教科書：特に指定しない。 参考書：適宜、授業で指示する。			
本学他研究科学生		履修可 (5名まで) ／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可 (5名まで) ／ 履修不可	

科目番号：303-09	担当教員：勝野 正章	単位数：2	学期：夏
講義題目：学校経営実践の開発Ⅰ		授業科目：学校開発政策・実践研究 (学校教育経営事例研究)	
Developmental Study of School ManagementⅠ			
授業の目標・概要：学校経営・運営を中心的な対象とする事例研究を行いながら、アクションリサーチや臨床的研究に関する理解を深める。 授業計画：実践家からの聴き取りを中心としながら、訪問調査・参与観察も適宜実施する。実践家をゲストに招くほか、本セミナーに参加する現職の大学院生には事例（実践記録）の提供を求めることがある。 授業の方法：学校経営・運営の開発に関わる事例研究を実践家との共同で行うことに加えて、アクションリサーチや臨床的研究の方法論についても学ぶ。 成績評価方法：平常的及び学期末レポートによって評価する。 教科書：なし 参考書：なし 履修上の注意：なし その他：なし			
本学他研究科学生		履修可（一名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（一名まで）／ 履修不可	

科目番号：303-10	担当教員：勝野 正章	単位数：2	学期：冬
講義題目：学校経営実践の開発Ⅱ		授業科目：学校開発政策・実践研究 (学校教育経営事例研究)	
Developmental Study of School Management Ⅱ			
授業の目標・概要：学校改革の事例をとりあげ、夏学期の「現代学校改革の諸問題」「学校経営実践の開発」で習得した理論や概念をもとに、その社会的、経済的、政治的文脈に位置づけた分析を行う。今年度はシカゴの学校改革をとりあげる予定である。 授業計画：Bryk, A.S.(et.al.)(2010) Organizing Schools for Improvement: Lessons from Chicago, Univ of Chicago Pr のほか、Consortium on Chicago School Research (CCSR) の研究成果を中心に読み進める。 授業の方法：テキストの読解とその内容に関するディスカッションにより進める。 成績評価方法：平常点及び学期末レポートで評価する。 教科書：Bryk, A.S.(et.al.)(2010) Organizing Schools for Improvement: Lessons from Chicago, Univ of Chicago Pr			
本学他研究科学生		履修可 (一名まで) / 履修不可	
特別聴講学生 (お茶の水女子大学大学院学生)		履修可 (一名まで) / 履修不可	

科目番号：303-11	担当教員：大桃 敏行	単 位 数：2	学 期：冬
講義題目：教育政策実地研究		授業科目：学校開発政策・実践研究 (教育政策実地研究)	
Fieldwork in Education Policy			
授業の目標・概要:教育政策・教育行政の現場におけるフィールドワーク（観察、調査、実習・インターンシップ的なものを含む）を通して、教育政策・教育行政の理論的・実践的問題を探究し、自らの研究構想を深めることを目標とする。 授業計画:実地研究の方法の説明、研究計画の作成、中間報告、調査結果の報告と最終レポートの作成を行う。 授業の方法:受講生はそれぞれの研究テーマに即して研究計画を作成し、フィールドワークを進める。具体的な進め方は、受講生の研究テーマや対象となるフィールドによって異なるため、それに即して検討する。現職者には自ら勤務する自治体や教育機関などで職務を行いながら、問題解決のための研究をアクションリサーチとして実施することを勧める。 成績評価方法:レポートによる。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／履修不可	

科目番号：303-12	担当教員：勝野 正章	単位数：2	学期：冬
講義題目：学校経営実地研究		授業科目：学校開発政策・実践研究 (学校経営実地研究)	

Fieldwork in School Management			
授業の目標・概要：学校経営の現場におけるフィールドワーク（観察、調査、実習・インターンシップ的なものも含む）を通して学校経営の理論的・実践的問題を研究する。 授業計画：最初に受講生各自の研究計画書に基づいて、研究目的・テーマ・方法・計画の適切性、妥当性について協議を行い、その後は研究計画にしたがって各自で研究を進める。12月に進捗状況を確認するための中間報告、年度末に最終報告を求める。 授業の方法：受講生の研究テーマや対象となるフィールドによって異なるため、個別に相談しながら決めていく。現職者には自らの勤務する教育機関などで職務を行いながら、問題解決のための研究をアクションリサーチとして実施することを勧める。 成績評価方法：中間報告、最終報告（レポート）によって評価する。 教科書：なし 参考書：なし 履修上の注意：なし その他：なし			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：303-13	担当教員：大桃 敏行	単位数：2	学期：通年
講義題目：教育政策研究論文指導		授業科目：学校開発政策・論文指導	
Dissertation Research in Education Policy			
授業の目標・概要：修士課程の学生については修士論文の作成、執筆を目的とした指導を、博士課程の学生については博士論文の作成、執筆を目的とした指導を行う。 授業の方法：具体的な運営やスケジュール等については受講生と相談して決めていく。勝野准教授との共同の論文指導となる。 成績評価方法：平常点			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

科目番号：303-14	担当教員：勝野 正章	単位数：2	学期：通年
講義題目：学校経営研究論文指導		授業科目：学校開発政策・論文指導	
Dissertation Research in School Management			
授業の目標・概要：修士課程の院生については、修士論文の作成、執筆を目的とした指導を、博士課程の院生については、博士論文の作成、執筆を目的とした指導を行う。 授業計画：具体的な運営やスケジュール等については受講生と相談して決めていく。 授業の方法：教育政策研究論文指導（大桃教授）との共同の論文指導となる。 成績評価方法：平常点 教科書：なし 参考書：なし 履修上の注意：なし その他：なし			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／	履修不可
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／	履修不可

科目番号：303-15	担当教員：西原 博史	単位数：2	学期：夏
講義題目：学校法研究		授業科目：学校開発政策・理論研究 (学校教育経営発展研究)	
School law study			
授業の目標・概要：この講義においては、学校に関わる当事者相互の法的な関係をめぐる理論的把握の精緻化を目指す。裁判所が前提とする法的な関係を正確に理解するとともに、判例理論を取り込みつつ構造化できる理論の構築を最終目標に置く。 授業計画：学校を運営する地方公共団体、学校、教師、児童・生徒、親の間における法的な関係は、どのような構造を成しているのだろうか。特に義務制段階における児童・生徒や親の側は、自らの精神的発達に対する権力的な介入に直面し、自らを守るためのどのような権利を有しているのだろうか。 本年度は、学校内の関係にかかわる日本の判例を取り上げ、判例において確立してきた規範内容の確認と残された論点における理論的展望を探る。 授業の方法：今年度は日本語の裁判所判例を素材に用いる。各判決を受講生で分担し、内容紹介の報告を軸に、核となる推論の構造を把握するとともに、そこで取り上げられた視点を規範的に位置づける方法を探る。 成績評価方法：平常点（報告、出席、ディスカッションへの参加）＋ 期末レポート 教科書：特に用いない 参考書：テキストは最初の授業において指示する 履修上の注意：日本の教育法関係については各自開講前に基本的な理解を作り上げておくこと。			
本学他研究科学生		履修可 (5名まで) / 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可 (5名まで) / 履修不可	

科目番号：303-16	担当教員：西原 博史	単位数：2	学期：通年
講義題目：学校法研究論文指導		授業科目：学校開発政策・論文指導	

Disertation Research in School Law Study			
授業の目標・概要：この講義においては、学校に関わる当事者相互の法的な関係をめぐる理論的把握を精緻化するとともに、自らの理論的視点から理論構築を行うために必要な知識素材と推論能力の確立を目指す。既存の理論や判例が前提とする法的な関係を正確に理解した上で、新しい理論的地平を切り拓くために必要な素材を共有化することを最終目標に置く。 授業計画：各報告者がそれぞれ学校をめぐる法関係についての素材を選択して、既存の法関係把握とその問題点について報告する。 授業の方法：授業は報告および討論で構成される。 成績評価方法：平常点（報告、出席、ディスカッションへの参加）＋ 期末レポート 教科書：教科書は特に使用しない。 参考書：必要な参考文献は開講時に指示する。 履修上の注意：授業時間および開講方法（特に後期）については、受講者と相談しながら時間枠等を多少変更する可能性がある。			
本学他研究科学生		履修可（名まで）／ 履修不可	
特別聴講学生（お茶の水女子大学大学院学生）		履修可（名まで）／ 履修不可	

教員のオフィスアワー及び連絡方法一覧

総合教育科学専攻 基礎教育学専修 基礎教育学コース

教 員 名	オフィスアワー／連絡方法
川 本 隆 史	授業中に指示する／kawamoto@p.u-tokyo.ac.jp
金 森 修	要アポイントメント kanamoril@jcom.home.ne.jp
今 井 康 雄	授業中に指示する／imaiyapa@gmail.com ／03-5841-3935
小 玉 重 夫	授業中に指示する／skodama@p.u-tokyo.ac.jp
田 中 智 志	授業中に指示する／sgtanaka@p.u-tokyo.ac.jp
片 山 勝 茂	授業中に指示する／QZX04574@nifty.ne.jp
小 国 喜 弘	授業中に指示する／kokuni@p.u-tokyo.ac.jp

教員のオフィスアワー及び連絡方法一覧

総合教育科学専攻 教育社会学専修 比較教育社会学コース

教 員 名	オフィスアワー／連絡方法
白 石 さ や	予めメールでアポイントメントをとること s-shrsh@p.u-tokyo.ac.jp
恒 吉 僚 子	ゼミメールで伝達 tsuney@p.u-tokyo.ac.jp
本 田 由 紀	yuki@p.u-tokyo.ac.jp
橋 本 鉦 市	予めメールでアポイントメントをとること hasimoto@p.u-tokyo.ac.jp
中 村 高 康	予めメールでアポイントメントをとること tnaka@p.u-tokyo.ac.jp

教員のオフィスアワー及び連絡方法一覧

総合教育科学専攻 教育社会科学専修 生涯学習基盤経営コース

教 員 名	オフィスアワー／連絡方法
根 本 彰	火曜日午後 それ以外はメールでアポイントをとること anemoto@p.u-tokyo.ac.jp
牧 野 篤	随時、但し予めメールでアポイントメントをとること makino@p.u-tokyo.ac.jp
影 浦 峡	講義の前後、それ以外はあらかじめメールにてアポイントをとること kyo@p.u-tokyo.ac.jp
李 正連	水曜日第2時限（10：20～12：00） jylee@p.u-tokyo.ac.jp
新藤 浩伸	

教員のオフィスアワー及び連絡方法一覧

総合教育科学専攻 教育社会科学専修 大学経営・政策コース

教 員 名	オフィスアワー／連絡方法
山 本 清	コース事務室に問い合わせ
小 方 直 幸	あらかじめメールでアポイントをとること nogata@p.u-tokyo.ac.jp
両 角 亜希子	あらかじめメールでアポイントをとること morozumi@p.u-tokyo.ac.jp

教員のオフィスアワー及び連絡方法一覧

総合教育科学専攻 心身発達科学専修 教育心理学コース

教 員 名	オフィスアワー／連絡方法
佐々木 正 人	メールでアポイントをとる msasaki@p.u-tokyo.ac.jp
市 川 伸 一	ichikawa@p.u-tokyo.ac.jp
南風原 朝 和	haebara@p.u-tokyo.ac.jp
秋 田 喜代美	要アポイントメント kakita@p.u-tokyo.ac.jp
岡 田 猛	要アポイントメント okadatak@p.u-tokyo.ac.jp
遠 藤 利 彦	ghh00052@nifty.ne.jp
針 生 悦 子	メールでアポイントをとる haryu@p.u-tokyo.ac.jp

教員のオフィスアワー及び連絡方法一覧

総合教育科学専攻 心身発達科学専修 臨床心理学コース

教 員 名	オフィスアワー／連絡方法
下 山 晴 彦	h3954s@p.u-tokyo.ac.jp/要アポイントメント
中 釜 洋 子	hnakaga@p.u-tokyo.ac.jp/要アポイントメント
能 智 正 博	mnochi@p.u-tokyo.ac.jp/要アポイントメント
高 橋 美 保	TSN79503@biglobe.ne.jp/要アポイントメント

教員のオフィスアワー及び連絡方法一覧

総合教育科学専攻 心身発達科学専修 身体教育学コース

教 員 名	オフィスアワー／連絡方法
山 本 義 春	アポイントメントがあればいつでも良い yamamoto@p.u-tokyo.ac.jp
多 賀 巖太郎	アポイントメントがあればいつでも良い taga@p.u-tokyo.ac.jp
佐々木 司	アポイントメントがあればいつでも良い sasaki@p.u-tokyo.ac.jp
野 崎 大 地	アポイントメントがあればいつでも良い nozaki@p.u-tokyo.ac.jp
東郷 史治	アポイントメントがあればいつでも良い tougou@p.u-tokyo.ac.jp

教員のオフィスアワー及び連絡方法一覧

学校教育高度化専攻 教職開発コース

教 員 名	オフィスアワー／連絡方法
佐 藤 学	メールでアポイントをとる msato@p.u-tokyo.ac.jp
秋 田 喜代美	要アポイントメント kakita@p.u-tokyo.ac.jp
三 宅 なほみ	要アポイントメント nmiyake@p.u-tokyo.ac.jp

教員のオフィスアワー及び連絡方法一覧

学校教育高度化専攻 教育内容開発コース

教 員 名	オフィスアワー／連絡方法
金 森 修	要アポイントメント kanamori1@jcom.home.ne.jp
川 本 隆 史	授業中に指示する／kawamoto@p.u-tokyo.ac.jp
藤 村 宣 之	要アポイントメント fujimura@p.u-tokyo.ac.jp

教員のオフィスアワー及び連絡方法一覧

学校教育高度化専攻 学校開発政策コース

教 員 名	オフィスアワー／連絡方法
大 桃 敏 行	要アポイントメント omomo@p.u-tokyo.ac.jp
勝 野 正 章	予めメールでアポイントメントをとること mkatsuno@p.u-tokyo.ac.jp

事務室のオフィスアワー及び連絡方法一覧

学生支援チーム 平日 9:00～17:00
(12:00～13:00 閉室)

メール：

gakuseishien@p.u-tokyo.ac.jp

電話：

(大学院担当) 0 3 - 5 8 4 1 - 3 9 0 8

(留学生担当) 03-5841-3908 (10:00~16:45)

(教職担当) 0 3 - 5 8 4 1 - 3 9 0 9

(学部担当) 03-5841-3907

FAX :

0 3 - 5 8 4 1 - 3 9 1 4

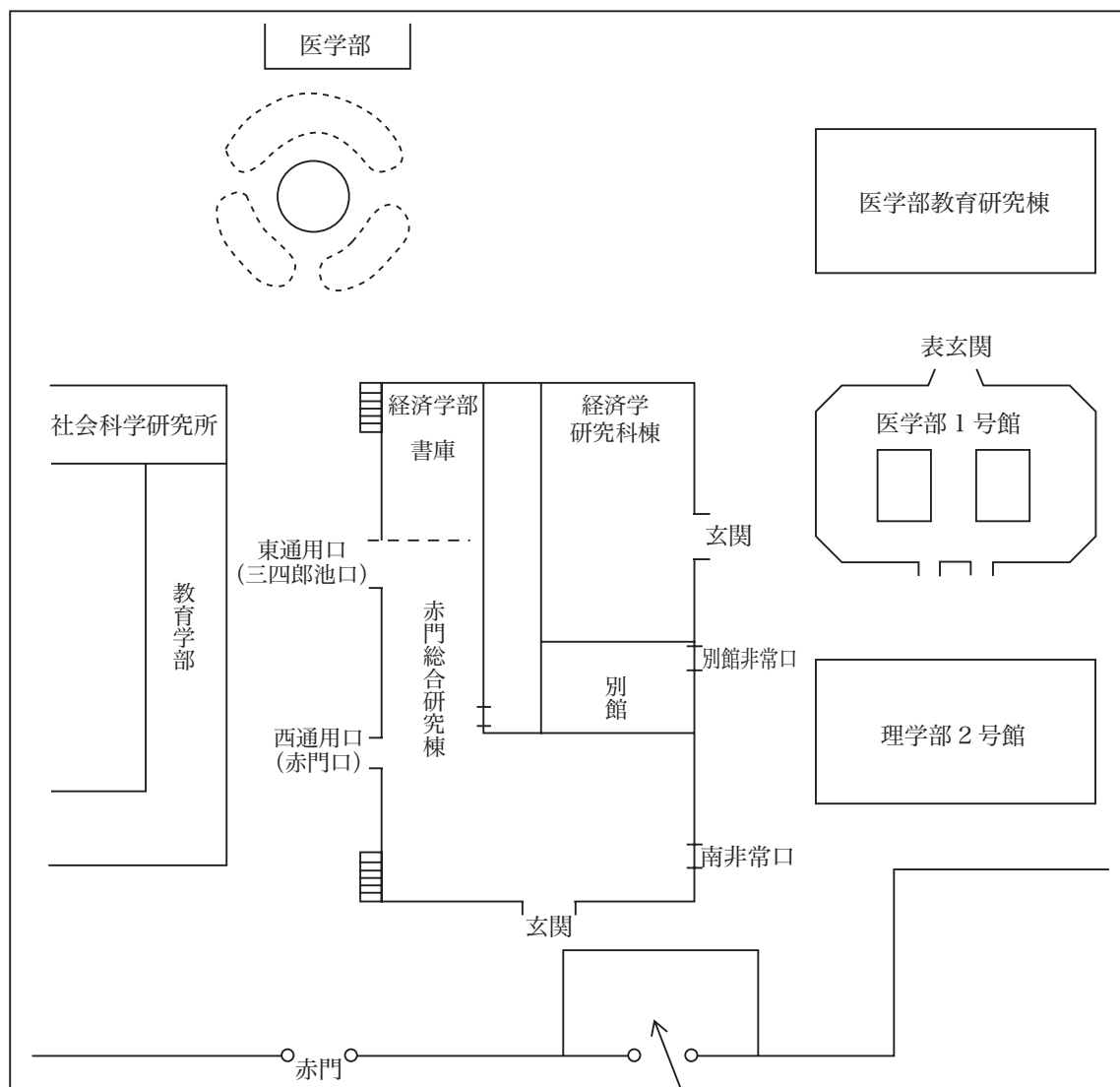
学生支援チームホームページ：

<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~edudaiga/index.htm>

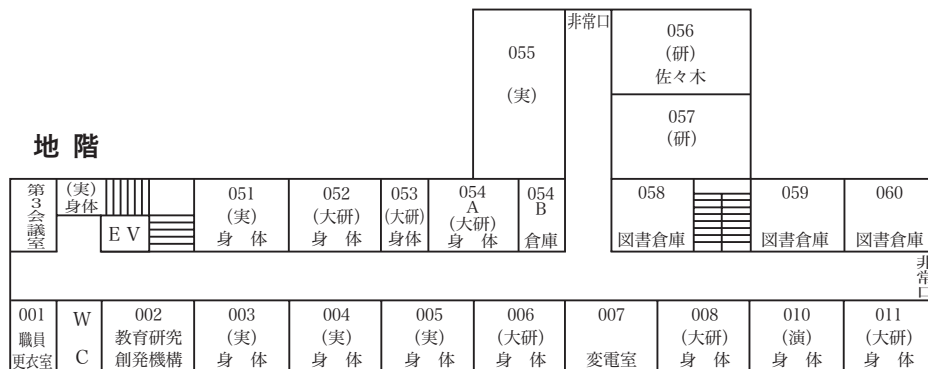
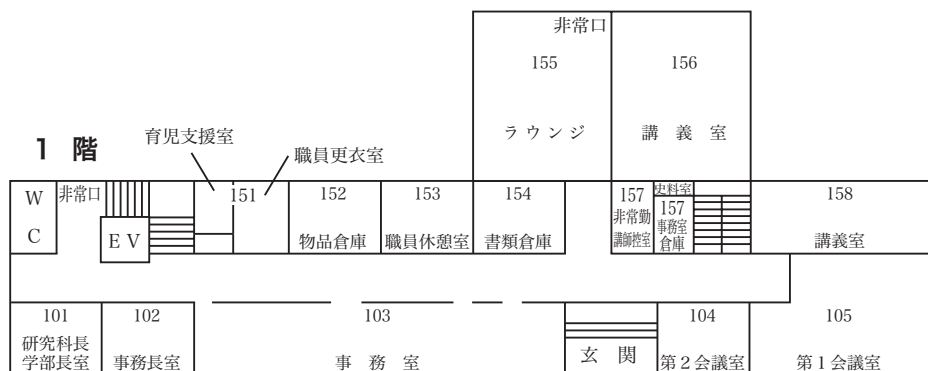
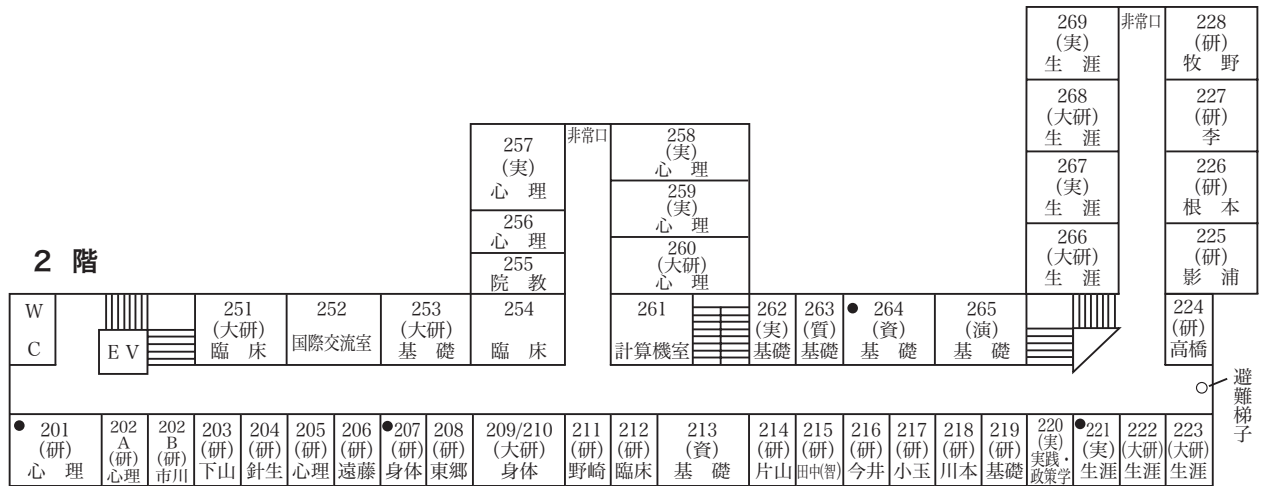
UT-mate URL :

<https://ut-gakumu.adm.u-tokyo.ac.jp/websys/campus>

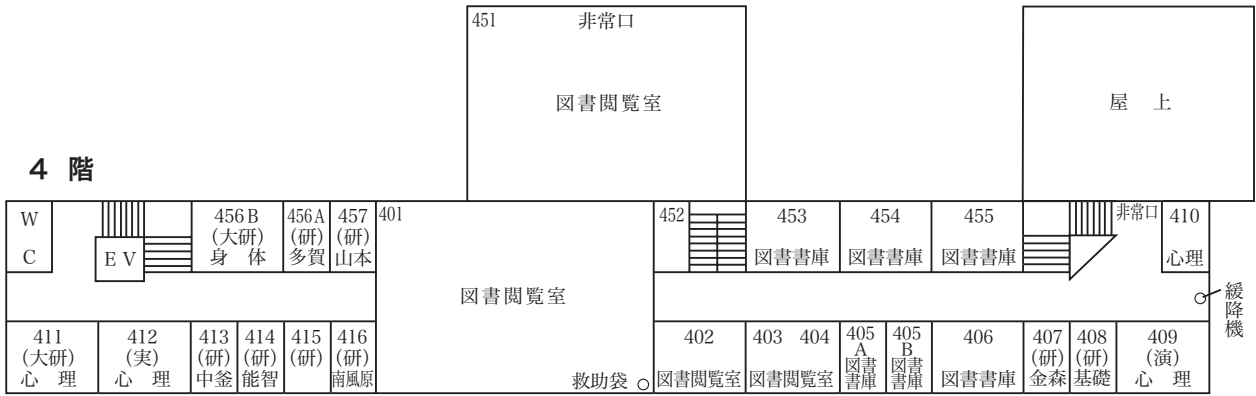
教育学部棟証明書発行機時間： 月～土曜日 9：00～20：00



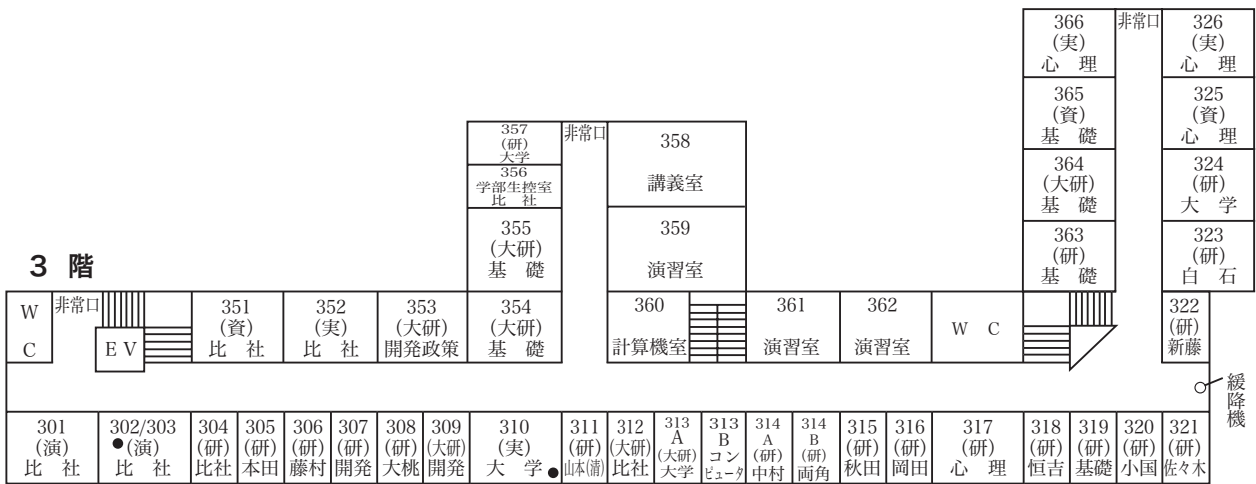
(仮称) 東京大学(本郷)
伊藤国際学術研究センター (工事中)



4 階

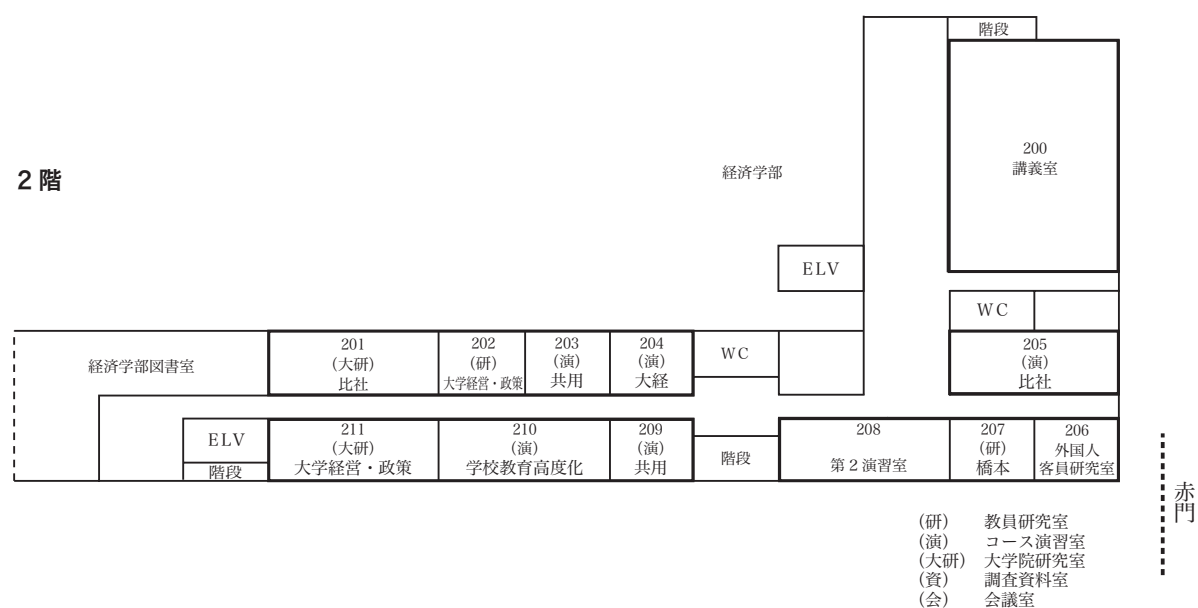


3 階



- (研)—— 教育研究室
(演)—— コース演習室
(実)—— 実験室
(大研)—— 大学院研究室
(資)—— 調査資料室
○ —— 避難器具
● —— コース事務室

3 階



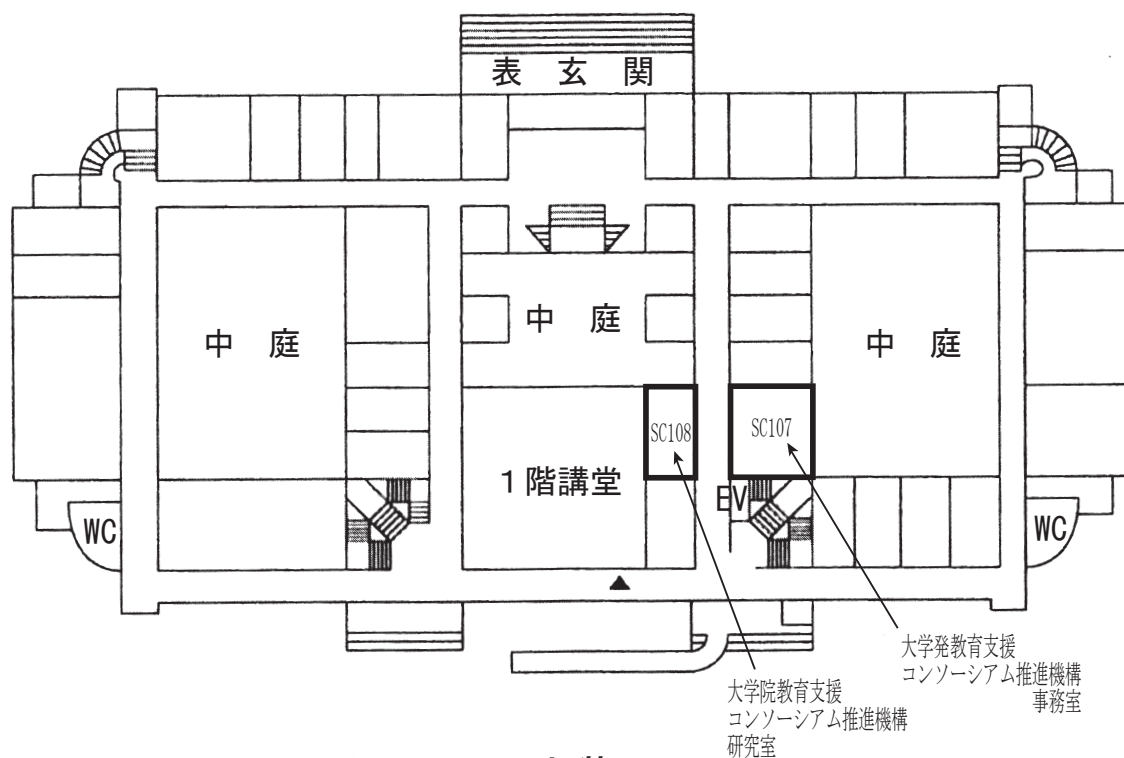
教育学部建物

弥生地区総合研究棟 3階

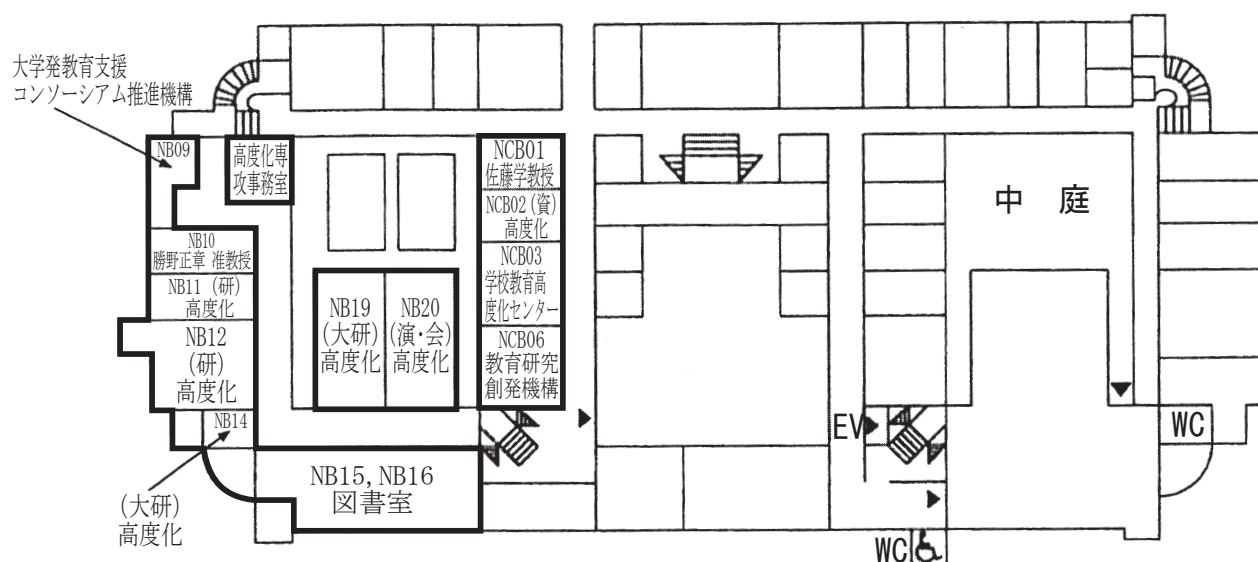


医学部 1 号館

1 階



地階





3 階

